

令和 7 年度
柏崎刈羽原子力発電所周辺
環境放射線監視調査結果

令和 8 年 9 月

東京電力ホールディングス株式会社

目 次

I	監視調査結果の概要	1
II	監視調査実施機関	4
III	監視調査方法	4
1	監視調査項目、監視調査地点及び頻度	4
2	環境試料中の放射能測定試料数	8
3	測定装置及び測定方法	9
4	表示単位及び測定値の取扱い方法	11
IV	監視調査結果	12
1	空間放射線	12
(1)	空間放射線量率	12
(2)	積算線量	18
2	環境試料中の放射能	22
(1)	浮遊じんの全ベータ放射能	22
(2)	核種分析（機器分析）	24
(3)	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	24
(4)	核種分析（トリチウムの放射化学分析）	24
V	参 考	27
	海水放射能モニタによる測定	27
図 1	柏崎刈羽原子力発電所の運転保守状況（令和 7 年度）	28
表 1	放射性物質の放出状況（令和 7 年度）	32
表 2	放射性物質の放出による推定実効線量	33
表 3	風向、風速、大気安定度月別記録	33
表 4	気温、降雨雪量、最大積雪深月別記録	34
表 5	気象要素の観測時間	35
図 2	風 配 図	35

添 付 資 料

付表 1	空間放射線量率の月別測定結果	39
付表 2	空間放射線量率の四半期別測定結果	42
付表 3	積算線量の測定結果	44
付表 4	積算線量の四半期別測定結果	45
付表 5	浮遊じんの月別全ベータ放射能測定結果	48
付表 6	浮遊じんの四半期別全ベータ放射能測定結果	50
付表 7	環境試料の核種分析結果	52
付表 8	環境試料の核種濃度検出下限値	57
付表 9	海水放射能モニタの月別測定結果	58
付表 10	モニタリングポスト・環境試料等の地点等変更履歴	61

事 象 報 告

事象報告 1	積算線量の測定結果について	67
事象報告 2	大根の核種分析結果（ストロンチウム 90 について）	74
事象報告 3	キャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90 について）	76

参 考 資 料

参考資料 1	令和 7 年度第 2 四半期の空間放射線量率の測定結果について	81
参考資料 2	令和 7 年度第 2 四半期の積算線量の測定結果について	85
参考資料 3	令和 7 年度第 2 四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について	88
参考資料 4	令和 7 年度第 4 四半期の積算線量の測定結果について	91
参考資料 5	令和 7 年度第 4 四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について	97
参考資料 6	環境試料中の人工放射性核種濃度の経年変化	106

I 監視調査結果の概要

東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所の令和7年度の運転状況は、以下のとおりである。

1号機は、平成23年8月6日から第16回定期事業者検査を実施中である。

2号機は、平成19年2月19日から第12回定期事業者検査を実施中である。

3号機は、平成19年9月19日から第10回定期事業者検査を実施中である。

4号機は、平成20年2月11日から第10回定期事業者検査を実施中である。

5号機は、平成24年1月25日から第13回定期事業者検査を実施中である。

6号機は、平成24年3月26日から第10回定期事業者検査を実施していたが、令和8年2月16日に発電を開始した。また、令和8年2月20日から2月23日の間、起動の過程における温度及び圧力の変化や設備の運転による異常の有無等の確認を実施するため、中間停止を行った。

その後、令和8年2月25日に発電を再開し、令和8年3月3日から定格熱出力一定運転に移行したが、発電機微小地絡継電器動作警報の発報に伴う調査のため、令和8年3月13日に出力降下を開始し、令和8年3月14日に発電を停止した。この警報は、発電機と接地装置を繋ぐ接地導体の破損により接地導体への電流が流れなくなり、微小地絡継電器が動作したことで発報したものである。

その後、令和8年3月22日に発電を再開し、令和8年3月27日から定格熱出力一定運転に移行した。

7号機は、平成23年8月23日から第10回定期事業者検査を実施中である。

令和7年度に実施した柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査結果の概要は、以下のとおりである。

令和7年度の測定結果は、次表に示す2つの対照期間の測定値の範囲と比較して、3つに区分した。

ただし、空間放射線の対照期間の測定値との比較にあたっては、計数誤差を考慮せず、〔超える〕又は〔範囲内〕に区分した。

対照期間	・直 近：直近5カ年（令和2～令和6年度） ・事 前：事前調査期間（調査開始～昭和59年12月）
区 分	・超える：測定結果の計数誤差を加味しても対照期間の測定値の上限値を超える場合 ・同程度：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えるが、計数誤差を加味すると対照期間の測定値の上限値と同程度となる場合 ・範囲内：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えない場合

1 空間放射線

(1) 空間放射線量率 〈詳細はp12 参照〉

発電所敷地境界にはほぼ等間隔に設置した9局のモニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション検出器）により連続測定を行った。

各測定地点の年間最高値は、1時間値で82～97 nGy/h、10分値で92～107 nGy/hであり、対照期間の測定値の範囲内であった。

(2) 積算線量 〈詳細は p18 及び p 67 事象報告 1 参照〉

発電所敷地境界のモニタリングポストに併設した 9 地点及び発電所周辺の 9 地点に蛍光ガラス線量計を設置し、3 か月ごとの積算線量を測定した。

各測定地点の年間積算線量(365 日換算)は、0.45～0.52 mGy であり、MP－9 において対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

対照期間の測定値の範囲を超えた原因については、当発電所からの影響ではなく雷による影響の可能性が考えられた。

2 環境試料中の放射能

(1) 浮遊じんの全ベータ放射能 〈詳細は p22 参照〉

MP－1、MP－5 及び MP－8 において大気中の浮遊じんをろ紙に 6 時間集じんし、集じん終了直後及び 5 時間後に ZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器により測定を行った。

各測定地点の集じん終了直後の年間最高値は 4.0 Bq/m³ であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

また、集じん終了 5 時間後の年間最高値は 0.23 Bq/m³ であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

(2) 核種分析(機器分析) 〈詳細は p24 参照〉

採取した全試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いた γ 線スペクトロメータにより測定を行った。

その結果、土壌(陸土)、農産物(米(精米))、指標生物(松葉)、海産物(マダイ、ヒラメ)及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から従来より検出されているセシウム 137 が検出されたが、検出された値は、対照期間の測定値の範囲内であった。

検出されたセシウム 137 は、当発電所からの影響ではなく、過去に行われた核実験等に由来するものと考えられた。

(3) 核種分析(ストロンチウム 90 の放射化学分析) 〈詳細は p24、p74 事象報告 2 及び p76 事象報告 3 参照〉

陸水(飲料水)、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、キャベツ、大根(根部))、海水、海産物(マダイ、サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)について、ストロンチウム 90 の測定を行った。

その結果、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ、大根(根部))、海水及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から同核種が検出され、農産物(キャベツ、大根(根部))については対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

いずれも、検出されたストロンチウム 90 は、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等に由来するものと考えられた。

なお、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、大根(根部))、海水、海産物(サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)については平成 21 年度より、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ)、海産物(マダイ)については令和元年度から測定を開始した。

(4) 核種分析（トリチウムの放射化学分析）〈詳細は p24 参照〉

陸水(飲料水)及び海水の試料についてトリチウムの測定を行った。

その結果、陸水(飲料水)及び海水から同核種が検出され、検出された値は、陸水(飲料水)については対照期間(直近)の測定値と同程度であった。

Ⅱ 監視調査実施機関

東京電力ホールディングス株式会社 柏崎刈羽原子力発電所

Ⅲ 監視調査方法

1 監視調査項目、監視調査地点及び頻度

監視調査項目、監視調査地点及び頻度は、表1及び図1のとおりである。

表1 監視調査項目、監視調査地点及び頻度

(1) 空間放射線

調 査 項 目	調 査 地 点	測 定 機 器	頻 度	備 考
空間放射線量率	MP-1 ～ MP-9	モニタリングポスト	連 続 測 定	
積 算 線 量	MP-1 ～ MP-9 柏崎市 椎谷 刈羽村 滝谷 柏崎市西山町坂田 刈羽村 井岡 柏崎市 曾地 刈羽村 上高町 柏崎市 与三 柏崎市 上原 柏崎市 松波	蛍光ガラス線量計	年 4 回	4～6月、7～9月、 10～12月、1～3月の 3か月積算線量

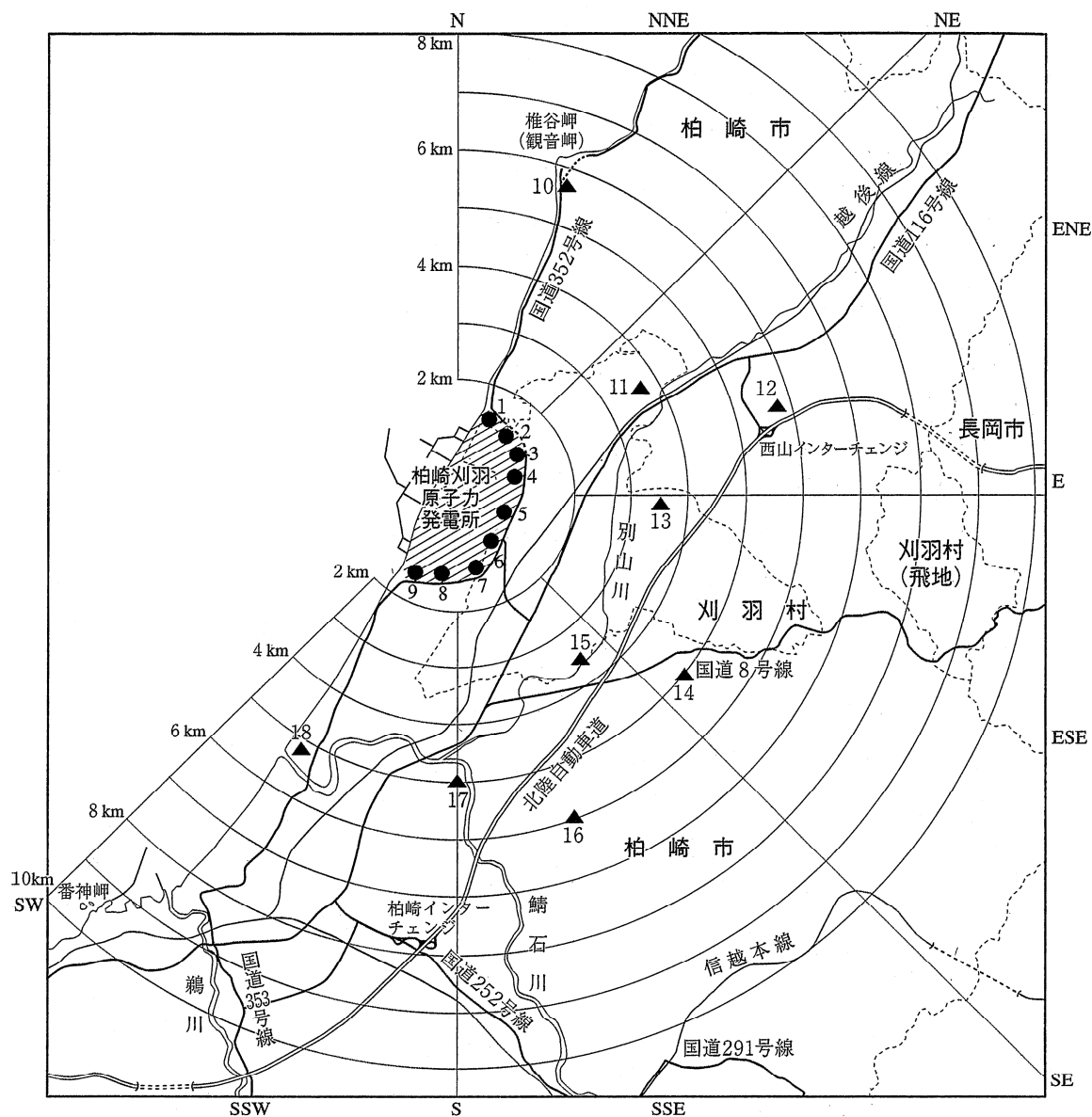
(2) 環境試料

試 料 名			採 取 地 点	頻 度	採 取 月	備 考
陸 上 試 料	浮遊じん	6時間集じん	M P - 1	連 続	毎 月	
		1 か 月 間 集じんろ紙	M P - 5 M P - 8	年 12 回	毎 月	
	陸 水	飲 料 水	刈羽村 刈 羽 柏崎市 荒 浜	年 4 回	4、7、 10、2月	
	土 壤	陸 土	敷地内(MP-2付近) 敷地内(MP-8付近)	年 2 回	5、11月	0～5cm
	農 産 物	米 (精 米)	刈羽村 勝 山 刈羽村 高 町	年 1 回	10月	
		キャベツ	刈羽村 勝 山 刈羽村 高 町	年 1 回	1月	
		大 根 (根 部)	刈羽村 勝 山 刈羽村 高 町	年 1 回	12月	
	指標生物	松 葉	敷地内(発電所北側) 敷地内(発電所南側)	年 4 回	5、8、 11、3月	
海 洋 試 料	海 水		放水口(南)付近 放水口(北)付近	年 4 回	5、7、 10、2月	表層水
	海 底 土		放水口(南)付近 放水口(北)付近	年 2 回	5、10月	表層土
	海 産 物	マ ダ イ	発電所前面海域	年 1 回/種	5月	
		ヒ ラ メ			5月	
		サ ザ エ	柏崎市 椎谷岬 (観音岬)	年 1 回	7月	
		ワ カ メ	放水口(南)付近 放水口(北)付近	年 1 回	5月	
	指標生物	ホンダワラ類	放水口(南)付近 放水口(北)付近	年 4 回	5、9、 11、2月	

(注) 核種分析で対象とした核種は、Mn-54、Co-58、Co-60、I-131 (キャベツ、ワカメ、ホンダワラ類のみ)、Cs-134、Cs-137、Sr-90 (飲料水、陸土、米、キャベツ、大根、海水、マダイ、サザエ、ホンダワラ類のみ) 及び H-3 (飲料水、海水のみ) である。

なお、参考値として、天然放射性核種の Be-7 及び K-40 を報告した。

図 1 (1) 空間放射線調査地点

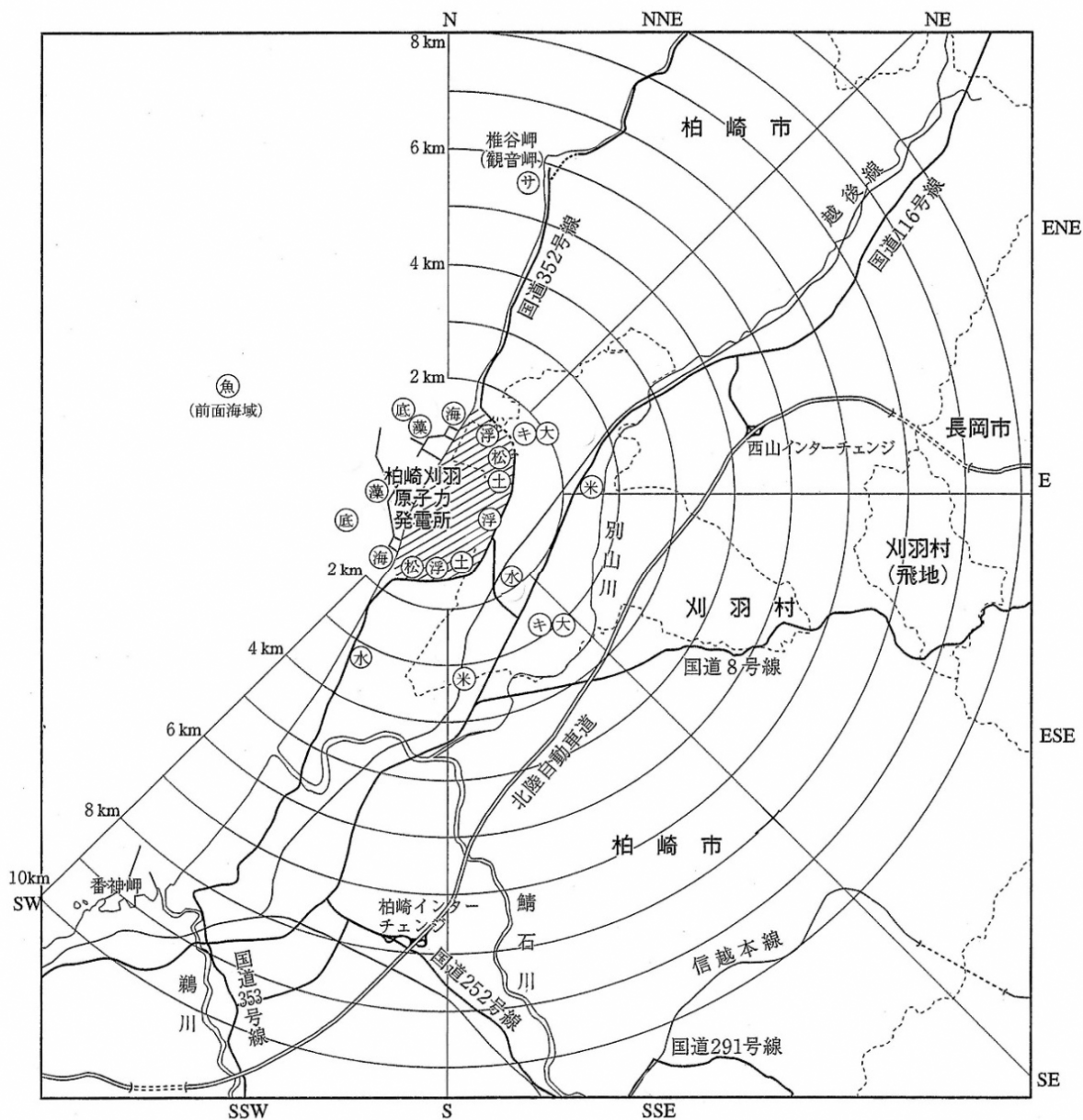


No.	調査地点	方位	距離(km)	No.	調査地点	方位	距離(km)
1	● MP-1	NNE	1.5	10	▲ 柏崎市椎谷	NNE	5.3
2	● MP-2	N E	1.5	11	▲ 刈羽村滝谷	N E	3.4
3	● MP-3	E NE	1.3	12	▲ 柏崎市西山町坂田	E NE	5.6
4	● MP-4	E	1.1	13	▲ 刈羽村井岡	E	3.5
5	● MP-5	E SE	0.9	14	▲ 柏崎市曾地	S E	5.0
6	● MP-6	S E	1.2	15	▲ 刈羽村上高町	S E	3.8
7	● MP-7	S SE	1.4	16	▲ 柏崎市与三	S SE	6.0
8	● MP-8	S	1.5	17	▲ 柏崎市上原	S	4.9
9	● MP-9	S SW	1.6	18	▲ 柏崎市松波	S SW	5.6

● モニタリングポスト及び蛍光ガラス線量計ポスト

▲ 蛍光ガラス線量計ポスト

図 1 (2) 環境試料採取地点



記号	環境試料名	採取地点	記号	環境試料名	採取地点
(浮)	浮遊じん	MP-1、MP-5、MP-8	(松)	松葉	発電所北側 発電所南側
(水)	飲料水	刈羽村 刈羽 柏崎市 荒浜	(海)	海水	放水口(南)付近 放水口(北)付近
(土)	陸土	MP-2 付近 MP-8 付近	(底)	海底土	放水口(南)付近 放水口(北)付近
(米)	精米	刈羽村 勝山町 刈羽村 高町	(魚)	魚類	発電所前面海域
(キ)	キャベツ	刈羽村 勝山町 刈羽村 高町	(サ)	サザエ	柏崎市 椎谷岬 (観音岬)
(大)	大根	刈羽村 勝山町 刈羽村 高町	(藻)	ワカメ、 ホンダワラ類	放水口(南)付近 放水口(北)付近

2 環境試料中の放射能測定試料数

環境試料中の放射能測定試料数は、表2のとおりである。

表2 環境試料中の放射能測定試料数

試料名			試料数	核種分析		
				機器分析	ストロンチウム 90	トリチウム
陸上試料	浮遊じん		36	36	—	—
	陸水	飲料水	8	8	1	8
	土壌	陸土	4	4	1	—
	農産物	米(精米)	2	2	1	—
		キャベツ	2	2	1	—
		大根(根部)	2	2	1	—
	指標生物	松葉	8	8	—	—
海洋試料	海水		8	8	1	8
	海底土		4	4	—	—
	海産物	マダイ	1	1	1	—
		ヒラメ	1	1	—	—
		サザエ	1	1	1	—
		ワカメ	2	2	—	—
	指標生物	ホンダワラ類	8	8	1	—
計			87	87	9	16

3 測定装置及び測定方法

測定装置及び測定方法は、表3のとおりである。

表3 測定装置及び測定方法

(1) 空間放射線

項 目	測 定 装 置	測 定 方 法
空間放射線量率	モニタリングポスト ・2" φ×2" NaI(Tl) シンチレーション検出器 エネルギー補償方式 温度補償方式 検出器加温装置付	測 定 法: 原子力規制庁編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成29年改訂)に準拠 測 定 位 置: 地上1.5m 校 正 線 源: Cs-137
積 算 線 量	蛍光ガラス線量計 ・素子主成分 銀活性リン酸塩 蛍光ガラス線量計リーダー	測 定 法: 文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成14年制定)に準拠 測 定 本 数: 1地点につき3素子 積 算 期 間: 3か月 線量計収納箱: (材質) 塩化ビニル 測 定 位 置: 地上1.5m 校 正 線 源: Cs-137

(2) 環境試料中の放射能

項 目	測 定 装 置	測 定 方 法
全ベータ放射能 (浮遊じん)	空气中放射性塵埃測定装置 ・ZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器(50mm φ) ・遮蔽体	測 定 法: 原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」(令和4年制定)に準拠 集じん時間: 6時間集じん(原則として連続) 集じん終了直後に10分間、及び5時間後に10分間測定 集じん方式: 間欠移動式 ろ 紙: HE-40T、長尺 吸 引 流 量: 約200NL/分 空気吸引口: 地上約2m 校 正 線 源: Cl-36

項 目	測 定 装 置	測 定 方 法
核 種 分 析 (機器分析)	ゲルマニウム半導体検出装置 ・高純度ゲルマニウム半導体検出器 相対効率 約 35% (I-131) 約 40% (I-131 を除く) 分 解 能 約 1.9keV ・多重波高分析器 ・データ処理装置 ・遮蔽体	測 定 法: 原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」(令和 2 年改訂) に準拠 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」(昭和 57 年制定) に準拠 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」(平成 8 年改訂) に準拠 測定試料形態: 浮遊じん: 灰化物 1 か月分の集じんろ紙を纏めたもの 陸 水: 蒸発残留物 土 壤: 乾燥細土 農 産 物: 灰化物 指標生物(松葉): 灰化物 海 水: リンモリブデン酸アンモニウム-二酸化マンガン共沈法による沈殿物 海 底 土: 乾燥細土 海 産 物: 灰化物 指標生物(ホタテ類): 灰化物 ただし、I-131 については、乾燥試料で測定 測 定 容 器: U-8 容器 測 定 時 間: 80,000 秒
核 種 分 析 (ストロンチウム 90)	低バックグラウンド自動測定装置	測 定 法: 文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」(平成 15 年改訂) に準拠 測定試料皿: 25 mm φ ステンレススチール皿 測 定 時 間: 60 分
核 種 分 析 (トリチウム)	低バックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測 定 法: 文部科学省編「トリチウム分析法」(令和 5 年改訂) に準拠 測 定 容 器: 145mL テフロンバイアル 測 定 時 間: 500 分

4 表示単位及び測定値の取扱い方法

表示単位及び測定値の取扱い方法は、表4のとおりである。

表4 表示単位及び測定値の取扱い方法

(1) 空間放射線

項 目	表示単位	測 定 値 の 取 扱 い 方 法
空間放射線量率	nGy/h	表示の数値は、10分値及び1時間値である。表示は整数とし、小数第1位を四捨五入してある。 10分値は、10分間の計測値からの1時間換算値である。 1時間値は、正時から次の正時までの1時間の積算値である。 なお、照射線量単位から空気吸収線量単位への換算係数は、JIS Z 4511:2024による。
積 算 線 量	mGy	3か月積算値は91日に、年間積算値は365日に換算してある。 表示は小数第2位までとし、小数第3位を四捨五入してある。 なお、照射線量単位から空気吸収線量単位への換算係数は、JIS Z 4511:2024による。

(2) 環境試料中の放射能

区分	試料名	表示単位	測 定 値 の 取 扱 い 方 法
全ベータ放射能	浮遊じん	Bq/m ³	表示は原則として有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入する。
核 種 分 析	浮遊じん	Bq/m ³	① 表示は原則として有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入する。 ② 検出下限値は、次のとおりとする。 ア 機器分析における検出下限値は、国の方法（※）にならない Cooper の方法により、放射線計測時の正味の計数値がその計数誤差（計数に係る不確かさ）の3倍に等しくなるときの放射能濃度とする。 （※）原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリー」（令和2年改訂） イ 放射化学分析法における検出下限値は、放射線計測時の正味の計数値がその計数誤差（計数に係る不確かさ）の3倍に等しくなるときの放射能濃度とする。 ウ 検出下限値未満の測定値は、「*」で表す。
	陸 水	Bq/L	
	土 壌	Bq/kg乾	
	農 産 物	Bq/kg生	
	指標生物（松葉）	Bq/kg生	
	海 水	Bq/L	
	海 底 土	Bq/kg乾	
	海 産 物	Bq/kg生	
	指標生物（ホンダワラ類）	Bq/kg生	

IV 監視調査結果

1 空間放射線

(1) 空間放射線量率

発電所敷地境界にはほぼ等間隔に設置した9局のモニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション検出器）により連続測定を行った。これらの測定結果は表5のとおりであり、月間平均値及び月間変動幅を図2に示す。また、降水量や積雪深との関係を図3に示す。

各測定地点の年間平均値は31～39 nGy/hであった。年間最高値は1時間値で82～97 nGy/h、10分値で92～107 nGy/hであり、各地点の測定結果は、対照期間の測定値の範囲内であった。

なお、各測定地点の年間最高値は、いずれも降水時に出現したものである。

表5 空間放射線量率の測定結果

(単位：nGy/h)

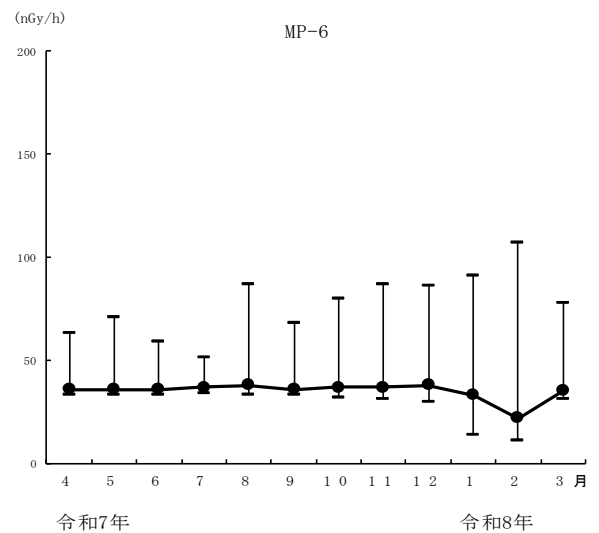
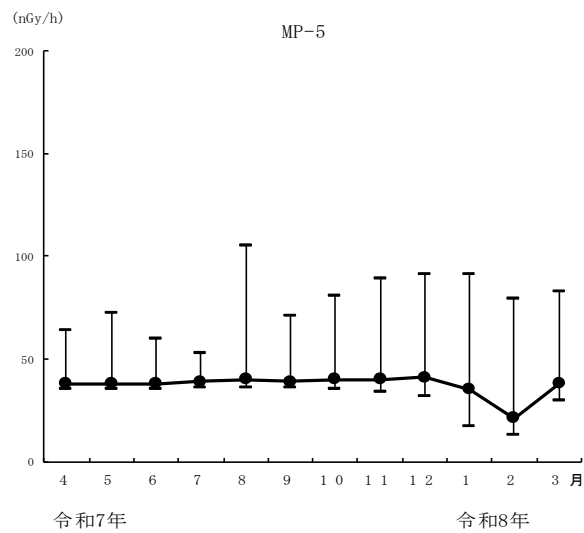
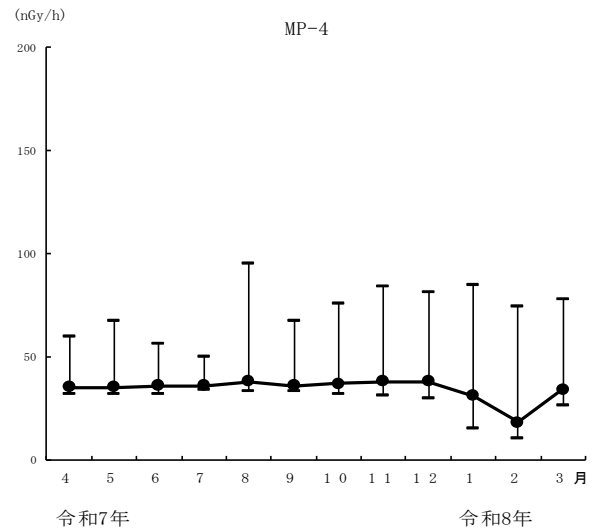
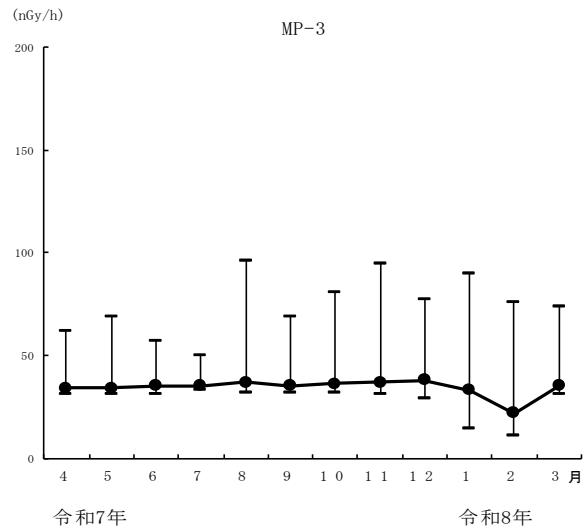
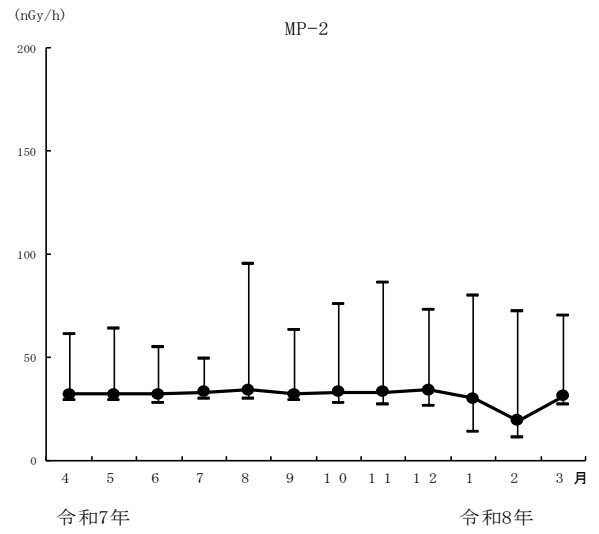
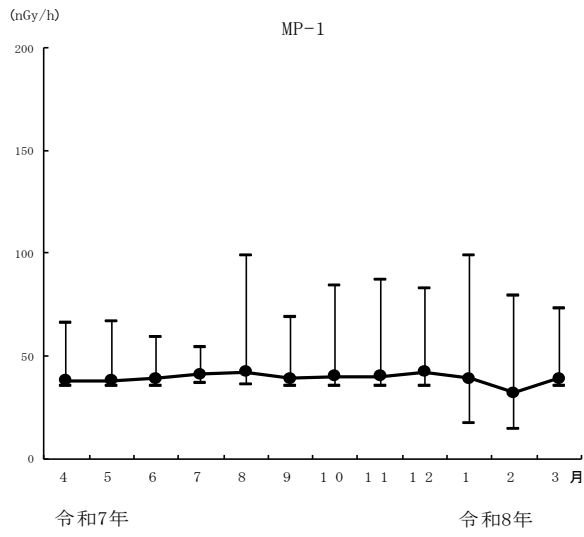
測定地点 (モニタリングポスト)	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)		
	測定時間 (時間)	平均値	測定値の範囲		< 直 近 > 直近5カ年 (R2～R6年度)		< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
			1時間値	10分値	1時間値	10分値	
MP－1	8,635	39	14～97	14～99	15～111	15～118	16～141
MP－2	8,616	31	11～86	11～95	10～100	10～111	6～130
MP－3	8,619	34	11～88	11～96	10～105	10～116	5～147
MP－4	8,646	34	11～82	10～95	10～103	9～108	5～146
MP－5	8,547	37	13～88	13～105	11～114	11～123	5～160
MP－6	8,644	35	11～85	11～107	10～119	10～133	5～174
MP－7	8,644	34	11～84	11～97	10～118	10～133	5～151
MP－8	8,613	34	12～86	12～92	11～115	11～129	5～143
MP－9	8,648	32	12～96	11～102	12～122	11～135	7～140
全地点	計 77,612	34	11～97	10～107	10～122	9～135	5～174

(注) 1 平均値及び事前調査期間の測定結果は、1時間値である。

2 モニタリングポスト全9局は、令和3年10月から12月までの期間に検出器の更新を行った。

図2 空間放射線量率の月間平均値及び月間変動幅

(測定期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日)



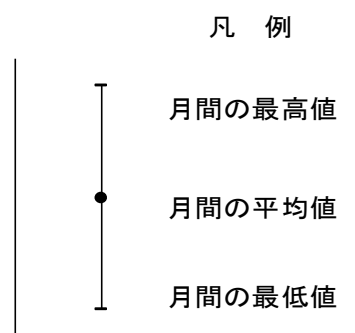
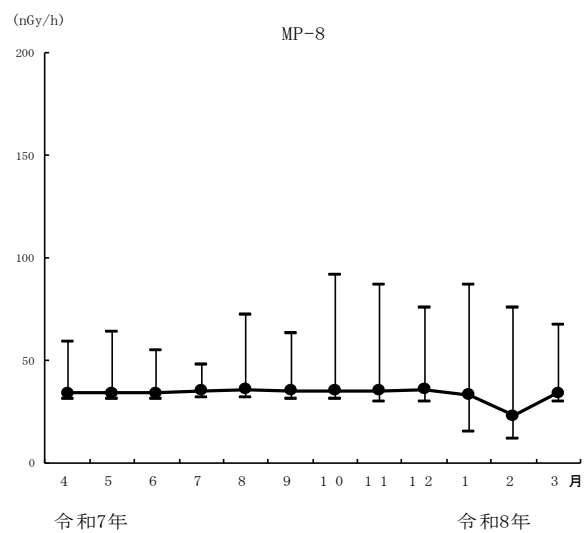
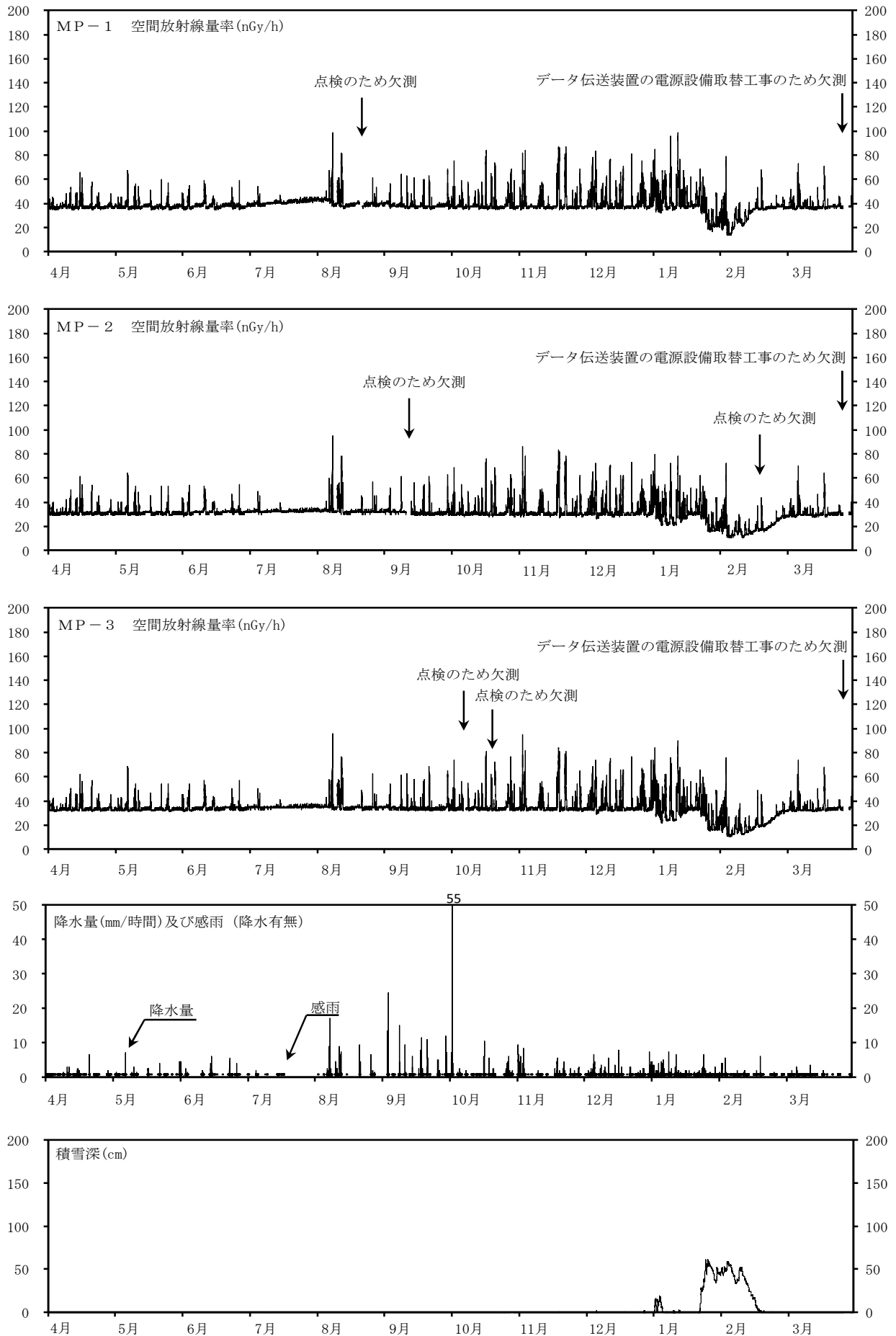
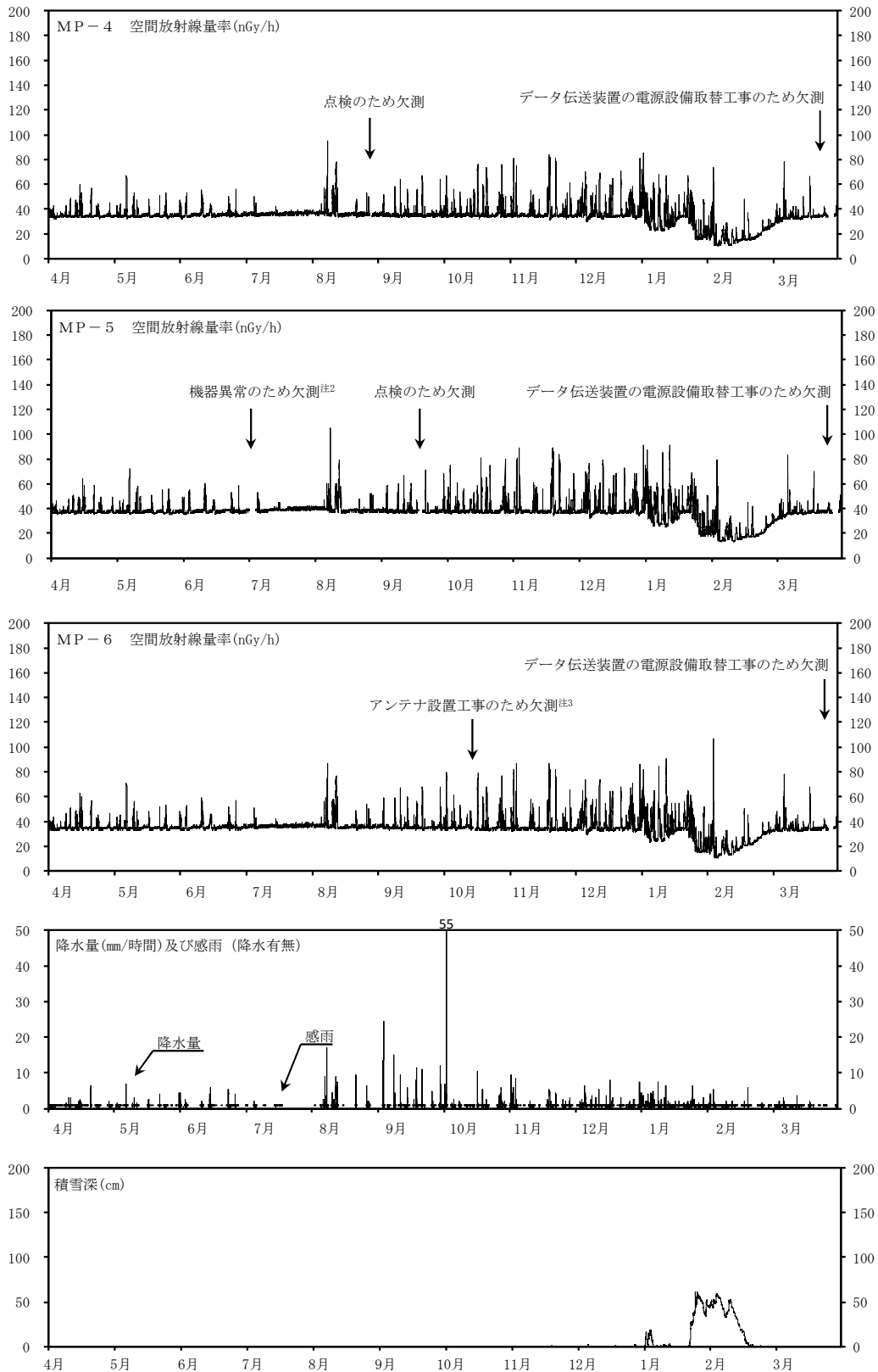


図 3 (1) MP－1～3の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係
(測定期間：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)



(注) 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

図 3 (2) MP－4～6 の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係
(測定期間：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

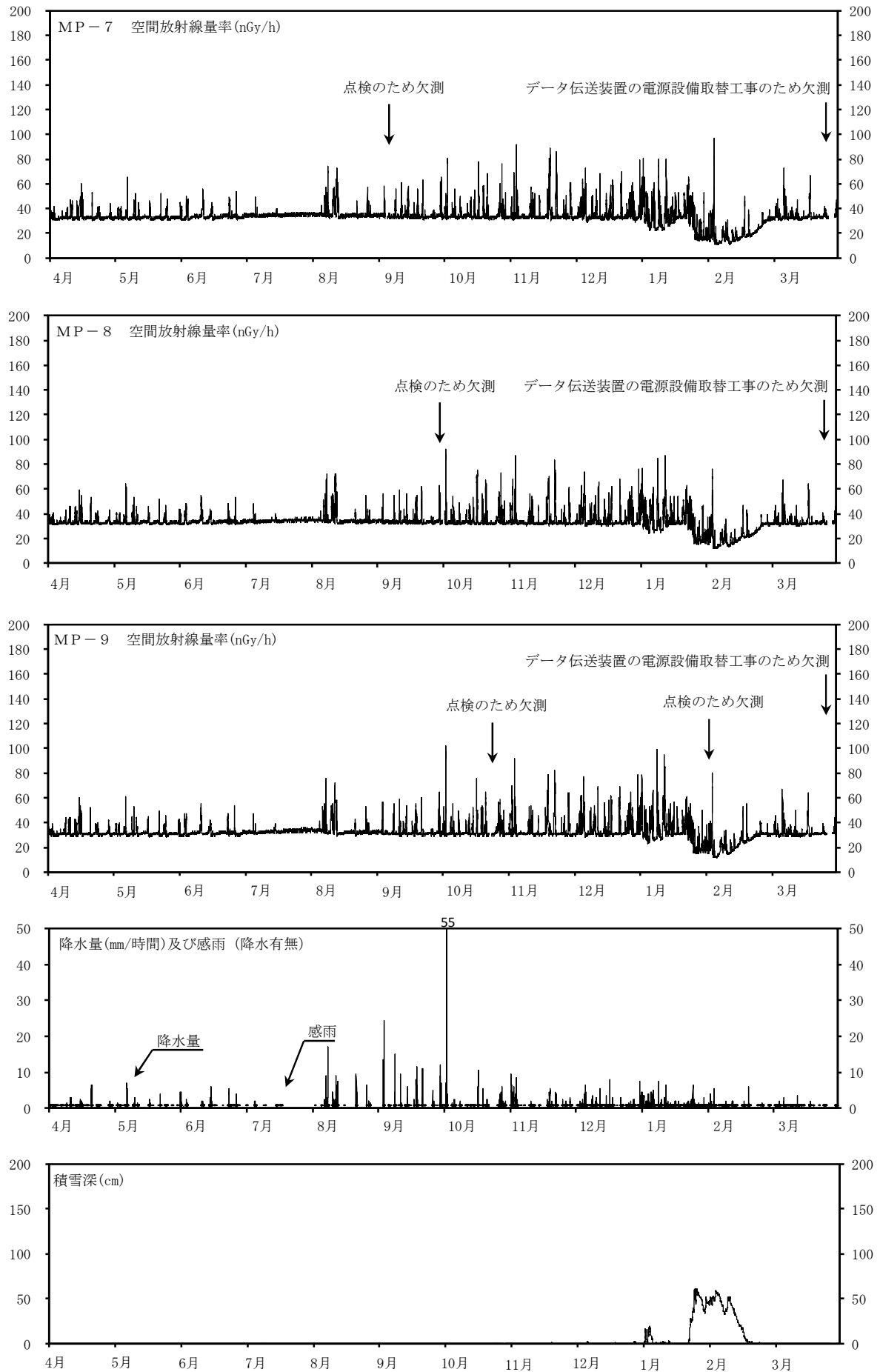


(注) 1 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

2 MP－5において機器異常が発生し、データ伝送が停止した。停止期間中はモニタリングポストによる、測定が継続されており、測定値に有意な変動はなかった。

3 モニタリングポスト近傍における電気工具の使用によりノイズ（電磁波等）の影響で測定値が変動する可能性があったため、モニタリングポストを停止した。停止期間中は可搬型モニタリングポストによる代替測定を実施し、その結果、測定値の有意な変動はなかった。

図 3 (3) MP－7～9の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係
(測定期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日)



(注) 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

(2) 積算線量

発電所敷地境界のモニタリングポストに併設した9地点及び発電所周辺の9地点に蛍光ガラス線量計を設置し、3か月ごとの積算線量を測定した。これらの測定結果は、表6のとおりであり、積算線量の推移を図4に示す。

年間積算線量(365日換算)の最高値は、柏崎市椎谷、柏崎市曾地の0.52 mGy、最低値は、MP-2、7の0.45 mGyであり、MP-9において対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

各四半期の3か月積算線量(91日換算)の最高値は、MP-9の0.16 mGy、最低値は、MP-2、4の0.10 mGyであり、MP-9において対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

対照期間の測定値の範囲を超えた原因については、当発電所からの影響ではなく、雷による影響の可能性が考えられた。(p67 事象報告1 参照)

表6 積算線量の測定結果

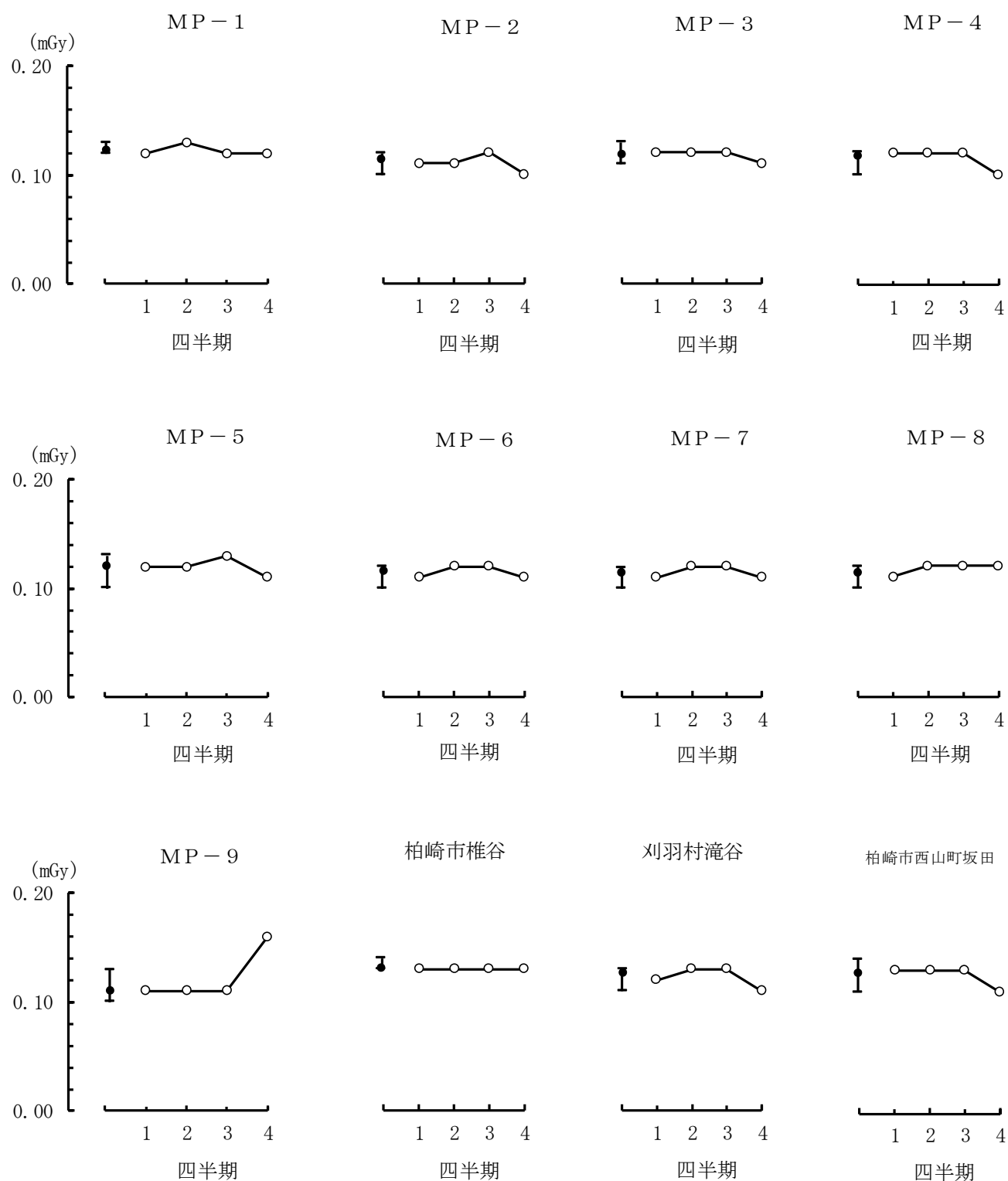
測 定 地 点 (モニタリングポイント)		年間積算線量		四半期積算線量					
		令和7年度の 測定結果	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			< 直 近 > 直近5カ年 (R2～R6 年度)	第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	< 直 近 > 直近5カ年 (R2～R6 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
発 電 所 敷 地 境 界 付 近	MP－1	0.49	0.48～0.50	0.12	0.13	0.12	0.12	0.12～0.13	0.12～0.16
	MP－2	0.45	0.45～0.46	0.11	0.11	0.12	0.10	0.10～0.12	0.09～0.17
	MP－3	0.47	0.47～0.48	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11～0.13	0.09～0.15
	MP－4	0.46	0.45～0.47	0.12	0.12	0.12	0.10	0.10～0.12	0.08～0.15
	MP－5	0.48	0.48～0.49	0.12	0.12	0.13	0.11	0.10～0.13	0.09～0.15
	MP－6	0.46	0.46～0.47	0.11	0.12	0.12	0.11	0.10～0.12	0.09～0.15
	MP－7	0.45	0.45～0.46	0.11	0.12	0.12	0.11	0.10～0.12	0.09～0.14
	MP－8	0.46	0.45～0.46	0.11	0.12	0.12	0.12	0.10～0.12	0.10～0.14
	MP－9	0.50	0.44～0.47	0.11	0.11	0.11	0.16	0.10～0.13	0.10～0.14
	平均値	0.47	—	0.11	0.12	0.12	0.12	—	—
	最高値	0.50	0.50	0.12	0.13	0.13	0.16	0.13	0.17
	最低値	0.45	0.44	0.11	0.11	0.11	0.10	0.10	0.08
発 電 所 周 辺	柏崎市椎谷	0.52	0.52～0.54	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13～0.14	0.14～0.17
	刈羽村滝谷	0.50	0.50～0.51	0.12	0.13	0.13	0.11	0.11～0.13	0.10～0.16
	柏崎市西山町坂田	0.51	0.51～0.53	0.13	0.13	0.13	0.11	0.11～0.14	0.09～0.16
	刈羽村井岡	0.47	0.48	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11～0.13	0.09～0.15
	柏崎市曾地	0.52	0.52～0.55	0.13	0.14	0.14	0.11	0.11～0.14	0.09～0.17
	刈羽村上高町	0.48	0.47～0.48	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11～0.13	0.10～0.15
	柏崎市与三	0.50	0.50～0.52	0.12	0.14	0.13	0.12	0.12～0.13	0.10～0.15
	柏崎市上原	0.49	0.49～0.51	0.12	0.13	0.13	0.11	0.11～0.13	0.10～0.16
	柏崎市松波	0.47	0.47	0.11	0.12	0.12	0.11	0.11～0.12	0.10～0.15
	平均値	0.50	—	0.12	0.13	0.13	0.11	—	—
	最高値	0.52	0.55	0.13	0.14	0.14	0.13	0.14	0.17
	最低値	0.47	0.47	0.11	0.12	0.12	0.11	0.11	0.09

(注) 1 四半期積算線量は、実測値の91日換算値であり、単位はmGy/91日である。また、年間積算線量は、小数第3位まで求めた各四半期の実測積算線量の和の365日換算値であり、単位はmGy/365日である。

2 事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計(TLD)による値である。

図4 積算線量の推移

(測定期間：令和7年4月～令和8年3月)



2 環境試料中の放射能

(1) 浮遊じんの全ベータ放射能

MP-1、MP-5及びMP-8において大気中の浮遊じんをろ紙に6時間集じんし、集じん終了直後及び5時間後にZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器により測定を行った。これらの測定結果は、表7のとおりであり、月間平均値及び月間変動幅を図5に示す。

各測定地点の集じん終了直後の年間平均値は1.0～1.1 Bq/m³、年間最高値は3.8～4.0 Bq/m³であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

また、集じん終了5時間後の年間平均値は0.027～0.029 Bq/m³、年間最高値は0.20～0.23 Bq/m³であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

表7 浮遊じんの全ベータ放射能測定結果

ア 6時間集じんの測定結果

(ア) 集じん終了直後の測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)
	集じん回数 (回)	平均空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直近 > 直近5カ年 (R2～R6年度)
MP-1	1,412	72.1	1.1	0.094 ～ 3.8	0.023 ～ 4.4
MP-5	1,416	72.1	1.0	0.092 ～ 4.0	0.041 ～ 4.0
MP-8	1,409	73.9	1.1	0.094 ～ 4.0	0.030 ～ 4.4
全地点	4,237	72.7	1.1	0.092 ～ 4.0	0.023 ～ 4.4

(注) 1 放射能濃度の有効数字は2桁である。

(イ) 集じん終了5時間後の測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)
	集じん回数 (回)	平均空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直近 > 直近5カ年 (R2～R6年度)
MP-1	1,412	72.1	0.027	* ～ 0.20	* ～ 0.24
MP-5	1,416	72.1	0.029	* ～ 0.23	* ～ 0.24
MP-8	1,409	73.9	0.027	* ～ 0.22	* ～ 0.23
全地点	4,237	72.7	0.028	* ～ 0.23	* ～ 0.24

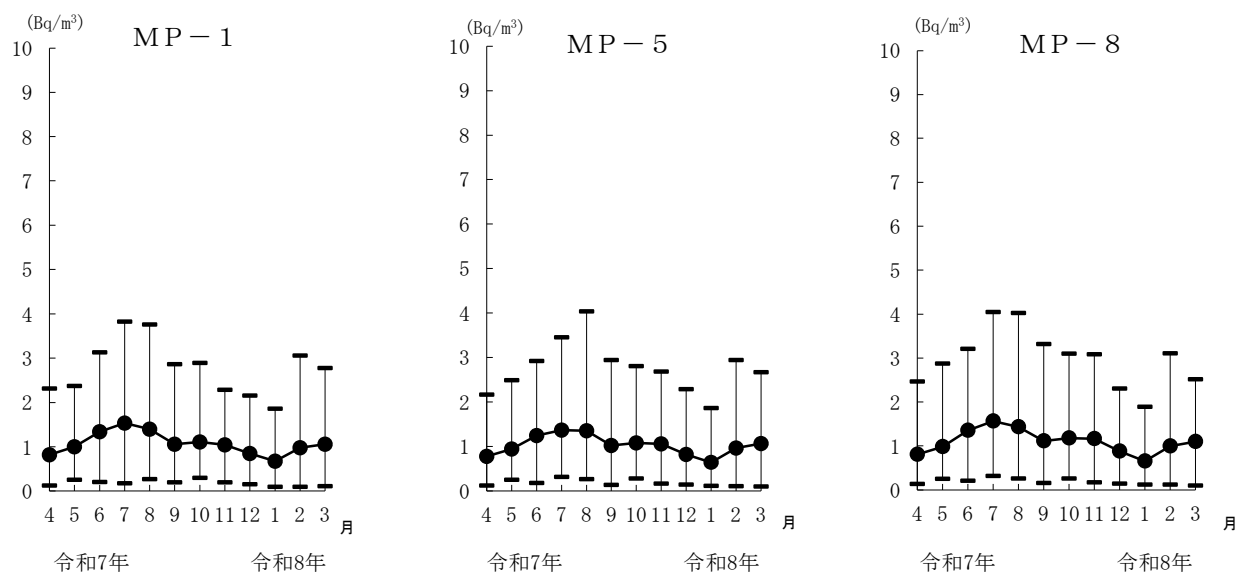
(注) 1 *は検出下限値未満を示す。

2 放射能濃度の有効数字は2桁である。

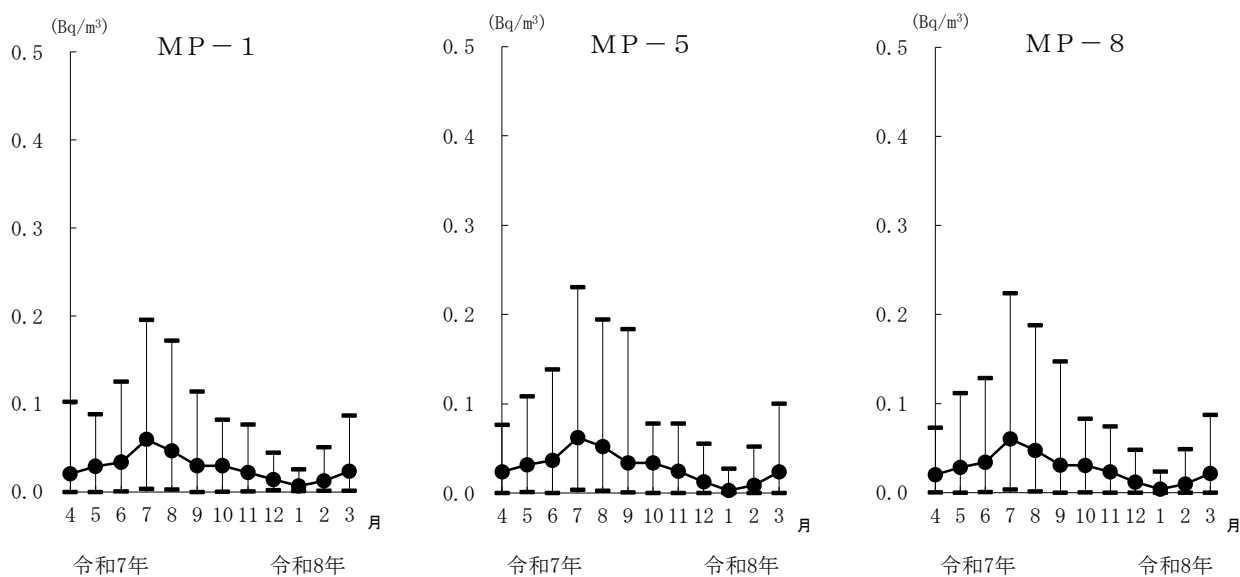
図5 浮遊じん全ベータ放射能濃度の月間平均値及び月間変動幅

ア 6時間集じんの放射能濃度

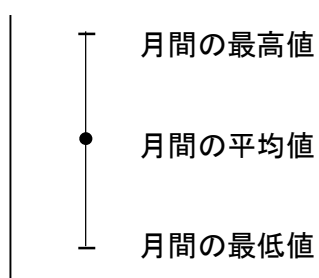
(ア) 集じん終了直後の放射能濃度



(イ) 集じん終了5時間後の放射能濃度



凡 例



(2) 核種分析（機器分析）

採取した全試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータにより測定を行った。

これらの測定結果は、表 8 (1) のとおりであり、土壌(陸土)、農産物(米(精米))、指標生物(松葉)、海産物(マダイ、ヒラメ)及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から従来より検出されているセシウム 137 が検出された。

セシウム 137 の最高値は、土壌(陸土) 2.4 Bq/kg 乾、農産物(米(精米)) 0.013 Bq/kg 生、指標生物(松葉) 0.051 Bq/kg 生、海産物(マダイ) 0.093 Bq/kg 生、海産物(ヒラメ) 0.10 Bq/kg 生、指標生物(ホンダワラ類) 0.083 Bq/kg 生であり、いずれも対照期間の測定値の範囲内であった。

(3) 核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）

陸水(飲料水)、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、キャベツ、大根(根部))、海水、海産物(マダイ、サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)について、ストロンチウム 90 の測定を行った。

これらの結果は、表 8 (2) のとおりであり、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ、大根(根部))、海水及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から同核種が検出され、その最高値は、陸水(飲料水) 0.0015 Bq/L、農産物(キャベツ) 0.055 Bq/kg 生、農産物(大根(根部)) 0.017 Bq/kg 生、海水 0.0011 Bq/L、指標生物(ホンダワラ類) 0.043 Bq/kg 生であり、農産物(キャベツ、大根(根部))については対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

いずれも、検出されたストロンチウム 90 は、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等に由来するものと考えられた。(p74 事象報告 2 及び p76 事象報告 3 参照)

なお、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、大根(根部))、海水、海産物(サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)については平成 21 年度より、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ)、海産物(マダイ)については令和元年度から測定を開始した。

(4) 核種分析（トリチウムの放射化学分析）

陸水(飲料水)及び海水の試料についてトリチウムの測定を行った。

これらの結果は、表 8 (3) のとおりであり、陸水(飲料水)及び海水から同核種が検出され、その最高値は陸水(飲料水) 0.55 Bq/L、海水 0.41 Bq/L であり、陸水(飲料水)については対照期間(直近)の測定値と同程度であった。

表 8 (1) 環境試料の核種分析結果 (機器分析)

試 料 名	試料数	単 位	令和 7 年度の 測 定 結 果 (測定値の範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
				< 直 近 > 直近 5 カ年 (R2～R6 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12 まで)
浮 遊 じ ん (月 間)	36	Bq/m ³	Cs-137 *	*	* ～ 0.00011 57 年 4 月～
陸 水	飲料水	8	Bq/L	Cs-137 *	* 56 年 6 月～
土 壌	陸 土	4	Bq/kg乾	Cs-137 1.2 ～ 2.4	0.85 ～ 29 56 年 6 月～
農産物	米 (精 米)	2	Bq/kg生	Cs-137 * ～ 0.013	0.041 ～ 0.15 56 年 10 月～
	キャベツ	2		Cs-137 *	0.022 ～ 0.12 59 年 11 月～
	大 根 (根 部)	2		Cs-137 *	* ～ 0.26 56 年 10 月～
指 標 生 物	松 葉	8	Bq/kg生	Cs-137 * ～ 0.051	0.18 ～ 6.7 56 年 6 月～
海 水		8	Bq/L	Cs-137 *	0.0037 56 年 6 月～
海 底 土		4	Bq/kg乾	Cs-137 *	* 56 年 6 月～
海産物	マダイ	1	Bq/kg生	Cs-137 0.093	0.21 ～ 0.24 56 年 10 月～
	ヒラメ	1		Cs-137 0.10	0.24 ～ 0.28 58 年 8 月～
	サザエ	1		Cs-137 *	0.093 59 年 9 月～
	ワカメ	2		Cs-137 *	0.078 59 年 6 月～
指 標 生 物	ホンダワラ類	8	Bq/kg生	Cs-137 * ～ 0.083	* ～ 0.16 56 年 6 月～

(注) 1 人工放射性核種が検出されない試料については Cs-137 の放射能濃度を記した。

2 *は検出下限値未満を示す。

3 放射能濃度の有効数字は 2 桁である。

表 8 (2) 環境試料の核種分析結果（ストロンチウム90の放射化学分析）

試 料 名		試料数	単 位	令和 7 年度の 測 定 結 果 (測定値の範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
					< 直 近 > 直近 5 カ年 (R2～R6 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59. 12 まで)
陸 水	飲料水	1	Bq/L	0. 0015	0. 00096 ～ 0. 0017	
土 壤	陸 土	1	Bq/kg乾	*	* ～ 0. 28	
農産物	米 (精 米)	1	Bq/kg生	*	* ～ 0. 023	
	キャベツ	1		0. 055	* ～ 0. 025	
	大 根 (根 部)	1		0. 017	*	
海 水		1	Bq/L	0. 0011	0. 00093 ～ 0. 0014	
海産物	マダイ	1	Bq/kg生	*	* ～ 0. 032	
	サザエ	1		*	*	
指 標 生 物	ホンダワラ類	1	Bq/kg生	0. 043	0. 032 ～ 0. 057	

- (注) 1 *は検出下限値未満を示す。
2 放射能濃度の有効数字は 2 桁である。
3 土壌（陸土）、農産物（米(精米)）、大根(根部)、海水、海産物（サザエ）及び指標生物（ホンダワラ類）については平成 21 年度より、陸水（飲料水）、農産物（キャベツ）及び海産物（マダイ）については令和元年度より測定を開始した。

表 8 (3) 環境試料の核種分析結果（トリチウムの放射化学分析）

試 料 名		試料数	単 位	令和 7 年度の 測 定 結 果 (測定値の範囲)	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
					< 直 近 > 直近 5 カ年 (R2～R6 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59. 12 まで)
陸 水	飲料水	8	Bq/L	* ～ 0. 55 ^{注 3}	* ～ 0. 45	1. 6 ～ 4. 4 58 年 5 月～
海 水		8	Bq/L	* ～ 0. 41	* ～ 0. 45	1. 4 ～ 2. 9 58 年 5 月～

- (注) 1 *は検出下限値未満を示す。
2 放射能濃度の有効数字は 2 桁である。
3 計数誤差を併記した陸水（飲料水）の H-3 濃度：0. 55±0. 14 Bq/L

V 参 考

海水放射能モニタによる測定

(1) 測定結果

海水放射能モニタの測定値は、降水等に含まれる天然放射性核種の影響を受けて上昇するが、その影響は各放水口に流れ込む降水量と放流される冷却水量との比率により異なる。冷却水量は各号機の運転状況により変動するため、各号機で検出されるレベルが異なる。

(単位：cpm)

調査地点		令和7年度の測定結果		
		測定時間 (時間)	平 均 値	測定値の範囲 (10 分値)
放水口 (南)	1号機放水口	8,670	455	375 ～ 4,849
	2号機放水口	8,670	451	375 ～ 4,885
	3号機放水口	8,672	428	349 ～ 4,925
	4号機放水口	8,672	457	378 ～ 4,588
放水口 (北)	5号機放水口	8,682	463	383 ～ 4,871
	6号機放水口	8,682	420	352 ～ 2,559
	7号機放水口	8,682	428	357 ～ 2,324

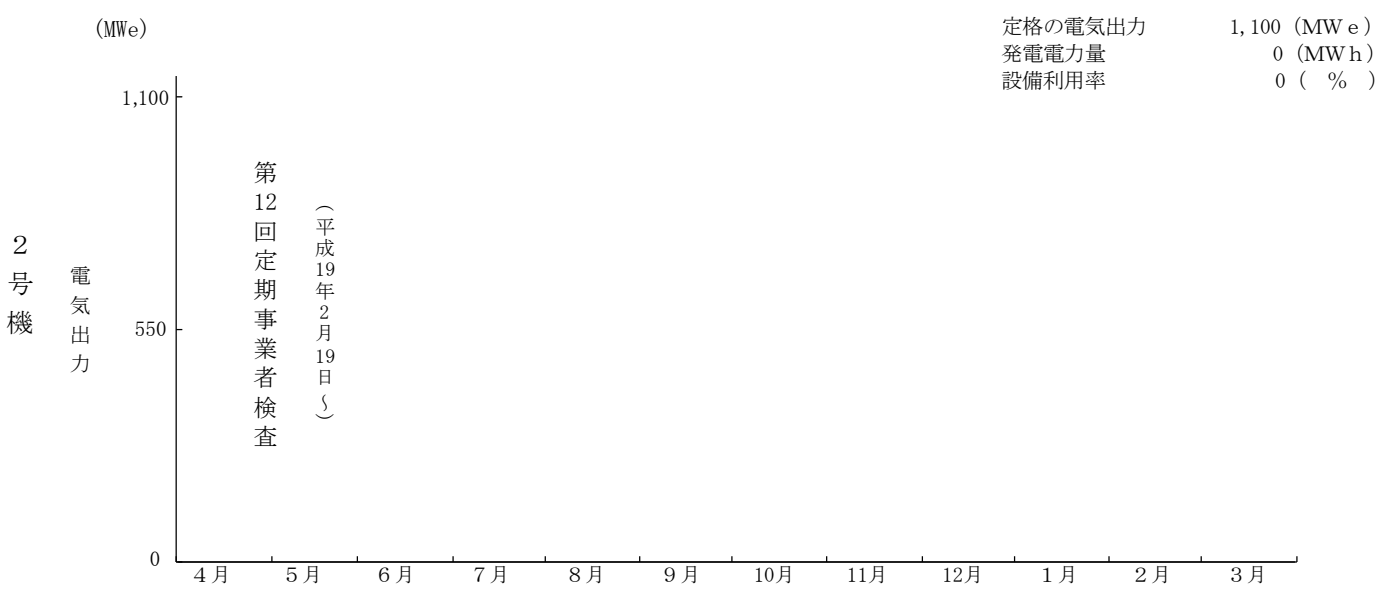
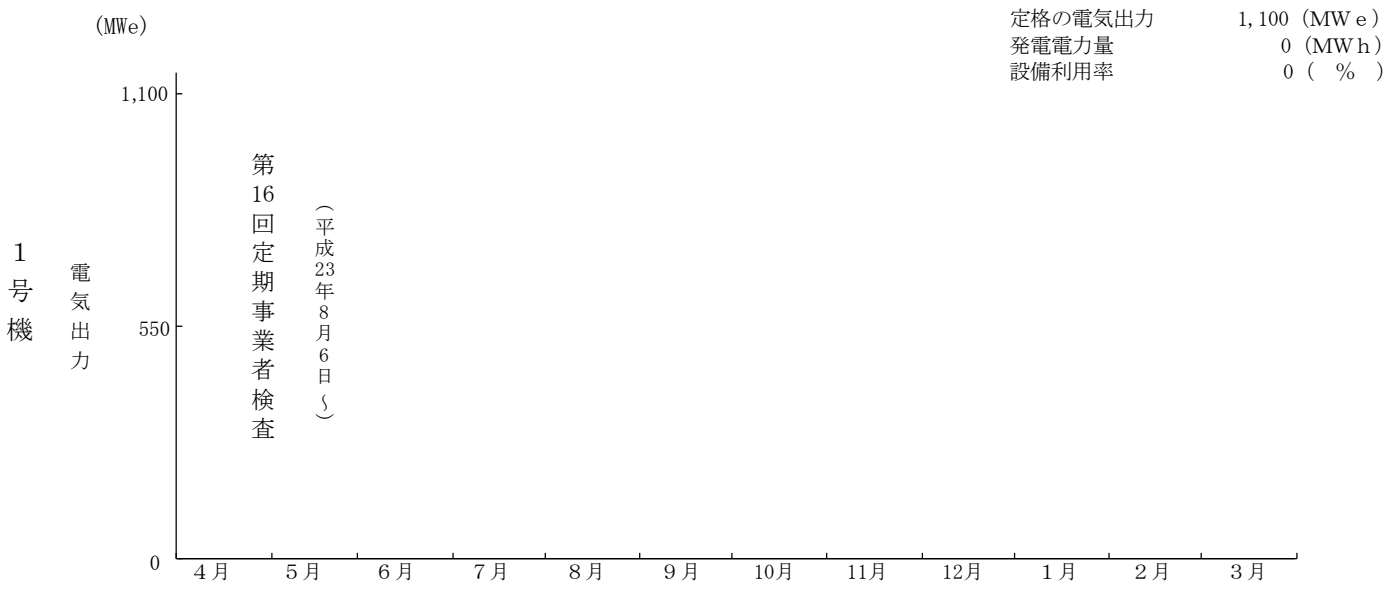
(2) 調査地点及び測定装置

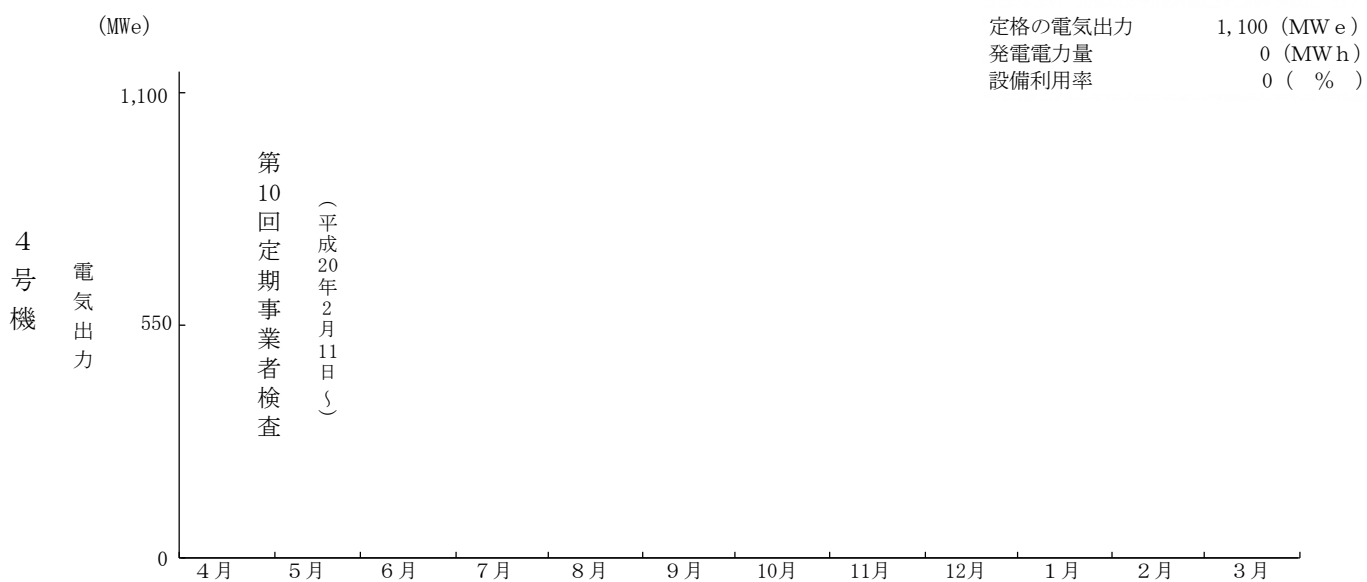
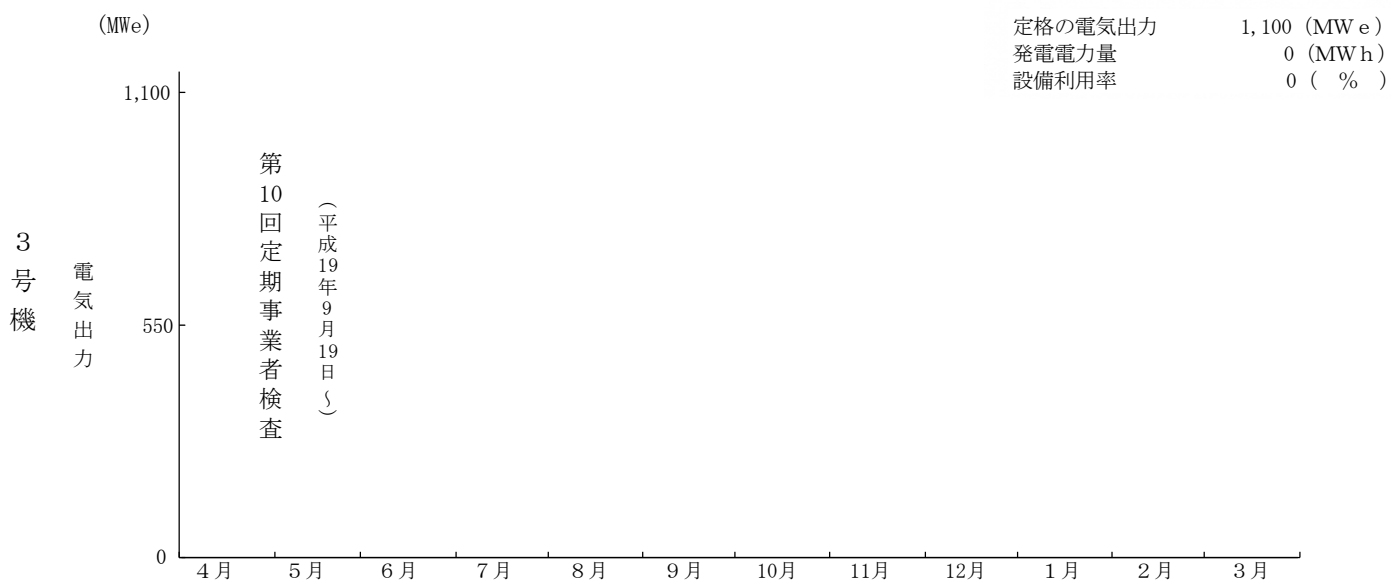
調 査 項 目	調 査 地 点	測 定 装 置	頻 度
海 水	放水口 (南) (1～4号機) 放水口 (北) (5～7号機)	3" ϕ $\times$ 3" NaI(Tl) シンチレーション検出器	連 続

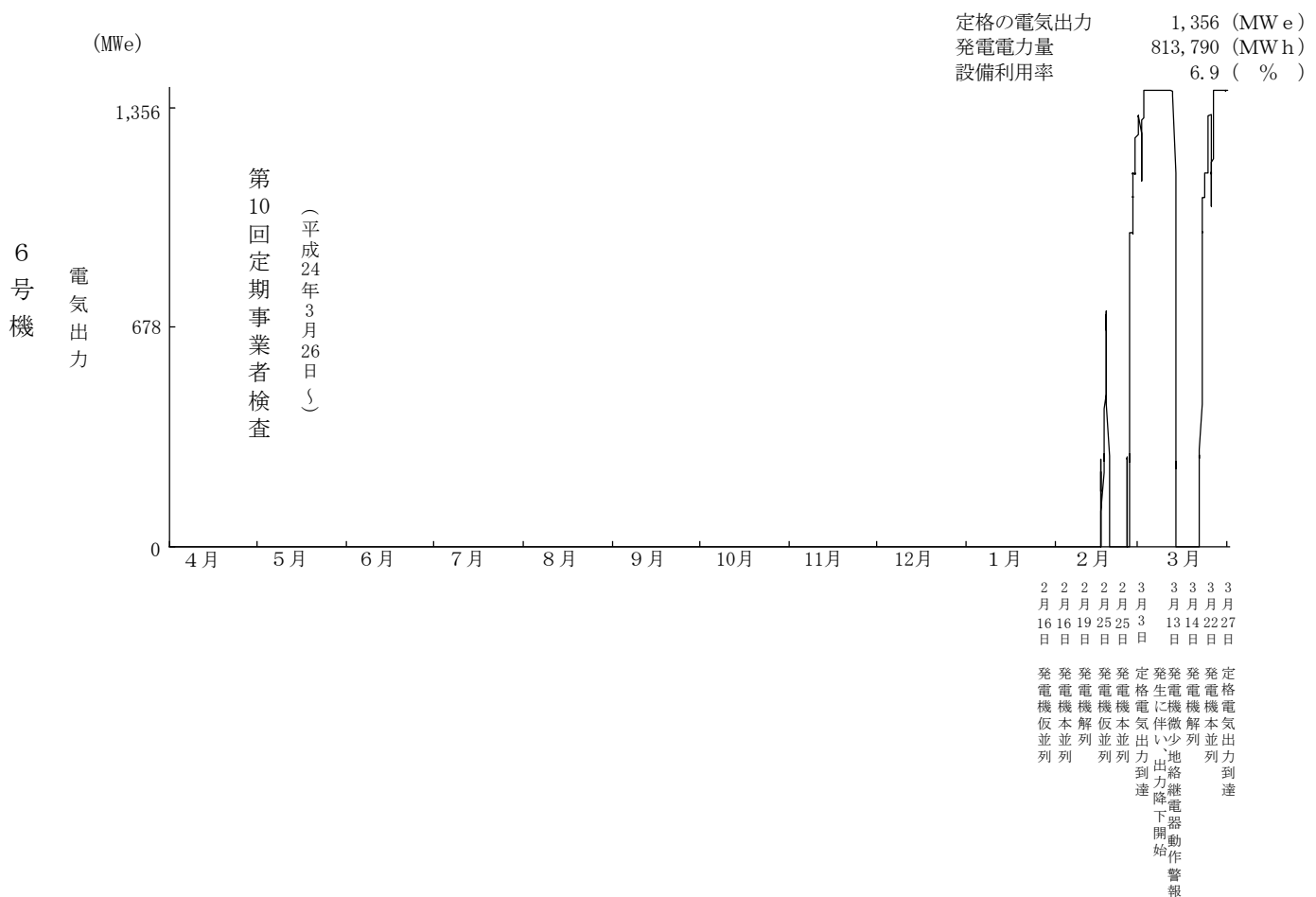
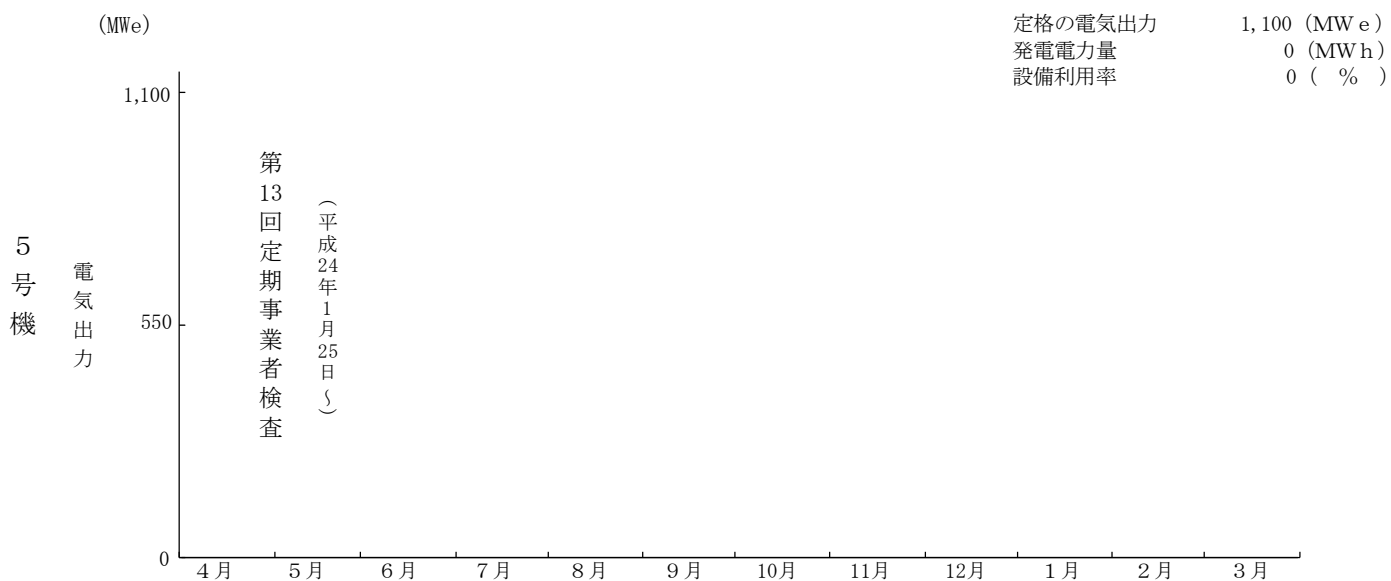
(補足)

海水放射能モニタの単位「c p m」とは、海水放射能モニタが1分間に検出した放射線の数（カウント毎分）のことを言う。

図1 柏崎刈羽原子力発電所の運転保守状況(令和7年度)







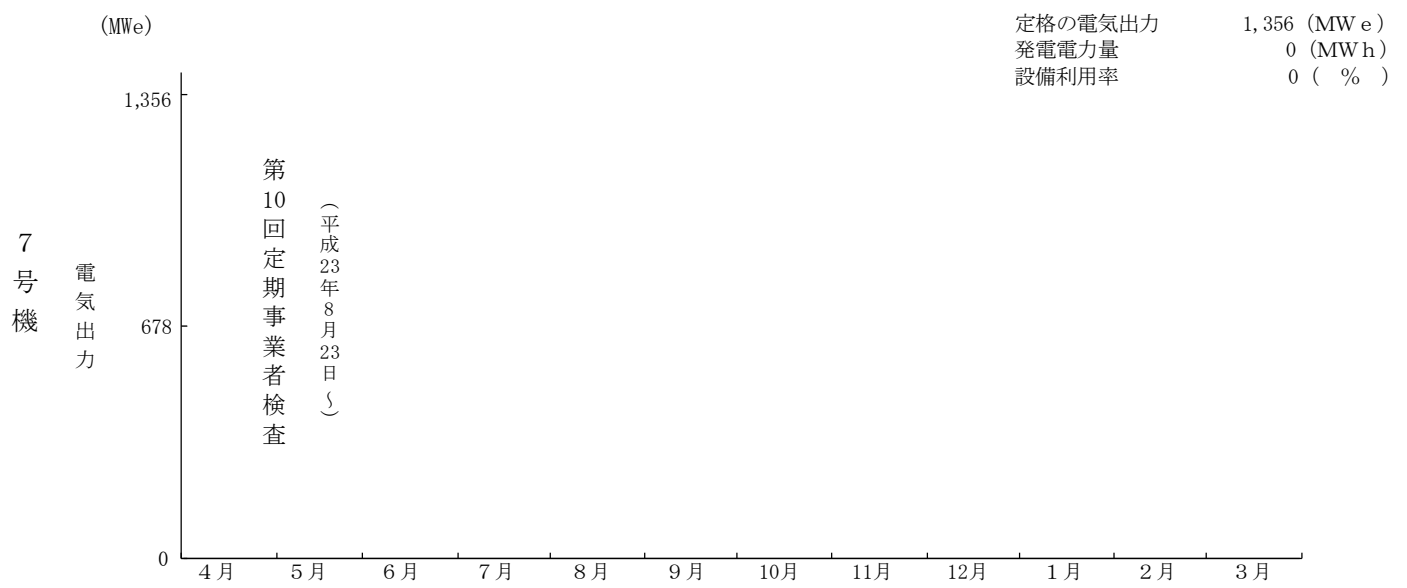


表 1 放射性物質の放出状況（令和 7 年度）

1. 放射性気体廃棄物の放出量

（単位：Bq）

		全希ガス	I-131	全粒子 状物質	H-3	備 考
原子炉施設合計		*	*	*	5.7×10^{10}	放射性気体廃棄物の放出放射能 (Bq) は、排気中の放射性物質の濃度 (Bq/cm ³) に排気量 (cm ³) を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出下限値未満の場合は*と表示した。 検出下限値は以下のとおり。 全希ガス： 2×10^{-2} (Bq/cm ³) 以下 I-131： 7×10^{-9} (Bq/cm ³) 以下 全粒子状物質： 4×10^{-9} (Bq/cm ³) 以下 (Co-60 で代表した) H-3： 4×10^{-5} (Bq/cm ³) 以下 また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排気筒別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排気筒別内訳	1号機排気筒	*	*	*	1.3×10^{10}	
	2号機排気筒	*	*	*	1.6×10^9	
	3号機排気筒	*	*	*	3.9×10^9	
	4号機排気筒	*	*	*	*	
	5号機排気筒	*	*	*	1.6×10^{10}	
	6号機排気筒	*	*	*	1.1×10^{10}	
	7号機排気筒	*	*	*	1.1×10^{10}	
	その他排気筒					
	焼却炉建屋排気筒（荒浜側）	異常なし※1,3	*	*	*※1	
	焼却炉建屋排気筒（大湊側）	異常なし※2,3	*	*	1.2×10^6	
	固体廃棄物処理建屋排気口	※4	※5	*	※5	
年間放出管理目標値		6.7×10^{15}	2.3×10^{11}			

※1 試料採取装置の取替工事期間(令和 7 年 10 月 29 日～令和 8 年 4 月 17 日)は全希ガス及び H-3 が欠測している。また取替工事期間中は焼却停止。

※2 試料採取装置の修理作業期間(令和 8 年 2 月 21 日～令和 8 年 5 月 13 日)は全希ガスが欠測している。また修理作業期間中については焼却停止。

※3 通常レベルから変動していないことを確認して「異常なし」としている。

※4 全希ガスは廃棄物中に含まれないため管理対象外としている。

※5 I-131 及び H-3 の発生量は無視できる程度と評価できることから管理対象外としている。

2. 放射性液体廃棄物の放出量

（単位：Bq）

		全核種 (H-3 を除く)	核種別					
			Cr-51	Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131
原子炉施設合計		*	*	*	*	*	*	*
排水口別内訳	1号機排水口	*	*	*	*	*	*	*
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3号機排水口	*	*	*	*	*	*	*
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5号機排水口	*	*	*	*	*	*	*
	6号機排水口	*	*	*	*	*	*	*
	7号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値		2.5×10^{11}						

（続き）

		核種別			H-3	備 考
		Cs-134	Cs-137	その他		
原子炉施設合計		*	*	*	2.7×10^{10}	放射性液体廃棄物の放出放射能 (Bq) は、排水中の放射性物質の濃度 (Bq/cm ³) に排水量 (cm ³) を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出下限値未満の場合は*と表示した。 検出下限値は以下のとおり。 放射性液体廃棄物 (H-3 を除く)： 2×10^{-3} (Bq/cm ³) 以下 (Co-60 で代表した) H-3： 2×10^{-1} (Bq/cm ³) 以下 また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排水口別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排水口別内訳	1号機排水口	*	*	*	*	
	2号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3号機排水口	*	*	*	*	
	4号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5号機排水口	*	*	*	1.6×10^{10}	
	6号機排水口	*	*	*	1.0×10^{10}	
	7号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値					※	

※ 設置許可申請書において、周辺公衆の線量評価上 2.5×10^{13} Bq を用いている。

表2 放射性物質の放出による推定実効線量

(単位：mSv/年)

	実 効 線 量
気 体 状 放 射 性 物 質	—
液 体 状 放 射 性 物 質	0.0000
合 計	0.0000

(注) 放射性物質の放出による推定実効線量は、「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」により算出した。なお、気体状放射性物質の実効線量については、指針で対象となっている全希ガス及びヨウ素(I-131及びI-133)の値から算出されるが、全て検出下限値未満であるため「—」とした。

＜参考＞

令和7年度において、柏崎刈羽原子力発電所は1から5及び7号機停止中、6号機は令和8年2月16日に発電を開始しており、放射性気体廃棄物の放出量のうち、検出された放射性物質はトリチウム(H-3)のみであった。

指針では、放射性気体廃棄物のトリチウムは実効線量の評価の対象となっていないが、それによる実効線量を評価したところ、0.0000 mSv/年であった。

表3 風向、風速、大気安定度月別記録

測定項目 測定月	標 高 160m			標 高 85m			大 気 安 定 度 (最 多)
	風 向 (最 多)	風 速 (m/s)		風 向 (最 多)	風 速 (m/s)		
		最 高 値	平 均 値		最 高 値	平 均 値	
令 7 年 4 月	WSW	24.8	5.8	WSW	25.2	5.1	D
5 月	S E	23.2	4.5	S E	19.3	3.7	D
6 月	WSW	15.2	3.3	S E	20.1	2.7	D
7 月	NW	10.5	2.9	S E	6.6	2.3	B
8 月	WSW	20.0	3.6	WSW	18.5	3.0	D
9 月	S E	15.4	4.0	E S E	16.4	3.6	D
10 月	E S E	15.1	4.7	S E	15.1	4.2	D
11 月	S S E	19.8	5.8	S E	18.0	5.7	D
12 月	S S E	29.6	7.6	S E	29.5	7.3	D
令和 8 年 1 月	WNW	24.2	9.9	WNW	23.7	9.6	D
2 月	S S E	21.1	5.6	S E	19.0	5.3	D
3 月	W	18.9	4.8	W	17.5	4.6	D

(注) 1 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

2 大気安定度は、風速（標高 20m）、日射量及び放射収支量から分類した。

表 4 気温、降雨雪量、最大積雪深月別記録

測定項目 測定月	気 温 (°C)			降雨雪量 (mm) (積算値)	最 大 積雪深 (cm)
	最 高 値	最 低 値	平 均 値		
令和 7 年 4 月	25.0	-1.5	10.6	74.5	0
5 月	28.5	3.3	15.6	69.0	0
6 月	31.7	11.5	20.8	103.0	0
7 月	36.6	20.1	26.7	7.5	0
8 月	33.3	20.2	26.6	212.0	0
9 月	32.9	15.1	23.6	229.5	0
10 月	26.7	4.4	16.2	286.0	0
11 月	19.5	0.0	10.4	199.0	0
12 月	20.1	-0.6	6.3	252.5	7
令和 8 年 1 月	13.3	-3.3	2.7	388.0	61
2 月	18.5	-3.5	4.1	104.0	59
3 月	17.6	-1.9	6.0	42.5	0

(注) 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

表5 気象要素の観測時間

(観測期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日)

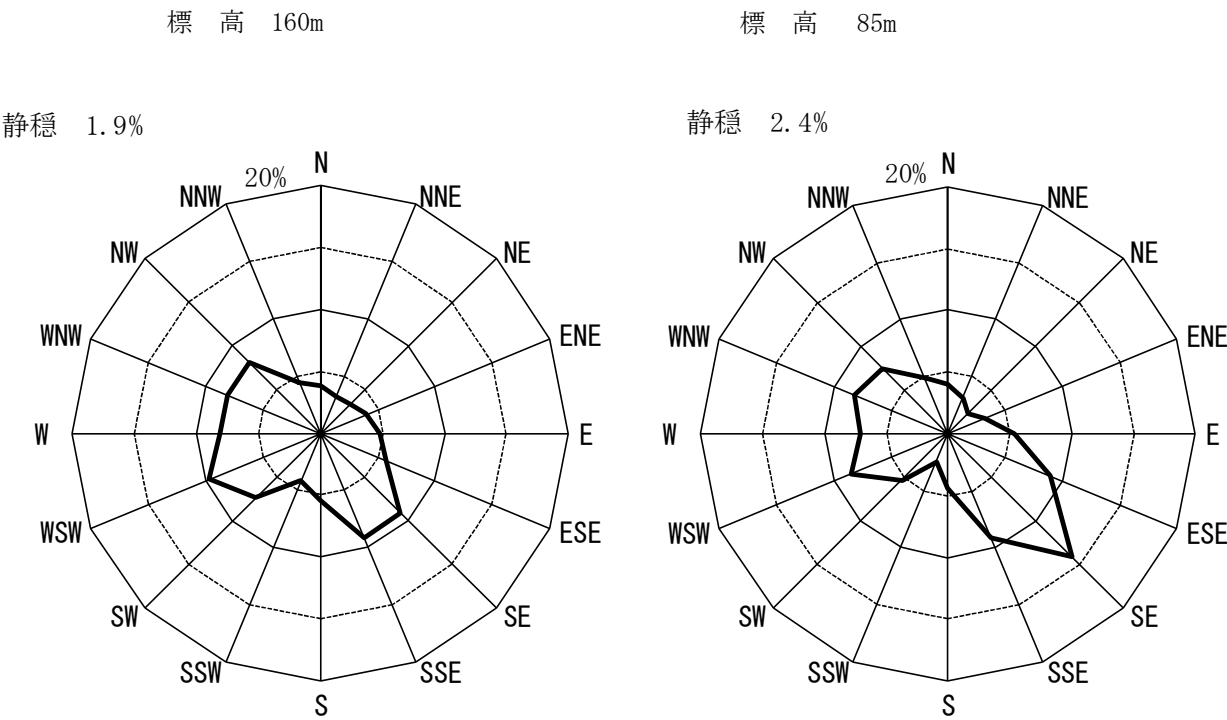
(単位：時間)

標 高 \ 気象要素	風 向	風 速	大 気 安 定 度
160m	8, 172	8, 287	8, 569
85m	8, 405	8, 417	

- (注) 1 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所
 2 大気安定度は、標高20mにおける観測時間である。

図2 風配図

(観測期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日)



- (注) 1 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所
 2 静穏とは、0.5m/s未満の風速のときである。

添 付 資 料

付表 1 空間放射線量率の月別測定結果

(単位：nGy/h)

測定地点	年 月	平均値	最高値	最低値	平均値 + 3 σ	平均値 + 3 σ を超えた回数	
						降雨雪	その他
MP - 1	7. 4	38	64 (66)	35 (35)	47	17	1
	5	38	66 (67)	35 (35)	47	18	0
	6	39	57 (59)	35 (35)	48	16	1
	7	41	53 (54)	38 (37)	47	1	0
	8	42	90 (99)	37 (36)	60	14	0
	9	39	67 (69)	36 (35)	51	25	0
	10	40	83 (84)	36 (35)	58	16	0
	11	40	83 (87)	35 (35)	64	25	1
	12	42	80 (83)	36 (35)	66	19	0
	8. 1	39	97 (99)	18 (17)	75	8	0
	2	32	72 (79)	14 (14)	56	5	0
	3	39	71 (73)	35 (35)	51	21	0
MP - 2	7. 4	32	58 (61)	29 (29)	41	22	1
	5	32	63 (64)	29 (29)	41	21	0
	6	32	51 (55)	29 (28)	41	20	1
	7	33	48 (49)	31 (30)	36	10	1
	8	34	86 (95)	30 (30)	52	18	1
	9	32	60 (63)	29 (29)	44	25	0
	10	33	75 (76)	29 (28)	51	19	0
	11	33	80 (86)	28 (27)	57	26	1
	12	34	69 (73)	27 (26)	55	27	0
	8. 1	30	74 (80)	15 (14)	60	7	0
	2	19	60 (72)	11 (11)	37	8	0
	3	31	65 (70)	28 (27)	43	21	0
MP - 3	7. 4	34	60 (62)	31 (31)	43	23	1
	5	34	68 (69)	32 (31)	43	20	0
	6	35	54 (57)	32 (31)	44	18	1
	7	35	49 (50)	33 (33)	38	10	1
	8	37	85 (96)	33 (32)	55	15	0
	9	35	65 (69)	32 (32)	47	27	1
	10	36	79 (81)	32 (32)	54	18	0
	11	37	88 (95)	31 (31)	61	25	1
	12	38	72 (77)	29 (29)	62	16	0
	8. 1	33	86 (90)	15 (14)	69	9	0
	2	22	70 (76)	11 (11)	43	6	0
	3	35	68 (74)	31 (31)	47	20	0

(注) 1 σ は、標準偏差を示す。

2 () 内の数値は 10 分値である。

3 平均値 + 3 σ を超えた回数のうち、MP - 1、2、3 の令和 7 年 4 月、6 月、11 月のその他 1 回、MP - 2、3 の 7 月のその他 1 回、MP - 2 の 8 月のその他 1 回、MP - 3 の 9 月のその他 1 回については、直前の降水によるものである。

(単位：nGy/h)

測定地点	年 月	平均値	最高値	最低値	平均値 + 3 σ	平均値 + 3 σ を超えた回数	
						降雨雪	その他
MP - 4	7. 4	35	58 (60)	33 (32)	44	14	1
	5	35	66 (67)	33 (32)	44	20	0
	6	36	54 (56)	33 (32)	45	18	1
	7	36	49 (50)	34 (34)	39	10	1
	8	38	82 (95)	34 (33)	53	20	0
	9	36	64 (67)	34 (33)	48	20	0
	10	37	76 (76)	33 (32)	55	16	0
	11	38	81 (84)	31 (31)	59	22	1
	12	38	75 (81)	30 (30)	59	15	0
	8. 1	31	79 (85)	16 (15)	61	9	0
	2	18	63 (74)	11 (10)	36	12	0
	3	34	70 (78)	26 (26)	49	15	0
MP - 5	7. 4	38	62 (64)	36 (35)	47	13	1
	5	38	71 (72)	36 (35)	47	20	0
	6	38	58 (60)	36 (35)	47	19	1
	7	39	52 (53)	37 (36)	42	9	0
	8	40	88 (105)	36 (36)	58	14	0
	9	39	67 (71)	36 (36)	51	17	0
	10	40	80 (81)	36 (35)	58	18	0
	11	40	86 (89)	35 (34)	64	24	1
	12	41	84 (91)	33 (32)	62	20	0
	8. 1	35	86 (91)	17 (17)	68	6	0
	2	21	70 (79)	13 (13)	39	9	0
	3	38	75 (83)	30 (30)	53	12	0
MP - 6	7. 4	36	61 (63)	33 (33)	45	17	1
	5	36	69 (71)	33 (33)	45	17	0
	6	36	56 (59)	33 (33)	45	19	1
	7	37	50 (51)	35 (34)	40	9	0
	8	38	75 (87)	34 (33)	56	15	0
	9	36	66 (68)	33 (33)	48	24	0
	10	37	78 (80)	33 (32)	55	19	0
	11	37	83 (87)	31 (31)	61	24	1
	12	38	80 (86)	30 (30)	59	21	0
	8. 1	33	85 (91)	14 (14)	69	6	0
	2	22	74 (107)	11 (11)	43	5	0
	3	35	71 (78)	32 (31)	47	22	0

(注) 1 σ は、標準偏差を示す。

2 () 内の数値は 10 分値である。

3 平均値 + 3 σ を超えた回数のうち、MP - 4、5、6 の令和 7 年 4 月、6 月、11 月のその他 1 回、MP - 4 の 7 月のその他 1 回については、直前の降水によるものである。

(単位：nGy/h)

測定地点	年 月	平均値	最高値	最低値	平均値 + 3 σ	平均値 + 3 σ を超えた回数	
						降雨雪	その他
MP - 7	7. 4	34	57 (60)	31 (30)	43	13	1
	5	33	64 (65)	31 (31)	42	18	0
	6	34	54 (56)	31 (31)	43	18	1
	7	35	48 (49)	33 (33)	38	9	0
	8	36	72 (74)	33 (32)	51	22	1
	9	35	63 (65)	32 (31)	47	19	0
	10	36	78 (81)	32 (31)	54	16	0
	11	36	84 (92)	31 (30)	60	24	1
	12	37	73 (79)	29 (29)	58	15	0
	8. 1	31	77 (81)	14 (13)	64	5	0
	2	21	74 (97)	11 (11)	42	5	0
	3	34	67 (73)	31 (30)	46	22	0
MP - 8	7. 4	34	57 (59)	31 (31)	43	12	1
	5	34	62 (64)	31 (31)	43	15	0
	6	34	53 (55)	31 (31)	43	18	1
	7	35	47 (48)	32 (32)	38	7	0
	8	36	71 (72)	32 (32)	51	19	0
	9	35	61 (63)	32 (31)	47	17	0
	10	35	86 (92)	31 (31)	53	17	0
	11	35	76 (87)	31 (30)	56	20	1
	12	36	71 (76)	30 (30)	57	16	0
	8. 1	33	82 (87)	15 (15)	66	7	0
	2	23	65 (76)	12 (12)	44	6	0
	3	34	62 (67)	30 (30)	46	17	0
MP - 9	7. 4	32	58 (60)	29 (29)	41	17	1
	5	32	60 (61)	29 (28)	41	16	0
	6	32	53 (55)	29 (29)	41	18	1
	7	33	46 (47)	30 (30)	36	9	0
	8	34	70 (76)	30 (29)	52	19	0
	9	32	61 (65)	29 (29)	44	23	0
	10	33	94 (102)	29 (29)	51	16	0
	11	34	78 (92)	29 (29)	58	24	1
	12	35	73 (79)	29 (28)	59	7	0
	8. 1	33	96 (99)	15 (15)	66	8	0
	2	24	73 (80)	12 (11)	45	5	0
	3	32	62 (67)	29 (28)	44	23	0

(注) 1 σ は、標準偏差を示す。

2 () 内の数値は10分値である。

3 平均値 + 3 σ を超えた回数のうち、MP - 7、8、9 の令和7年4月、6月、11月のその他1回、MP - 7 の8月のその他1回については、直前の降水によるものである。

付表2 空間放射線量率の四半期別測定結果

(単位：nGy/h)

測定地点	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)					
	測定期間	平均値	測定値の範囲		< 直 近 >				< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)	
					< 参 考 > 直近5カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)		直近5カ年 (R2～R6年度)			
			1時間値	10分値	1時間値	10分値	1時間値	10分値		
MP－1	第1四半期	38	35～66	35～67	34～75	33～82	15～111	15～118	16～141	
	第2四半期	41	36～90	35～99	34～79	33～85				
	第3四半期	40	35～83	35～87	22～102	22～107				
	第4四半期	37	14～97	14～99	15～111	15～118				
MP－2	第1四半期	32	29～63	28～64	28～74	28～82	10～100	10～111	6～130	
	第2四半期	33	29～86	29～95	28～78	28～84				
	第3四半期	33	27～80	26～86	17～99	17～111				
	第4四半期	27	11～74	11～80	10～100	10～108				
MP－3	第1四半期	34	31～68	31～69	32～76	31～84	10～105	10～116	5～147	
	第2四半期	36	32～85	32～96	32～84	31～90				
	第3四半期	37	29～88	29～95	17～105	17～110				
	第4四半期	30	11～86	11～90	10～104	10～116				
MP－4	第1四半期	35	33～66	32～67	32～70	31～75	10～103	9～108	5～146	
	第2四半期	37	34～82	33～95	32～83	31～89				
	第3四半期	38	30～81	30～84	17～103	17～108				
	第4四半期	28	11～79	10～85	10～103	9～108				
MP－5	第1四半期	38	36～71	35～72	35～74	34～78	11～114	11～123	5～160	
	第2四半期	39	36～88	36～105	35～88	34～95				
	第3四半期	40	33～86	32～91	20～106	19～113				
	第4四半期	31	13～86	13～91	11～114	11～123				
MP－6	第1四半期	36	33～69	33～71	33～74	32～80	10～119	10～133	5～174	
	第2四半期	37	33～75	33～87	33～90	32～98				
	第3四半期	37	30～83	30～87	17～117	16～128				
	第4四半期	30	11～85	11～107	10～119	10～133				
MP－7	第1四半期	34	31～64	30～65	30～73	30～79	10～118	10～133	5～151	
	第2四半期	35	32～72	31～74	31～86	30～93				
	第3四半期	36	29～84	29～92	16～110	16～121				
	第4四半期	29	11～77	11～97	10～118	10～133				

(単位：nGy/h)

測定地点	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)					
	測定期間	平均値	測定値の範囲		< 直 近 >				< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)	
					< 参 考 > 直近5カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)		直近5カ年 (R2～R6年度)			
			1時間値	10分値	1時間値	10分値	1時間値	10分値		
MP－8	第1四半期	34	31～62	31～64	30～70	29～76	11～115	11～129	5～143	
	第2四半期	35	32～71	31～72	30～82	29～88				
	第3四半期	36	30～86	30～92	18～102	18～112				
	第4四半期	30	12～82	12～87	11～115	11～129				
MP－9	第1四半期	32	29～60	28～61	29～70	28～77	12～122	11～135	7～140	
	第2四半期	33	29～70	29～76	28～85	28～92				
	第3四半期	34	29～94	28～102	18～99	17～105				
	第4四半期	30	12～96	11～99	12～122	11～135				

(注) 平均値及び事前調査期間の測定結果は、1時間値である。

第2四半期の事象報告は p81 参考資料1 参照

付表3 積算線量の測定結果

No.	測定地点	3 か月積算線量 (mGy/91日)				年間積算線量 (mGy/365日)
		第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	
1	MP-1	0.12 (0.12)	0.13 (0.13)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.49 (0.49)
2	MP-2	0.11 (0.11)	0.11 (0.11)	0.12 (0.12)	0.10 (0.10)	0.45 (0.45)
3	MP-3	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.11 (0.11)	0.47 (0.47)
4	MP-4	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.10 (0.10)	0.46 (0.46)
5	MP-5	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.13 (0.13)	0.11 (0.11)	0.48 (0.48)
6	MP-6	0.11 (0.11)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.11 (0.11)	0.46 (0.46)
7	MP-7	0.11 (0.11)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.11 (0.11)	0.45 (0.45)
8	MP-8	0.11 (0.11)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.46 (0.46)
9	MP-9	0.11 (0.11)	0.11 (0.11)	0.11 (0.11)	0.16 (0.16)	0.50 (0.50)
10	柏崎市 椎谷	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.52 (0.52)
11	刈羽村 滝谷	0.12 (0.13)	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.11 (0.11)	0.50 (0.50)
12	柏崎市西山町坂田	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.11 (0.11)	0.51 (0.51)
13	刈羽村 井岡	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.11 (0.11)	0.47 (0.47)
14	柏崎市 曾地	0.13 (0.13)	0.14 (0.14)	0.14 (0.14)	0.11 (0.11)	0.52 (0.52)
15	刈羽村 上高町	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.11 (0.11)	0.48 (0.48)
16	柏崎市 与三	0.12 (0.12)	0.14 (0.14)	0.13 (0.13)	0.12 (0.12)	0.50 (0.50)
17	柏崎市 上原	0.12 (0.12)	0.13 (0.13)	0.13 (0.13)	0.11 (0.11)	0.49 (0.49)
18	柏崎市 松波	0.11 (0.11)	0.12 (0.12)	0.12 (0.12)	0.11 (0.11)	0.47 (0.47)
積算開始年月日		7. 3.13	7. 6.12	7. 9.11	7.12.11	7. 3.13
積算終了年月日		7. 6.12	7. 9.11	7.12.11	8. 3.12	8. 3.12
積算期間		91 日間	91 日間	91 日間	91 日間	364 日間

(注) 1 3 か月積算線量の () 内の数値は、実測値であり、3 か月積算線量は、小数第3位まで求めた実測値の91日換算値である。

2 年間積算線量の () 内の数値は、小数第3位まで求めた各四半期の実測値の和であり、年間積算線量は、その365日換算値である。

付表4 積算線量の四半期別測定結果

(単位：mGy/91日)

測定地点	令和7年度の測定結果		対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			< 直 近 >	< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
			< 参 考 > 直近5カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)	
MP－1	第1四半期	0.12	0.12	0.12～0.16
	第2四半期	0.13	0.12～0.13	
	第3四半期	0.12	0.12～0.13	
	第4四半期	0.12	0.12	
MP－2	第1四半期	0.11	0.11～0.12	0.09～0.17
	第2四半期	0.11	0.12	
	第3四半期	0.12	0.12	
	第4四半期	0.10	0.10～0.11	
MP－3	第1四半期	0.12	0.12	0.09～0.15
	第2四半期	0.12	0.12	
	第3四半期	0.12	0.12～0.13	
	第4四半期	0.11	0.11～0.12	
MP－4	第1四半期	0.12	0.12	0.08～0.15
	第2四半期	0.12	0.12	
	第3四半期	0.12	0.12	
	第4四半期	0.10	0.10～0.11	
MP－5	第1四半期	0.12	0.12	0.09～0.15
	第2四半期	0.12	0.12～0.13	
	第3四半期	0.13	0.12～0.13	
	第4四半期	0.11	0.10～0.12	
MP－6	第1四半期	0.11	0.12	0.09～0.15
	第2四半期	0.12	0.12	
	第3四半期	0.12	0.12	
	第4四半期	0.11	0.10～0.11	
MP－7	第1四半期	0.11	0.11～0.12	0.09～0.14
	第2四半期	0.12	0.12	
	第3四半期	0.12	0.12	
	第4四半期	0.11	0.10～0.11	

(単位：mGy/91 日)

測定地点	令和 7 年度の測定結果		対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			< 直 近 >	< 事 前 > 事前調査期間 (S57. 4～S59. 12)
			< 参 考 > 直近 5 カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)	
MP－8	第 1 四半期	0. 11	0. 11	0. 10～0. 14
	第 2 四半期	0. 12	0. 11～0. 12	
	第 3 四半期	0. 12	0. 12	
	第 4 四半期	0. 12	0. 10～0. 12	
MP－9	第 1 四半期	0. 11	0. 11	0. 10～0. 14
	第 2 四半期	0. 11	0. 11	
	第 3 四半期	0. 11	0. 11～0. 12	
	第 4 四半期	0. 16	0. 10～0. 13	
柏崎市 椎谷	第 1 四半期	0. 13	0. 13	0. 14～0. 17
	第 2 四半期	0. 13	0. 13～0. 14	
	第 3 四半期	0. 13	0. 13～0. 14	
	第 4 四半期	0. 13	0. 13	
刈羽村 滝谷	第 1 四半期	0. 12	0. 12～0. 13	0. 10～0. 16
	第 2 四半期	0. 13	0. 13	
	第 3 四半期	0. 13	0. 13	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 13	
柏崎市西山町坂田	第 1 四半期	0. 13	0. 13	0. 09～0. 16
	第 2 四半期	0. 13	0. 13～0. 14	
	第 3 四半期	0. 13	0. 13～0. 14	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 13	
刈羽村 井岡	第 1 四半期	0. 12	0. 12	0. 09～0. 15
	第 2 四半期	0. 12	0. 12～0. 13	
	第 3 四半期	0. 12	0. 12～0. 13	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 12	
柏崎市 曾地	第 1 四半期	0. 13	0. 13～0. 14	0. 09～0. 17
	第 2 四半期	0. 14	0. 14	
	第 3 四半期	0. 14	0. 14	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 13	

(単位：mGy/91 日)

測定地点	令和 7 年度の測定結果		対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			< 直 近 >	< 事 前 > 事前調査期間 (S57. 4～S59. 12)
			< 参 考 > 直近 5 カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)	
刈羽村 上高町	第 1 四半期	0. 12	0. 12	0. 10～0. 15
	第 2 四半期	0. 12	0. 12	
	第 3 四半期	0. 12	0. 12～0. 13	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 12	
柏崎市 与三	第 1 四半期	0. 12	0. 13	0. 10～0. 15
	第 2 四半期	0. 14	0. 13	
	第 3 四半期	0. 13	0. 13	
	第 4 四半期	0. 12	0. 12～0. 13	
柏崎市 上原	第 1 四半期	0. 12	0. 12～0. 13	0. 10～0. 16
	第 2 四半期	0. 13	0. 13	
	第 3 四半期	0. 13	0. 13	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 12	
柏崎市 松波	第 1 四半期	0. 11	0. 12	0. 10～0. 15
	第 2 四半期	0. 12	0. 12	
	第 3 四半期	0. 12	0. 12	
	第 4 四半期	0. 11	0. 11～0. 12	

(注) 1 事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計(TLD)による値である。

2 各四半期の積算期間は以下のとおり。

第 1 四半期：令和 7 年 3 月 13 日～令和 7 年 6 月 12 日

第 2 四半期：令和 7 年 6 月 12 日～令和 7 年 9 月 11 日

第 3 四半期：令和 7 年 9 月 11 日～令和 7 年 12 月 11 日

第 4 四半期：令和 7 年 12 月 11 日～令和 8 年 3 月 12 日

第 2 四半期の事象報告は p85 参考資料 2 参照

第 4 四半期の事象報告は p91 参考資料 4 参照

付表5 浮遊じんの月別全ベータ放射能測定結果

ア 6時間集じんの測定結果

(ア) 集じん終了直後の測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点	年 月	集じん 回 数 (回)	平均 空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	最高値	最低値
MP－1	7. 4	120	71. 7	0. 82	2. 3	0. 12
	5	124	71. 7	1. 0	2. 4	0. 25
	6	118	71. 8	1. 3	3. 1	0. 20
	7	119	71. 5	1. 5	3. 8	0. 17
	8	124	71. 8	1. 4	3. 8	0. 27
	9	120	72. 1	1. 1	2. 9	0. 20
	10	120	72. 6	1. 1	2. 9	0. 30
	11	110	73. 0	1. 0	2. 3	0. 20
	12	119	72. 8	0. 85	2. 2	0. 16
	8. 1	124	72. 3	0. 68	1. 9	0. 094
	2	112	71. 9	0. 98	3. 1	0. 095
	3	102	71. 8	1. 1	2. 8	0. 11
MP－5	7. 4	120	72. 4	0. 78	2. 2	0. 12
	5	124	72. 4	0. 94	2. 5	0. 25
	6	119	71. 9	1. 2	2. 9	0. 18
	7	115	72. 4	1. 4	3. 5	0. 31
	8	124	72. 5	1. 3	4. 0	0. 26
	9	120	72. 6	1. 0	2. 9	0. 13
	10	110	72. 9	1. 1	2. 8	0. 27
	11	120	72. 9	1. 1	2. 7	0. 16
	12	121	72. 3	0. 82	2. 3	0. 14
	8. 1	124	71. 6	0. 64	1. 9	0. 11
	2	110	70. 7	0. 96	2. 9	0. 10
	3	109	70. 6	1. 1	2. 7	0. 092
MP－8	7. 4	120	74. 2	0. 80	2. 5	0. 13
	5	124	74. 2	0. 98	2. 9	0. 24
	6	119	73. 9	1. 4	3. 2	0. 20
	7	115	73. 8	1. 6	4. 0	0. 31
	8	124	74. 2	1. 4	4. 0	0. 25
	9	120	74. 3	1. 1	3. 3	0. 15
	10	120	74. 3	1. 2	3. 1	0. 26
	11	110	73. 5	1. 2	3. 1	0. 17
	12	120	73. 6	0. 88	2. 3	0. 14
	8. 1	117	73. 8	0. 65	1. 9	0. 11
	2	110	73. 5	0. 99	3. 1	0. 12
	3	110	73. 4	1. 1	2. 5	0. 094

(注) 1 測定時間は、すべて 10 分間である。

2 放射能濃度の有効数字は 2 桁である。

(イ) 集じん終了5時間後の測定結果

(単位 : Bq/m³)

測定地点	年 月	集じん 回 数 (回)	平均 空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	最高値	最低値
MP－1	7. 4	120	71. 7	0. 021	0. 10	*
	5	124	71. 7	0. 029	0. 088	*
	6	118	71. 8	0. 034	0. 13	0. 00067
	7	119	71. 5	0. 060	0. 20	0. 0037
	8	124	71. 8	0. 046	0. 17	0. 0026
	9	120	72. 1	0. 030	0. 11	*
	10	120	72. 6	0. 030	0. 082	0. 000083
	11	110	73. 0	0. 022	0. 076	0. 00042
	12	119	72. 8	0. 014	0. 044	0. 0020
	8. 1	124	72. 3	0. 0067	0. 026	0. 00091
	2	112	71. 9	0. 013	0. 050	0. 0013
	3	102	71. 8	0. 024	0. 087	0. 0012
MP－5	7. 4	120	72. 4	0. 024	0. 076	*
	5	124	72. 4	0. 032	0. 11	0. 0012
	6	119	71. 9	0. 037	0. 14	*
	7	115	72. 4	0. 062	0. 23	0. 0037
	8	124	72. 5	0. 052	0. 19	0. 0025
	9	120	72. 6	0. 034	0. 18	0. 00075
	10	110	72. 9	0. 034	0. 078	0. 00017
	11	120	72. 9	0. 025	0. 078	*
	12	121	72. 3	0. 013	0. 055	*
	8. 1	124	71. 6	0. 0028	0. 027	*
	2	110	70. 7	0. 0086	0. 052	*
	3	109	70. 6	0. 024	0. 10	*
MP－8	7. 4	120	74. 2	0. 020	0. 073	0. 00055
	5	124	74. 2	0. 029	0. 11	*
	6	119	73. 9	0. 034	0. 13	0. 00090
	7	115	73. 8	0. 060	0. 22	0. 0037
	8	124	74. 2	0. 048	0. 19	0. 0017
	9	120	74. 3	0. 031	0. 15	*
	10	120	74. 3	0. 031	0. 083	0. 00056
	11	110	73. 5	0. 024	0. 075	*
	12	120	73. 6	0. 012	0. 048	*
	8. 1	117	73. 8	0. 0041	0. 024	*
	2	110	73. 5	0. 0098	0. 049	*
	3	110	73. 4	0. 022	0. 087	*

(注) 1 測定時間は、すべて10分間である。

2 *は検出下限値未満を示す。

3 放射能濃度の有効数字は2桁である。

付表6 浮遊じんの四半期別全ベータ放射能測定結果

ア 6時間集じんの測定結果

(ア) 集じん終了直後の測定結果

(単位：Bq/m³)

測定地点	令和7年度の測定結果					対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
	測定期間	集じん 回数 (回)	平均 空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直 近 >	
						< 参考 > 直近5カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)	直近5カ年 (R2～R6年度)
MP－1	第1四半期	362	71.7	1.1	0.12～3.1	0.075～4.2	0.023～4.4
	第2四半期	363	71.8	1.3	0.17～3.8	0.079～4.4	
	第3四半期	349	72.8	1.0	0.16～2.9	0.034～3.1	
	第4四半期	338	72.0	0.89	0.094～3.1	0.023～2.7	
MP－5	第1四半期	363	72.3	0.99	0.12～2.9	0.059～4.0	0.041～4.0
	第2四半期	359	72.5	1.2	0.13～4.0	0.068～3.9	
	第3四半期	351	72.7	0.98	0.14～2.8	0.041～2.9	
	第4四半期	343	71.0	0.88	0.092～2.9	0.063～3.1	
MP－8	第1四半期	363	74.1	1.0	0.13～3.2	0.071～4.2	0.030～4.4
	第2四半期	359	74.1	1.4	0.15～4.0	0.077～4.4	
	第3四半期	350	73.8	1.1	0.14～3.1	0.030～3.3	
	第4四半期	337	73.6	0.91	0.094～3.1	0.076～3.0	

(注) 1 測定時間は、全て10分間である。

2 放射能濃度の有効数字は2桁である。

第2四半期の事象報告は p88 参考資料3 参照

第4四半期の事象報告は p97 参考資料5 参照

(イ) 集じん終了5時間後の測定結果

(単位: Bq/m³)

測定地点	令和7年度の測定結果					対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
	測定期間	集じん 回数 (回)	平均 空気吸引量 (m ³ /回)	平均値	測定値の範囲	< 直 近 >	
						< 参 考 > 直近5カ年の 同一四半期 (R2～R6年度)	直近5カ年 (R2～R6年度)
MP-1	第1四半期	362	71.7	0.028	* ～ 0.13	* ～ 0.15	* ～ 0.24
	第2四半期	363	71.8	0.045	* ～ 0.20	* ～ 0.24	
	第3四半期	349	72.8	0.022	0.000083 ～ 0.082	* ～ 0.12	
	第4四半期	338	72.0	0.014	0.00091 ～ 0.087	* ～ 0.078	
MP-5	第1四半期	363	72.3	0.031	* ～ 0.14	* ～ 0.20	* ～ 0.24
	第2四半期	359	72.5	0.049	0.00075 ～ 0.23	* ～ 0.24	
	第3四半期	351	72.7	0.023	* ～ 0.078	* ～ 0.13	
	第4四半期	343	71.0	0.011	* ～ 0.10	* ～ 0.098	
MP-8	第1四半期	363	74.1	0.028	* ～ 0.13	* ～ 0.20	* ～ 0.23
	第2四半期	359	74.1	0.046	* ～ 0.22	* ～ 0.23	
	第3四半期	350	73.8	0.022	* ～ 0.083	* ～ 0.13	
	第4四半期	337	73.6	0.012	* ～ 0.087	* ～ 0.095	

- (注) 1 測定時間は、全て10分間である。
 2 *は検出下限値未満を示す。
 3 放射能濃度の有効数字は2桁である。

第4四半期の事象報告は p97 参考資料5 参照

付表 7 環境試料の核種分析結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
浮遊じん	MP-1	7. 4. 30	Bq/m ³	*	*	*	/	*	*	0.0029	/	/	/	
		5. 31		*	*	*	/	*	*	0.0035	/	/	/	
		6. 30		*	*	*	/	*	*	0.0030	/	/	/	
		7. 31		*	*	*	/	*	*	0.0025	/	/	/	
		8. 31		*	*	*	/	*	*	0.0020	/	/	/	
		9. 30		*	*	*	/	*	*	0.0025	/	/	/	
		10. 31		*	*	*	/	*	*	0.0039	/	/	/	
		11. 30		*	*	*	/	*	*	0.0037	/	/	/	
		12. 31		*	*	*	/	*	*	0.0028	/	/	/	
		8. 1. 31		*	*	*	/	*	*	0.0022	/	/	/	
		2. 28		*	*	*	/	*	*	0.0043	/	/	/	
		3. 31		*	*	*	/	*	*	0.0041	/	/	/	
	MP-5	7. 4. 30		*	*	*	/	*	*	0.0029	/	/	/	
		5. 31		*	*	*	/	*	*	0.0033	/	/	/	
		6. 30		*	*	*	/	*	*	0.0030	/	/	/	
		7. 31		*	*	*	/	*	*	0.0025	/	/	/	
		8. 31		*	*	*	/	*	*	0.0019	/	/	/	
		9. 30		*	*	*	/	*	*	0.0022	/	/	/	
		10. 31		*	*	*	/	*	*	0.0034	/	/	/	
		11. 30		*	*	*	/	*	*	0.0034	/	/	/	
		12. 31		*	*	*	/	*	*	0.0026	/	/	/	
		8. 1. 31		*	*	*	/	*	*	0.0021	/	/	/	
		2. 28		*	*	*	/	*	*	0.0040	/	/	/	
		3. 31		*	*	*	/	*	*	0.0040	/	/	/	

- (注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
 3 *は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
浮遊じん		MP－8	7. 4. 30	Bq/m ³	*	*	*		*	*	0.0029				
			5. 31		*	*	*		*	*	0.0033				
			6. 30		*	*	*		*	*	0.0028				
			7. 31		*	*	*		*	*	0.0023				
			8. 31		*	*	*		*	*	0.0019				
			9. 30		*	*	*		*	*	0.0023				
			10. 31		*	*	*		*	*	0.0037				
			11. 30		*	*	*		*	*	0.0035				
			12. 31		*	*	*		*	*	0.0027				
			8. 1. 31		*	*	*		*	*	0.0022				
			2. 28		*	*	*		*	*	0.0042				
			3. 31		*	*	*		*	*	0.0041				
陸水	飲料水	刈羽村 刈羽	7. 4. 11	Bq/L	*	*	*		*	*	*	0.035		*	pH：7.24
			7. 8		*	*	*		*	*	*	0.037		*	pH：6.21
			10. 17		*	*	*		*	*	*	0.046	0.0015	*	pH：7.08
			8. 2. 2		*	*	*		*	*	*	0.037		*	pH：6.83
		柏崎市 荒浜	7. 4. 11		*	*	*		*	*	*	0.037		0.55	pH：7.25
			7. 8		*	*	*		*	*	*	0.043		*	pH：6.45
			10. 14		*	*	*		*	*	*	0.046		*	pH：6.89
			8. 2. 2		*	*	*		*	*	*	0.034		*	pH：6.72
土壌	陸土 (0～5cm)	MP－2 付近	7. 5. 16	Bq/kg乾	*	*	*		*	2.0	6.2	*		地目：裸地、性状：砂質、色：褐色	
			11. 6		*	*	*		*	2.4	9.9	370		地目：裸地、性状：砂質、色：褐色	
		MP－8 付近	7. 5. 16		*	*	*		*	1.2	8.4	450		地目：裸地、性状：砂質、色：褐色	
			11. 6		*	*	*		*	1.6	7.1	420		地目：裸地、性状：砂質、色：褐色	

- (注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。
- 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
- 3 *は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種					天然放射性核種		放射化学分析		備考	
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90		H-3
農産物	米 (精米)	刈羽村 勝山	7. 10. 20	Bq/kg生	*	*	*		*	*	*	26	*		品種: コシヒカリBL
		刈羽村 高町	7. 10. 20		*	*	*		*	0. 013	*	18			品種: しんのすけ
	キャベツ	刈羽村 勝山	8. 1. 8		*	*	*	*	*	*	9. 2	110			品種: やひこ
		刈羽村 高町	8. 1. 26		*	*	*	*	*	*	1. 2	100	0. 055		品種: やひこ
	大根 (根部)	刈羽村 勝山	7. 12. 1		*	*	*		*	*	0. 29	48	0. 017		品種: 新貴聖
		刈羽村 高町	7. 12. 4		*	*	*		*	*	0. 49	71			品種: 耐病総太り
指標生物	松葉 (2年葉)	発電所 北側	7. 5. 15	Bq/kg生	*	*	*		*	*	53	77			品種: クロマツ
			8. 14		*	*	*		*	*	36	63			品種: クロマツ
			11. 7		*	*	*		*	*	56	71			品種: クロマツ
			8. 3. 6		*	*	*		*	0. 047	47	68			品種: クロマツ
		発電所 南側	7. 5. 15		*	*	*		*	0. 039	48	76			品種: クロマツ
			8. 14		*	*	*		*	0. 051	35	60			品種: クロマツ
			11. 7		*	*	*		*	0. 032	57	63			品種: クロマツ
			8. 3. 6		*	*	*		*	0. 044	47	64			品種: クロマツ

- (注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。
- 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
- 3 *は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種					天然放射性核種		放射化学分析		備考	
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90		H-3
海水 (表層水)	放水口 (南)付近	7. 5. 8	Bq/L	*	*	*	/	*	*	*	/	/	*	pH:7.83、塩分量:31.0	
		7. 3		*	*	*	/	*	*	*	/	/	*	pH:7.86、塩分量:32.0	
		10.15		*	*	*	/	*	*	*	/	0.0011	*	pH:8.21、塩分量:31.0	
		8. 2.13		*	*	*	/	*	*	*	/	/	*	pH:7.79、塩分量:31.0	
	放水口 (北)付近	7. 5. 8		*	*	*	/	*	*	*	/	/	*	pH:7.85、塩分量:31.0	
		7. 3		*	*	*	/	*	*	*	/	/	*	pH:7.99、塩分量:31.4	
		10. 9		*	*	*	/	*	*	*	/	/	*	pH:7.96、塩分量:32.0	
		8. 2.13		*	*	*	/	*	*	*	/	/	0.41	pH:7.77、塩分量:31.3	
海底土 (表層土)	放水口 (南)付近	7. 5.19	Bq/kg乾	*	*	*	/	*	*	*	330	/	/	水深:約11.8m、 試料の状況:砂質	
		10. 2		*	*	*	/	*	*	*	460	/	/	水深:11.9m、 試料の状況:砂質	
	放水口 (北)付近	7. 5.19		*	*	*	/	*	*	16	450	/	/	水深:約9.4m、 試料の状況:砂質	
		10. 2		*	*	*	/	*	*	*	510	/	/	水深:9.2m、 試料の状況:砂質	
海産物	マダイ	発電所 前面海域	7. 5.12	Bq/kg生	*	*	*	/	*	0.093	*	140	*	/	発電所沖合:約4km
	ヒラメ	発電所 前面海域	7. 5.12		*	*	*	/	*	0.10	*	130	/	/	発電所沖合:約4km
	サザエ	柏崎市椎谷岬 (観音岬)	7. 7.29		*	*	*	/	*	*	3.0	68	*	/	
	ワカメ	放水口 (南)付近	7. 5.19		*	*	*	*	*	*	*	170	/	/	
		放水口 (北)付近	7. 5.19		*	*	*	*	*	*	0.41	220	/	/	

- (注) 1 Be-7、K-40は「参考値」である。
 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
 3 *は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
指標生物	ホンダワラ類 (葉 茎)	放水口 (南)付近	7. 5. 19	Bq/kg生	*	*	*	*	*	*	3. 5	350	0. 043		品種:イソモク
			9. 9		*	*	*	*	*	*	3. 2	380			品種:ヨレモク
			11. 27		*	*	*	*	*	*	13	300			品種:ヨレモク・イソモク
			8. 2. 26		*	*	*	*	*	*	4. 4	310			品種:イソモク
		放水口 (北)付近	7. 5. 19		*	*	*	*	*	*	5. 7	330			品種:イソモク
			9. 9		*	*	*	*	*	0. 083	5. 5	330			品種:ヨレモク
			11. 27		*	*	*	*	*	*	7. 9	340			品種:ヨレモク
			8. 2. 26		*	*	*	*	*	*	7. 7	320			品種:ヨレモク

- (注) 1 Be-7、K-40 は「参考値」である。
- 2 放射能濃度の有効数字は2桁である。
- 3 *は検出下限値未満を示す。

付表 8 環境試料の核種濃度検出下限値

試 料 名		単 位	Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Sr-90	H-3
浮遊じん（月間）		Bq/m ³	2.6×10^{-6}	3.5×10^{-6}	3.3×10^{-6}		3.5×10^{-6}	2.8×10^{-6}		
陸 水	飲 料 水	Bq/L	1.0×10^{-3}	1.1×10^{-3}	1.3×10^{-3}		1.4×10^{-3}	1.1×10^{-3}	4.0×10^{-4}	4.0×10^{-1}
土 壤	陸 土	Bq/kg乾	5.2×10^{-1}	4.8×10^{-1}	4.9×10^{-1}		5.0×10^{-1}	4.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	
農 産 物	米 （精 米）	Bq/kg生	9.4×10^{-3}	1.1×10^{-2}	1.2×10^{-2}		1.0×10^{-2}	9.7×10^{-3}	1.3×10^{-2}	
	キャベツ		1.9×10^{-2}	2.2×10^{-2}	2.5×10^{-2}	1.3×10^{-1}	1.8×10^{-2}	1.8×10^{-2}	1.9×10^{-2}	
	大 根 （根 部）		1.1×10^{-2}	1.3×10^{-2}	1.7×10^{-2}		1.3×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1.1×10^{-2}	
指標生物	松 葉	Bq/kg生	2.7×10^{-2}	3.0×10^{-2}	3.6×10^{-2}		2.8×10^{-2}	2.5×10^{-2}		
海 水		Bq/L	1.6×10^{-3}	2.0×10^{-3}	2.1×10^{-3}		2.2×10^{-3}	1.9×10^{-3}	6.5×10^{-4}	3.9×10^{-1}
海 底 土		Bq/kg乾	4.6×10^{-1}	5.5×10^{-1}	6.1×10^{-1}		6.0×10^{-1}	5.8×10^{-1}		
海 産 物	マ ダ イ	Bq/kg生	3.0×10^{-2}	3.7×10^{-2}	4.6×10^{-2}		3.3×10^{-2}	3.1×10^{-2}	2.1×10^{-2}	
	ヒ ラ メ		3.4×10^{-2}	4.0×10^{-2}	4.7×10^{-2}		3.5×10^{-2}	3.3×10^{-2}		
	サ ザ エ		2.6×10^{-2}	3.4×10^{-2}	3.6×10^{-2}		3.0×10^{-2}	3.0×10^{-2}	2.5×10^{-2}	
	ワ カ メ		4.8×10^{-2}	5.1×10^{-2}	8.4×10^{-2}	1.0×10^{-1}	4.4×10^{-2}	4.2×10^{-2}		
指標生物	ホタテ類	Bq/kg生	8.2×10^{-2}	8.4×10^{-2}	9.2×10^{-2}	1.8×10^{-1}	7.1×10^{-2}	7.0×10^{-2}	2.4×10^{-2}	

（注）検出下限値は、試料量やバックグラウンド計数率等の違いにより測定毎に異なるため、令和7年度の代表的な数値を掲げた。

付表 9 海水放射能モニタの月別測定結果

(単位 : cpm)

調査地点	年 月	測定時間 (時間)	平 均 値	最 低 値 (10分値)	最 高 値 (10分値)
放水口(南) 1号機放水口	7. 4	720	446	389	1,055
	5	744	440	398	855
	6	720	425	393	524
	7	726	419	389	453
	8	744	417	387	1,642
	9	720	418	385	1,069
	10	744	440	382	4,849
	11	720	461	375	1,916
	12	744	491	388	4,137
	8. 1	744	546	389	3,853
	2	667	485	409	1,983
	3	677	468	412	1,475
放水口(南) 2号機放水口	7. 4	720	474	421	1,334
	5	744	451	416	830
	6	720	433	400	542
	7	726	416	384	448
	8	744	416	381	1,811
	9	720	421	385	1,506
	10	744	434	381	4,885
	11	720	453	375	1,778
	12	744	473	384	3,313
	8. 1	744	518	381	3,313
	2	667	464	394	1,726
	3	677	458	396	1,346
放水口(南) 3号機放水口	7. 4	720	431	379	1,220
	5	744	416	380	635
	6	720	404	372	474
	7	730	397	369	428
	8	742	394	357	1,597
	9	720	393	359	1,586
	10	744	409	362	4,925
	11	720	430	349	1,644
	12	744	455	368	3,335
	8. 1	744	522	367	3,632
	2	667	444	376	1,709
	3	677	441	385	1,876

(単位：cpm)

調査地点	年 月	測定時間 (時間)	平 均 値	最 低 値 (10分値)	最 高 値 (10分値)
放水口(南) 4号機放水口	7. 4	720	456	400	1,293
	5	744	443	410	857
	6	720	431	399	508
	7	730	425	396	512
	8	742	428	391	1,764
	9	720	432	392	1,682
	10	744	446	391	4,588
	11	720	463	378	1,837
	12	744	487	388	4,487
	8. 1	744	540	396	3,804
	2	667	471	403	1,692
	3	677	467	407	2,014
放水口(北) 5号機放水口	7. 4	720	465	397	2,301
	5	744	457	404	1,454
	6	720	440	402	834
	7	743	423	395	603
	8	734	448	389	4,871
	9	720	436	390	1,315
	10	744	462	389	2,861
	11	720	484	383	3,711
	12	744	500	393	2,569
	8. 1	744	507	388	2,049
	2	672	471	405	2,983
	3	677	461	396	2,270
放水口(北) 6号機放水口	7. 4	720	415	366	2,011
	5	744	415	367	823
	6	720	406	371	649
	7	743	393	366	432
	8	734	413	354	2,559
	9	720	400	364	1,058
	10	744	416	359	1,988
	11	720	428	359	2,428
	12	744	450	366	1,740
	8. 1	744	457	352	1,261
	2	672	426	370	1,507
	3	677	423	364	1,061

(単位：cpm)

調査地点	年 月	測定時間 (時間)	平 均 値	最 低 値 (10分値)	最 高 値 (10分値)
放水口(北) 7号機放水口	7. 4	720	423	367	1,152
	5	744	419	378	833
	6	720	405	371	581
	7	743	391	364	457
	8	734	406	362	2,324
	9	720	401	364	937
	10	744	414	362	1,918
	11	720	430	357	1,702
	12	744	456	367	1,914
	8. 1	744	492	367	1,431
	2	672	457	391	1,604
	3	677	446	375	1,484

付表 10 モニタリングポスト・環境試料等の地点等変更履歴

(1) 空間放射線量率測定地点他

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S57. 4	モニタリングポスト	全地点	測定開始	

(2) 積算線量測定地点他

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S57. 4	モニタリングポイント	全地点	測定開始	
H 3. 4	モニタリングポイント	全地点	測定素子更新	
H15. 4	モニタリングポイント	柏崎市松波	測定地点を約 12m 移動	
H16. 4	モニタリングポイント	全地点	熱蛍光線量計→蛍光ガラス線量計に変更	
H20. 7	モニタリングポイント	柏崎市椎谷	測定地点を約 200m 移動	
H29. 4	モニタリングポイント	全地点	蛍光ガラス線量計を更新	

(3) 環境試料採取地点・種類

ア. 浮遊じん

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S57. 4	浮遊じん	MP－1 MP－8	測定開始	
H 元. 7	浮遊じん	MP－5	測定開始	
H20. 1 ～H20. 2	浮遊じん	全地点	24 時間集じん→6 時間集じんに変更	測定装置の更新に伴うもの

イ. 陸水（飲料水）

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 6	陸水（飲料水）	刈羽村高町 柏崎市荒浜	採取開始	
H 5. 5	陸水（飲料水）	刈羽村刈羽	刈羽村高町→刈羽村刈羽に地点変更	

ウ. 土壌（陸土）

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 6	土壌（陸土）	MP－2 付近 MP－8 付近	採取開始	

エ. 農産物

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 10	農産物（米）	刈羽村勝山 刈羽村高町	採取開始	
S56. 10	農産物（大根）	刈羽村勝山 刈羽村高町	採取開始	
S57. 10	農産物（野沢菜）	刈羽村勝山 刈羽村高町	採取開始	
S58. 10	農産物（白菜）	刈羽村勝山 刈羽村高町	野沢菜→白菜に変更	
S59. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山 刈羽村高町	白菜→キャベツに変更	
S60. 11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を青首→総太りに変更	
S61. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→柳生に変更	
S62. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
S62. 10	農産物（米）	刈羽村高町	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
S62. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を柳生→秋ひかりに変更	
S62. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→深みどりに変更	
S63. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をコシヒカリ→越路早生に変更	
S63. 10	農産物（米）	刈羽村高町	品種をコシヒカリ→越路早生に変更	
S63. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を秋ひかり→やひこに変更	
S63. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を深みどり→やひこに変更	
H 元. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→深みどりに変更	
H 2. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
H 2. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→越のひかりに変更	
H 3. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を深みどり→越のひかりに変更	
H 4. 10	農産物（米）	刈羽村高町	採取地点の下高町が圃場整備のため、正明寺にて採取	
H 4. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を越のひかり→やひこに変更	
H 4. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり→大御所に変更	
H 5. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を大御所→やひこに変更	
H 5. 11	農産物（大根）	刈羽村勝山	品種を総太り→新貴聖に変更	
H 6. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→ゆきの精に変更	
H 6. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→金力に変更	
H 7. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→寒めいに変更	
H 7. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→越のひかりに変更	

H 8. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をゆきの精→越路早生に変更	
H 8. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を寒めい→金力に変更	
H10. 10	農産物（米）	刈羽村高町	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
H10. 11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を総太り→宮重総太に変更	
H11. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこに変更	
H12. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→柳生に変更	
H15. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→こしいぶきに変更	
H16. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をこしいぶき→コシヒカリに変更	
H16. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→柳生に変更	
H19. 12	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を柳生→金力に変更	
H23. 12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり→やひこに変更	
H24. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこ A 号に変更	
H25. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ A→金力及びやひこ A 号に変更	
H26. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力及びやひこ A 号→金力に変更	
H26. 12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→やひこ及び冬みどりに変更	
H27. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこ及び金力に変更	
H27. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ及び冬みどり →越のひかりに変更	
H28. 11	農産物 （キャベツ、大根）	刈羽村高町	採取地点を約 50m 移動	採取依頼先農家の都合によるもの
H28. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ及び金力→金力に変更	
H28. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり →越のひかり及びやひこに変更	
H28. 11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を総太り→青首総太りに変更	
H29. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり及びやひこ→やひこに変更	
H30. 11	農産物（大根）	刈羽村高町	採取地点を約 400m 移動	採取依頼先農家の都合によるもの
H30. 12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→越のひかりに変更	
R 元. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→金力及びやひこに変更	
R 元. 12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり→やひこに変更	
R 2. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力及びやひこ→金力に変更	
R 4. 10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をコシヒカリ→コシヒカリ BL に変更	
R 4. 11	農産物 （キャベツ、大根）	刈羽村高町	採取地点を約 1900m 移動	採取依頼先農家の都合によるもの
R 4. 11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこに変更	
R 4. 11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を青首総太り→総太りに変更	
R 5. 10	農産物（米）	刈羽村高町	品種をコシヒカリ→新之助に変更	
R 6. 11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を総太り→耐病ひかりに変更	
R 6. 12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→妙高に変更	
R 7. 12	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を耐病ひかり→耐病総太りに変更	
R 8. 1	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を妙高→やひこに変更	

オ. 指標生物（松葉）

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 6	指標生物（松葉）	MP－2 付近 MP－8 付近	採取開始	
H19. 5	指標生物（松葉）	発電所北側 発電所南側	測定地点追加	
H21. 5	指標生物（松葉）	発電所北側 発電所南側	MP-2 付近及び発電所北側→発電所北側に変更 MP-8 付近及び発電所南側→発電所南側に変更	採取地点拡大のため

カ. 海水・海底土

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 6	海水・海底土	放水口	採取開始	
S59. 5	海水・海底土	放水口（北）予定 地点	地点追加	
S59. 5	海水	放水口（南）付近 放水口（北）予定 地点	放水口→放水口（南）付近に名称変更 放水口（北）予定地点を追加 年 2 回採取を 4 回に変更	
S59. 5	海底土	放水口（南）付近 放水口（北）予定 地点	放水口（北）地点追加	
S63. 5	海底土	放水口（北）予定 地点	放水口（北）予定地点→放水口（北）付近に名 称変更	

キ. 海産物

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 8	海産物（バイ貝）	周辺海域	採取開始	
S56. 10	海産物（マダイ）	発電所前面海域	採取開始	
S58. 8	海産物（ヒラメ）	発電所前面海域	採取開始	
S58. 10	海産物（キス）	発電所前面海域	採取開始	
S59. 6	海産物（ワカメ）	放水口（南）付近	採取開始	
S59. 9	海産物（サザエ）	柏崎市椎谷岬	バイ貝→サザエに変更	

S63. 5	海産物（ワカメ）	放水口（北）付近	採取開始	
--------	----------	----------	------	--

ク．指標生物（ホンダワラ類）

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S56. 6	指標生物 （ホンダワラ類）	柏崎市椎谷岬	採取開始	
S58. 8	指標生物 （ホンダワラ類）	柏崎市椎谷岬	年 2 回採取から 3 回に変更	
S59. 6	指標生物 （ホンダワラ類）	放水口（南）付近	採取地点を変更 年 3 回採取から 4 回に変更	
S63. 5	指標生物 （ホンダワラ類）	放水口（北）付近	採取地点を追加	

(4) 環境試料分析方法

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S58. 5	陸水（飲料水）	核種分析（トリチウムの放射化学分析）	測定開始	
S58. 5	海水	核種分析（トリチウムの放射化学分析）	測定開始	
H21. 8	海産物（サザエ）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21. 10	農産物（米）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21. 10	海水	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21. 11	土壌（陸土）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21. 11	農産物（大根）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21. 11	畜産物（牛乳）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21. 11	指標生物 （ホンダワラ類）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
R 2. 3	陸水（飲料水）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
R 2. 3	農産物（キャベツ）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
R 2. 3	海産物（マダイ）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	

(5) 海水放射能モニタ

年 月	種 別	地 点	概 要	備 考
S60. 4	海水放射能モニタ	放水口（南）	測定開始	
S63. 3	海水放射能モニタ	放水口（南）	検出器の位置変更	取り付け架台の改造に伴うもの
H 元. 6	海水放射能モニタ	放水口（北）	測定開始	

事 象 報 告

事象報告1 積算線量の測定結果について

令和7年度及び令和7年度第4四半期に測定した積算線量について、MP－9の測定値が対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

令和7年度におけるMP－9の積算線量の測定結果を表1に示す。また、対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えた同地点の年間の積算線量の推移を図1に、第4四半期の積算線量の推移を図2に示す。

表1 積算線量の測定結果

測定地点 (モニタリングポイント)	年間積算線量		四半期積算線量					
	令和7年度の測定結果	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	令和7年度の測定結果				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
		< 直 近 > 直近5カ年 (R2～R6年度)	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	< 直 近 > 直近5カ年 (R2～R6年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
MP－9	0.50	0.44～0.47	0.11	0.11	0.11	0.16	0.10～0.13	0.10～0.14

(注) 1 四半期積算線量は、実測値の91日換算値であり、単位はmGy/91日である。また、年間積算線量は、小数第3位まで求めた各四半期の実測積算線量の和の365日換算値であり、単位はmGy/365日である。

2 超過した測定値は網掛けとした。

3 事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計（TLD）による値である。

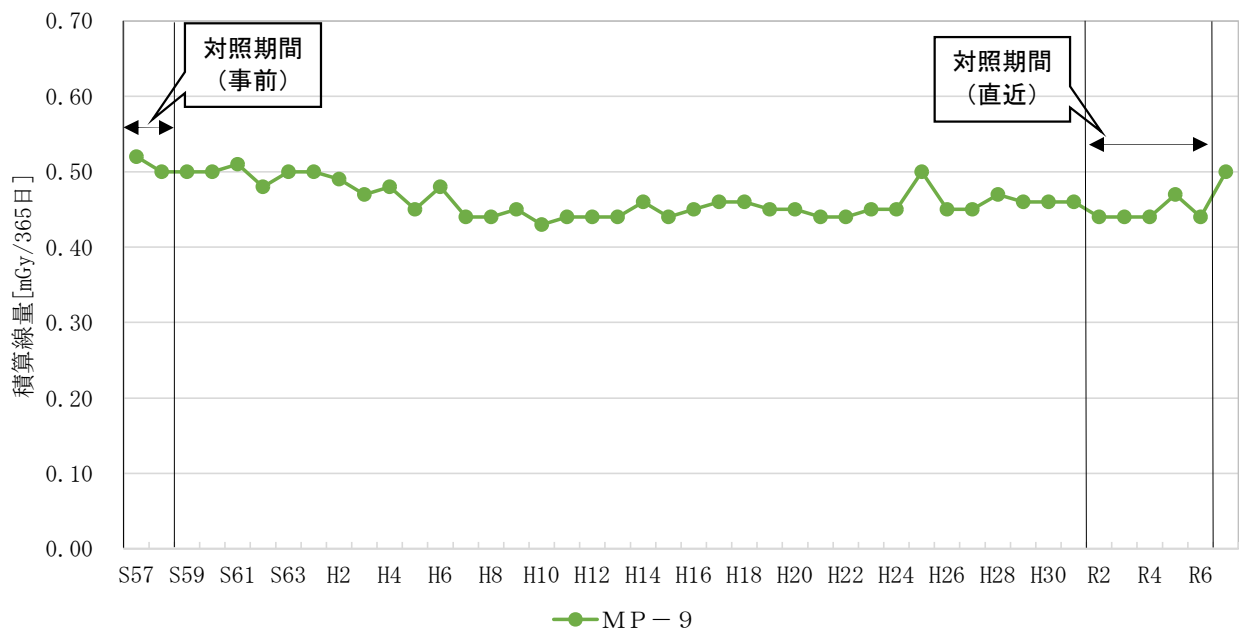


図1 積算線量の推移(年間)

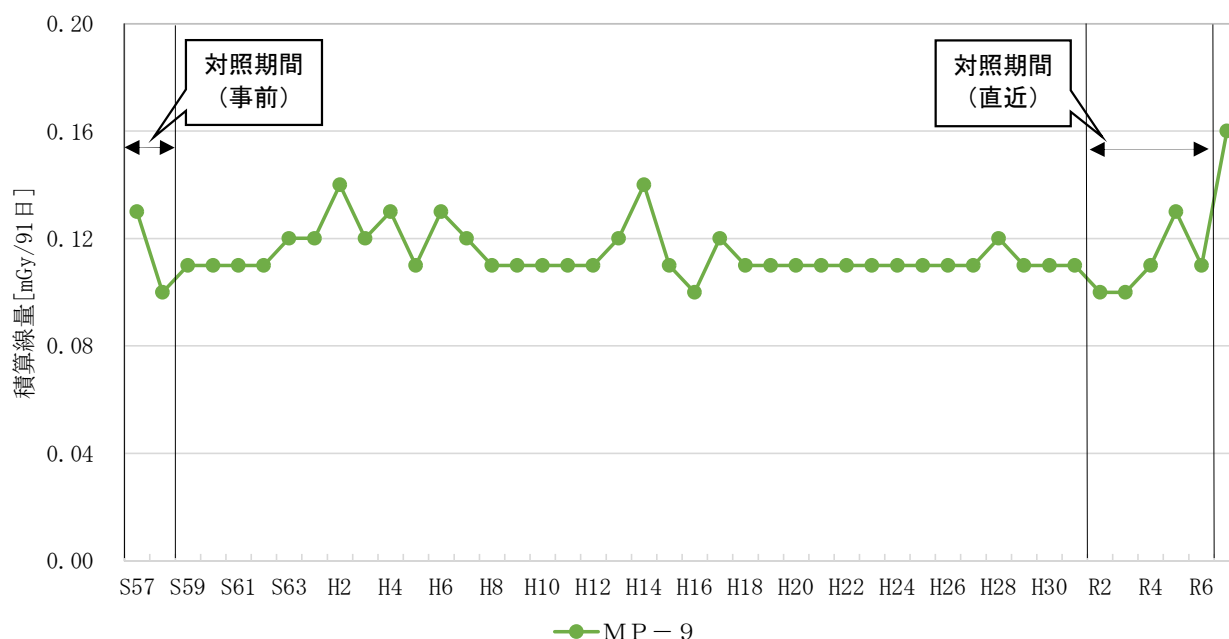


図2 積算線量の推移(第4四半期)

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

蛍光ガラス線量計における積算期間(※)のうち、1から5号機及び7号機の原子炉は停止していたが、令和8年1月21日から22日、2月9日から19日及び2月24日から3月12日において、6号機の原子炉は稼働していた。

令和6年度から令和7年度において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種(トリチウムを除く)は検出されなかった。

※蛍光ガラス線量計における積算期間：令和7年3月13日から令和8年3月12日

(2) 測定状況

文部科学省のマニュアル(※)に準拠し、蛍光ガラス線量計の設置、回収、測定及び校正等が適切に行われていることを確認している。

※「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法(平成14年制定)」

(3) 外部要因

ア. 周辺環境の変化

測定地点の周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ. 非破壊検査等

発電所構内(屋外)における非破壊検査中にモニタリングポスト(MP-9)の測定値にRI線源の影響がないことを確認している。

(4) 気象

ア. 気温、降水等の影響

積算線量については、気温の上昇に伴う天然放射性核種の土壌から大気中への放出、降水により大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下並びに積雪により大地からの放射線が遮蔽されること等により変動すると考えられる。

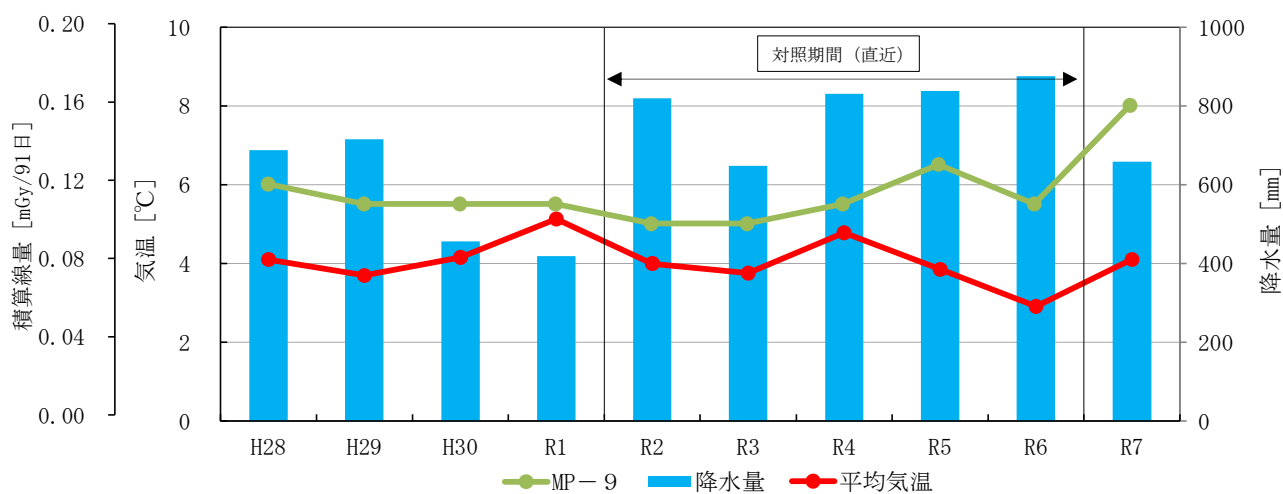
第4四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移を図3に、平均積雪深及び積算線量の推移を図4に示す。また、降水日数、積雪日数及び積算線量の比較を表2に示す。

これによると令和7年度第4四半期について、平均気温は平年並みであったが、降水量及び降水日数は

平年より少なめであった。

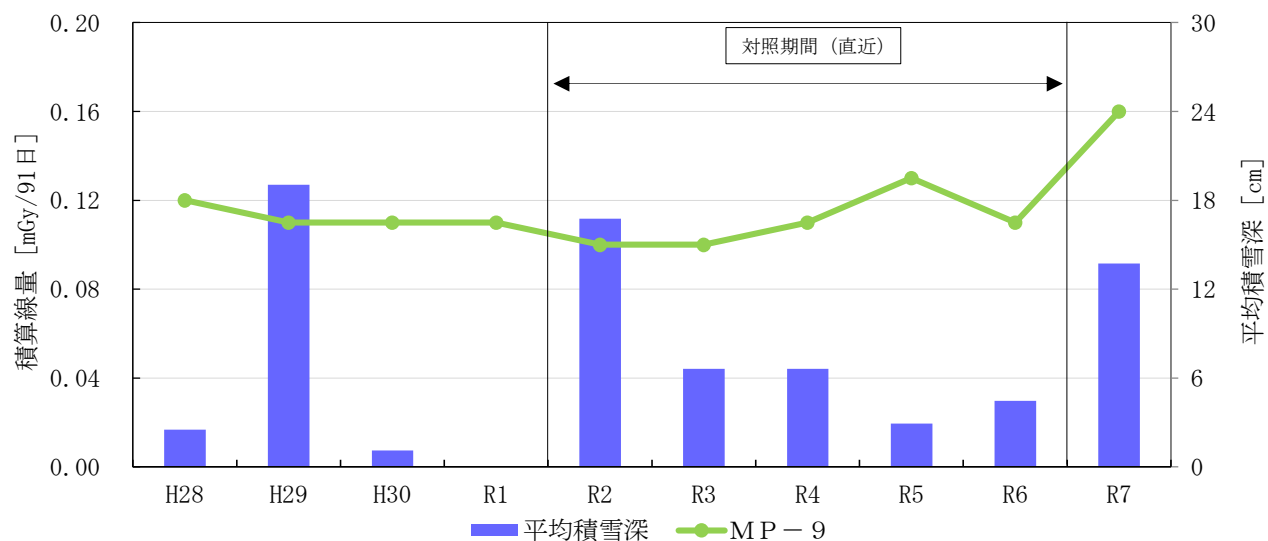
また、平均積雪深及び積雪日数は平年より多めであった。

以上を踏まえ、気温及び降水等の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性は低いと考えられる。



(気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所)

図3 第4四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移



(気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所)

(平均積雪深：第4四半期の積算線量の積算期間における日平均値)

図4 第4四半期における平均積雪深及び積算線量の推移

表2 第4四半期における降水日数、積雪日数、積算線量の比較

年度		R7	対照期間（直近）				
			R2	R3	R4	R5	R6
降水日数(日)		67	64	75	67	72	77
積雪日数(日)		44	47	62	38	24	37
積算線量 (mGy/91 日)	MP－9	0.16	0.10	0.10	0.11	0.13	0.11

- (注) 1 降水日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の雨雪量計が降水を検知した日数を集計したものであり、令和7年度より多い降水日数を網掛けとした。
- 2 積雪日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の積雪深計が積雪を検知した日数を集計したものであり、令和7年度より多い積雪日数を網掛けとした。

イ. 雷の影響

雷（落雷又は雷雲）による制動X線やγ線が積算線量の測定値に影響することがある。

蛍光ガラス線量計における積算期間において、2月2日及び2月18日に落雷又は雷雲によりモニタリングポスト（MP－9）の測定値に一時的な上昇が確認された。（図5、図8参照）

2月2日は、MP－9の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られたが、短時間でのわずかな上昇であったため、積算線量への影響は小さかったと考えられる。（図6、図7参照）

一方、2月18日は、MP－9の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られており、短時間ではあるが、高線量率計が大きく上昇していた。（図9、図10参照）

また、MP－9近傍には避雷鉄塔があり、避雷鉄塔近傍の建物に配備していた受動形個人線量計（蛍光ガラス線量計）では、2月17日配備分が2月25日配備分より0.089mGy高い値を示しており、MP－9及び当該建物から落雷地点（近傍の避雷鉄塔）までの距離を換算するとMP－9では0.014mGyの影響を受けた可能性がある。（図11参照）

これまでの測定結果においても、平成17年度及び平成25年度に落雷が原因と推測される積算線量の上昇を確認している。

以上を踏まえ、今回も雷の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性が考えられる。



図5 雷情報 (令和8年2月2日14時20分～14時25分) 【出典元：気象庁】

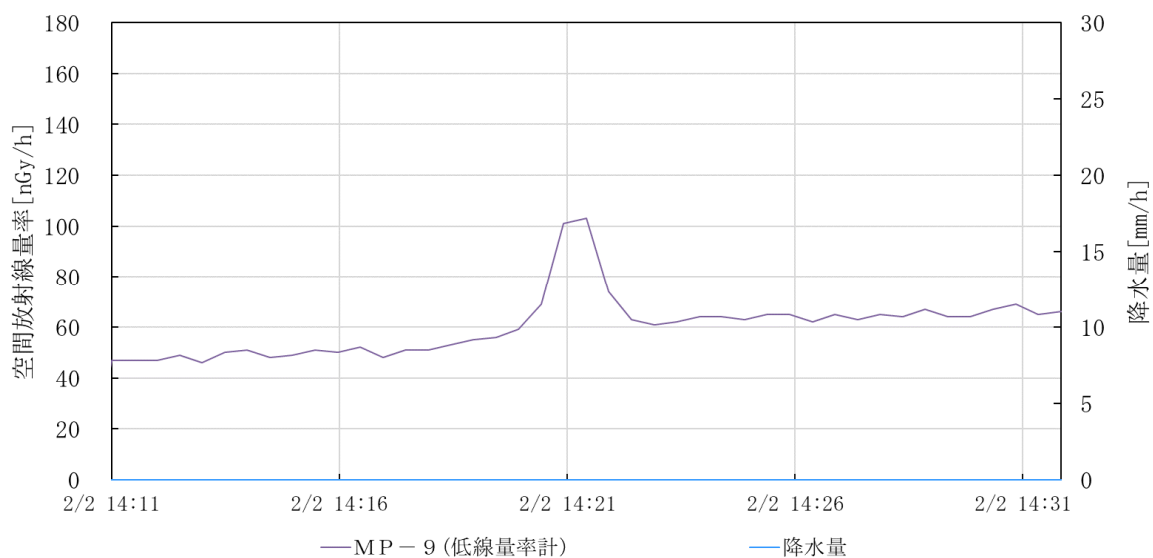


図6 令和8年2月2日の空間放射線量率 (30秒値) の推移

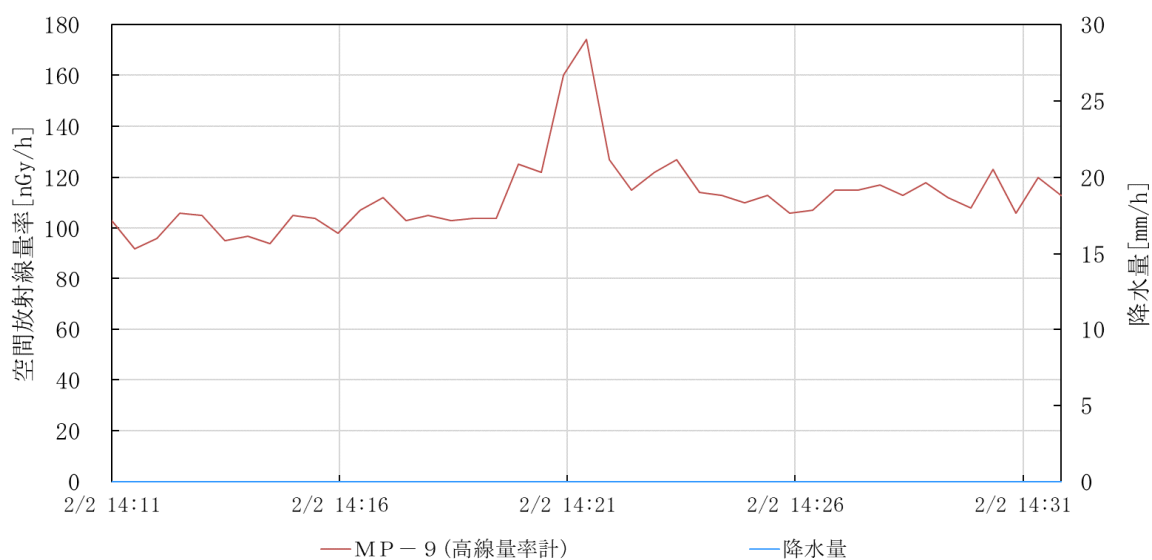


図7 令和8年2月2日の空間放射線量率 (30秒値) の推移

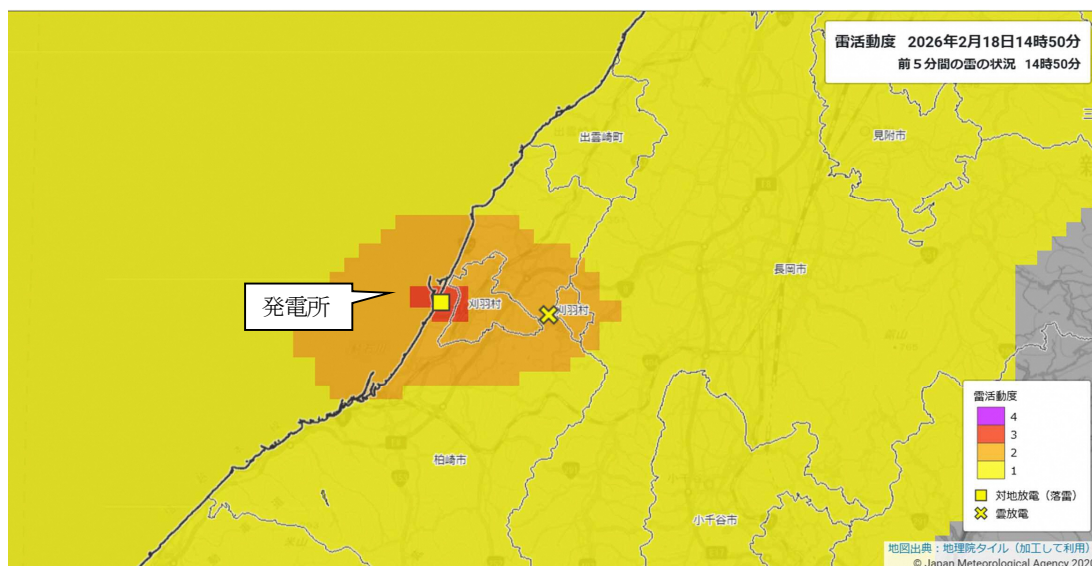


図8 雷情報 (令和8年2月18日14時45分～14時50分) 【出典元: 気象庁】

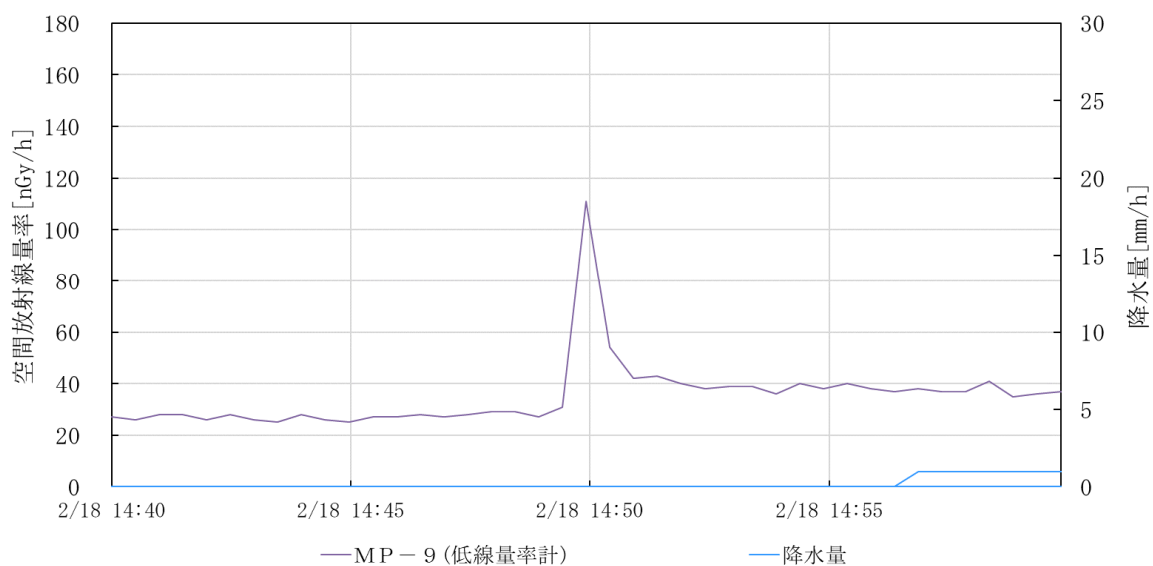


図9 令和8年2月18日の空間放射線量率 (30秒値) の推移

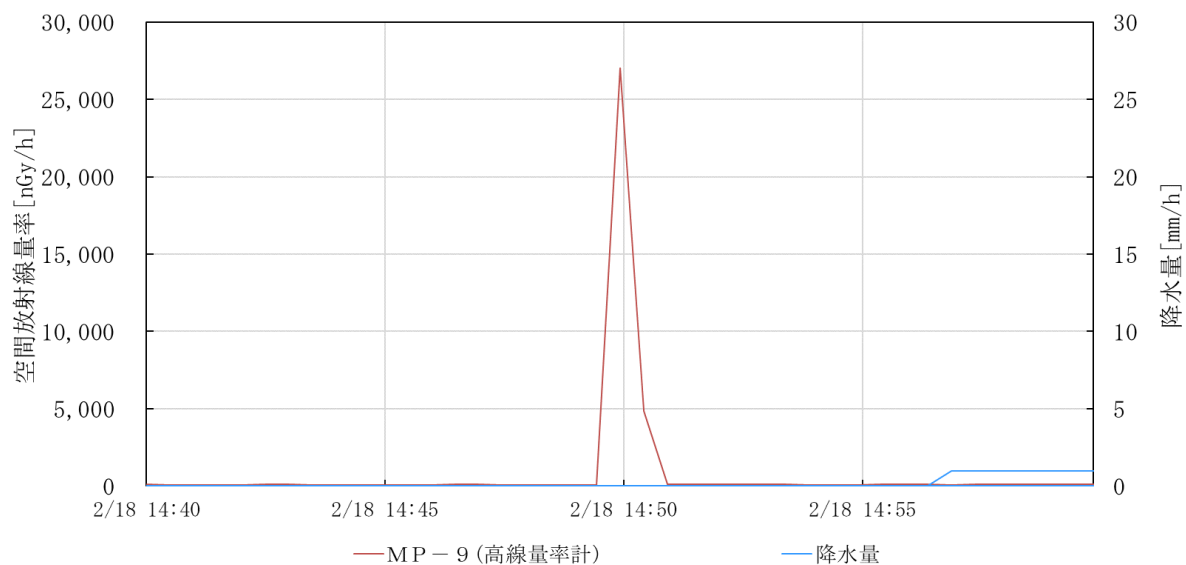


図10 令和8年2月18日の空間放射線量率 (30秒値) の推移

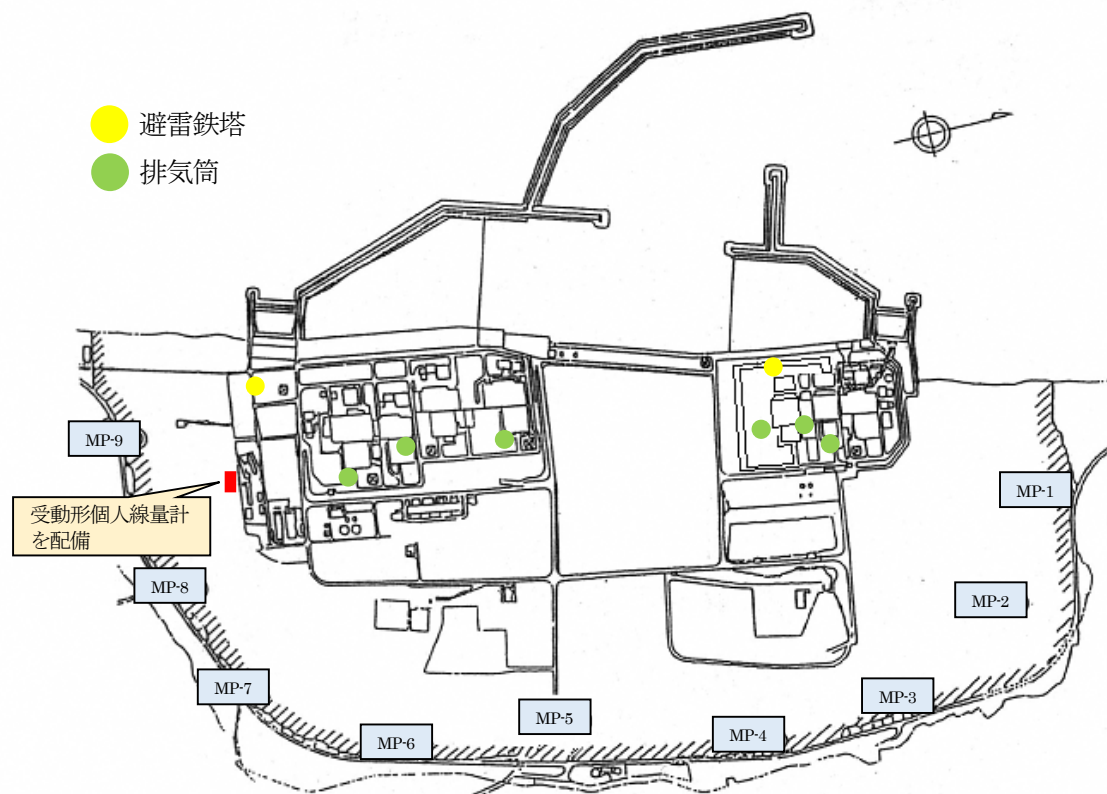


図 11 構内配置図

3 推定原因

調査結果より、令和 7 年度及び令和 7 年度第 4 四半期における MP-9 の測定値が、対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所の影響によるものではなく、雷による影響の可能性が考えられる。

以 上

事象報告 2 大根の核種分析結果（ストロンチウム 90）について

令和 7 年 12 月に採取した大根から人工放射性核種のストロンチウム 90 が検出され、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

令和 7 年 12 月に採取した大根の核種分析結果（ストロンチウム 90）を表 1 に示す。また、平成 21 年度以降のストロンチウム 90 濃度の推移を図 1 に示す。

表 1 大根の核種分析結果（ストロンチウム 90）

（単位：Bq/kg 生）

採取地点	採取年月日	測定結果	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
			< 直 近 > 直 近 5 カ 年 (R2～R6 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59. 12 まで)
刈羽村勝山	令和 7 年 12 月 1 日	0.017 (±0.004) ^{※1}	*	

(注) 1 *は検出下限値未満を示す。

2 超過した測定結果は網掛けとした。

3 大根については平成 21 年度よりストロンチウム 90 の測定を開始した。

※1 () 内は計数誤差を示す。

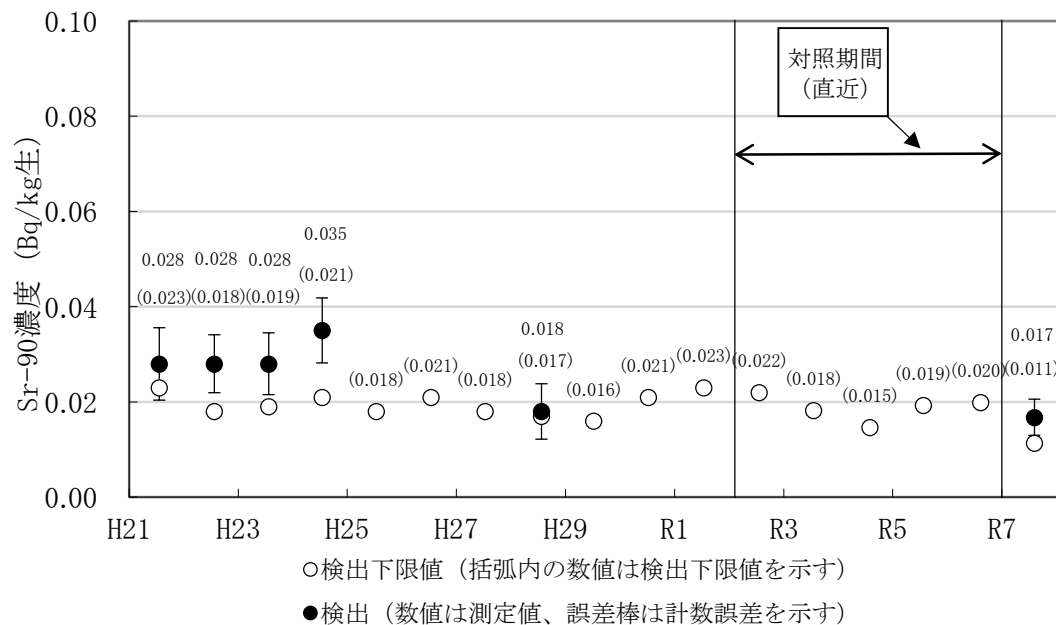


図 1 大根のストロンチウム 90 濃度（採取地点：刈羽村勝山）の推移

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

採取した大根の栽培期間（※）において、1 から 7 号機の原子炉は稼働していなかった。

令和 7 年度第 2 四半期から第 3 四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※ 採取した大根の栽培期間：令和 7 年 9 月から 12 月

(2) 測定状況

試料の採取、前処理、測定は、文部科学省の各マニュアル（※）に準拠し、適切に行われたことを確認している。また、試料の前処理の状況等から他試料からのストロンチウム 90 の汚染の可能性はないこと、並びに試料の測定前後におけるバックグラウンド値から測定装置に汚染がないことを確認している。

※「環境試料採取法（昭和 58 年制定）」、「放射性ストロンチウム分析法（平成 15 年改訂）」

(3) その他

ア．大根のストロンチウム 90 は平成 21 年度から測定を開始しているが、過去にも検出されている。

イ．同一地点における大根の核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

ウ．令和 7 年度は、東通原子力建設所にて核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）を実施しており、柏崎刈羽原子力発電所と測定条件（供試量など）が異なることから、検出下限値が従来よりも低くなっている。

3 推定原因

調査結果より、今回検出されたストロンチウム 90 は当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等の影響によるものと推定した。

以 上

事象報告3 キャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90）について

令和8年1月に採取したキャベツから人工放射性核種のストロンチウム 90 が検出され、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

令和8年1月に採取したキャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90）を表1に示す。また、令和元年度以降のストロンチウム 90 濃度の推移を図1に示す。

表1 キャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90）

（単位：Bq/kg 生）

採取地点	採取年月日	測定結果	対照期間の測定結果 (当該核種の測定値の範囲)	
			< 直 近 > 直 近 5 カ 年 (R2～R6 年度)	< 事 前 > 事前調査期間 (S59.12 まで)
刈羽村高町	令和8年1月26日	0.055 (±0.006) ^{※1}	*～0.025	

(注) 1 *は検出下限値未満を示す。

2 超過した測定結果は網掛けとした。

3 キャベツについては令和元年度よりストロンチウム 90 の測定を開始した。

※1 () 内は計数誤差を示す。

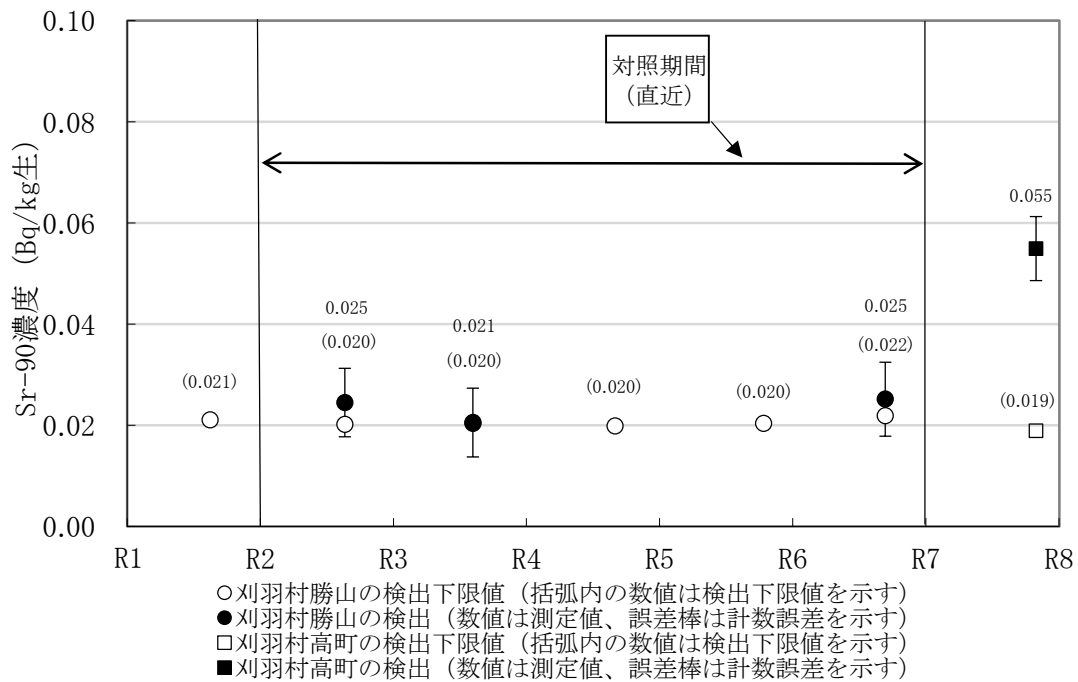


図1 キャベツのストロンチウム 90 濃度の推移

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

採取したキャベツの栽培期間（※）のうち、1から5号機及び7号機の原子炉は停止していたが、令和8年1月21日から22日において、6号機の原子炉は稼働していた。

令和7年度第2四半期から第4四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※採取したキャベツの栽培期間：令和7年8月から令和8年1月

(2) 測定状況

試料の採取、前処理、測定は、文部科学省の各マニュアル（※）に準拠し、適切に行われたことを確認している。また、試料の前処理の状況等から他試料からのストロンチウム90の汚染の可能性はないこと、並びに試料の測定前後におけるバックグラウンド値から測定装置に汚染がないことを確認している。

※「環境試料採取法（昭和58年制定）」、「放射性ストロンチウム分析法（平成15年改訂）」

(3) その他

ア. キャベツのストロンチウム90は令和元年度から測定を開始しているが、過去にも検出されている。

イ. 同一地点におけるキャベツの核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

ウ. 「令和7年度柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画」では、キャベツのストロンチウム90について、刈羽村勝山または刈羽村高町のいずれか1試料を測定することとしている。従来、刈羽村勝山の試料を測定してきたが、令和7年度は同地点におけるキャベツの生育不良に伴い、必要な試料量を確保できなかったため、刈羽村高町の試料を用いてストロンチウム90の測定を実施した。

エ. 採取地点変更の影響

ストロンチウム90は、根を通じて土壌から農作物へ移行するため、畑土壌中のストロンチウム90の量により変動すると考えられる。また、ストロンチウム90が移行する程度（移行係数）は、土壌の種類によって異なるとされており、一般に砂質の方が粘土質よりも比較的高い傾向がある。

令和7年度にキャベツのストロンチウム90を測定した刈羽村高町と対照期間（令和2年度から令和6年度）にキャベツのストロンチウム90を測定した刈羽村勝山の畑土壌の核種分析結果（ストロンチウム90）及び土壌の種類を表2に示す。

これによると刈羽村高町と刈羽村勝山の畑土壌はいずれも砂質であり、移行係数に大きな違いはないと考えられる。一方で、刈羽村高町の畑土壌中のストロンチウム90濃度は刈羽村勝山より高いため、畑土壌からキャベツへの移行量が多かったと考えられる。

以上を踏まえ、令和7年度は採取地点を刈羽村勝山から刈羽村高町に変更したこと、ならびに刈羽村高町の畑土壌におけるストロンチウム90濃度が刈羽村勝山より高いことが、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因であると推定される。

表2 畑土壌の核種分析結果（ストロンチウム90）及び土壌の種類

（単位：Bq/kg 乾土）

採取地点	採取年月日	畑土壌	
		ストロンチウム90	土壌の種類
刈羽村高町	令和8年6月2日	1.1 (±0.1) ^{※1}	砂質
刈羽村勝山	令和8年6月2日	0.57 (±0.08) ^{※1}	砂質

※1 （ ）内は計数誤差を示す。

3 推定原因

調査結果より、今回検出されたストロンチウム 90 は当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種(トリチウムを除く)が検出されていないこと等から、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等の影響によるものと推定した。

以 上

参 考 資 料

参考資料 1 令和 7 年度第 2 四半期の空間放射線量率の測定結果について

令和 7 年 8 月 7 日に測定した空間放射線量率について、MP－1、2、3 において 1 時間値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超え、MP－1、2、3、4、5 において 10 分値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

令和 7 年 8 月 7 日の空間放射線量率の測定結果を表 1 に示す。また、空間放射線量率の 10 分値の推移を図 1 に示す。

表 1 空間放射線量率の測定結果

(単位：nGy/h)

測定地点	対象月日	1 時間値及び 10 分値の最高値				対照期間の測定結果 (測定値の範囲)		
						< 直 近 > 直 近 5 カ 年 第 2 四 半 期 (R2～R6 年度)		< 事 前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
						1 時間値		
		出現時刻	測定値	出現時刻	測定値	1 時間値	10 分値	
MP－1	8 月 7 日	23 時	90	22 時 10 分	99	34～79	33～85	16～141
MP－2	8 月 7 日	23 時	86	22 時 10 分	95	28～78	28～84	6～130
MP－3	8 月 7 日	23 時	85	22 時 10 分	96	32～84	31～90	5～147
MP－4	8 月 7 日	23 時	82	22 時 10 分	95	32～83	31～89	5～146
MP－5	8 月 7 日	23 時	88	22 時 10 分	105	35～88	34～95	5～160

(注) 1 事前調査期間の測定結果は、1 時間値である。

2 超過した最高値は網掛けとした。

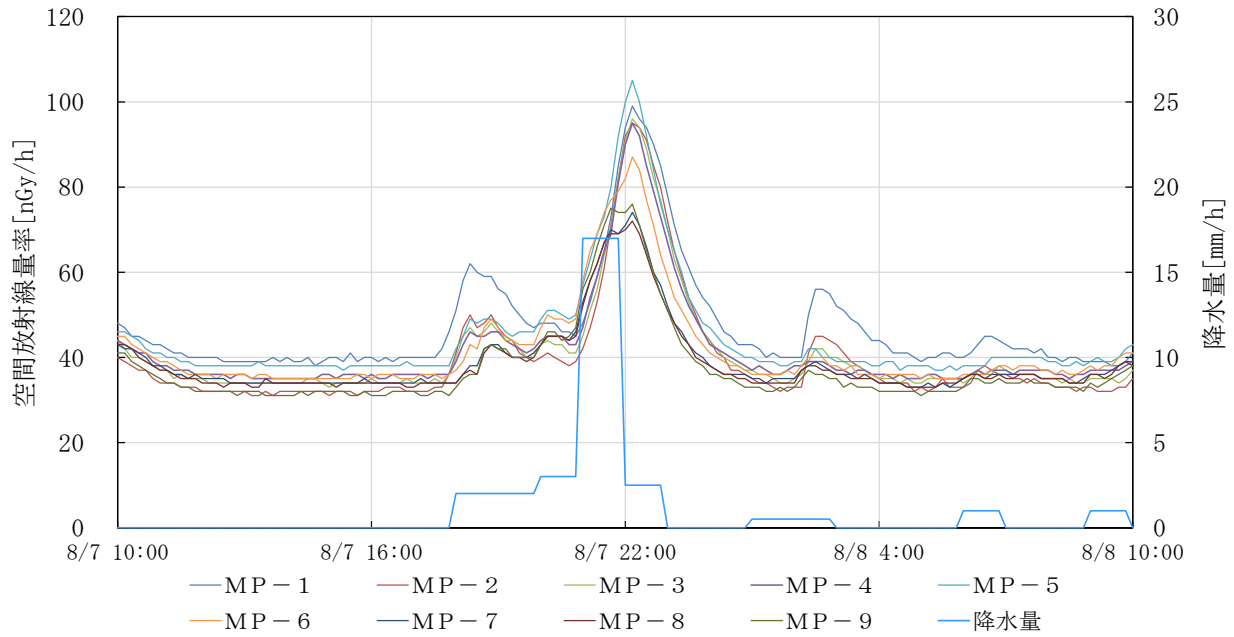


図1 令和7年8月7日の空間放射線量率（10分値）の推移

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

令和7年8月7日において、1から7号機の原子炉は停止していた。

当該時刻における各号機の排気筒モニタの指示値に変動は見られなかった。（図2参照）

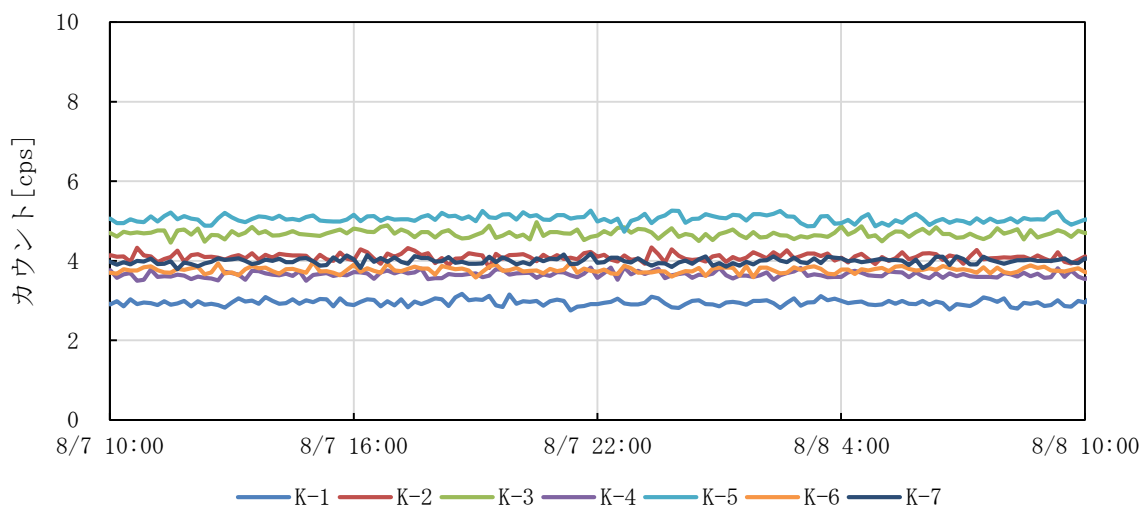


図2 令和7年8月7日の排気筒モニタ指示値の推移

(2) 測定状況

原子力規制庁編「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成29年改訂）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

また、測定装置に異常は確認されていない。

(3) 気象

ア. 降水等の影響

空間放射線量率は、降水による大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下により上昇する。

また、降水による空間放射線量率の上昇幅は、雨の降り方（急に強く降ったか否か）や降水強度（1時間あたりの降水量）により大きく変動すると考えられる。

空間放射線量率の上昇が見られた8月7日18時以降、降水が確認されており、降水とともに全モニタリングポストの指示値が上昇している。（図1参照）

また、8月7日及び8日の空間放射線量率及び降水量の測定結果を表2に示す。降水量は8月7日21時より1時間あたり17.0mmの雨が観測されていること、並びに雨の降り方は急に強くなっており空間放射線量率が大きく上昇する際の特徴と合致していることから、雨の降り方が空間放射線量率が高くなった要因の一つと考えられる。

表2 空間放射線量率及び降水量の測定結果

対象月日	時刻	降水量 (mm)	MP-1
			1時間値 (nGy/h)
8月7日	18時～19時	2.0	59
	19時～20時	2.0	50
	20時～21時	3.0	47
	21時～22時	17.0	72
	22時～23時	2.5	90
	23時～24時	0.0	60
8月8日	24時～1時	0.0	45
	1時～2時	0.5	41
	2時～3時	0.5	52
	3時～4時	0.0	47
	4時～5時	0.0	41

(注) 1 対照期間（直近）の測定値の範囲を超過した測定値は網掛けとした。

2 気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

イ. 雷の状況

雷（落雷又は雷雲）による制動X線やγ線などが空間線量率の測定値に影響することがある。雷観測データを確認したところ、空間放射線量率が上昇していた8月7日の21時45分から21時50分の間に発電所付近に落雷が発生していること、また雷活動度が3（地上への落雷が発生し雷雲の成熟期に相当）であったことから、当該時間帯に雷雲が発生していたと考えられる。

そのため最高値が発生した時刻のスペクトルデータを解析した結果、高エネルギー領域の上昇はなく、雷の影響は見られなかった。（図3参照）

なお、最高値が発生した8月7日22時00分から22時10分の10分値において発電所付近に落雷又は雲放電は発生していない。

(4) 人工放射性核種の確認

ア. モニタリングポストのスペクトル解析

当該時刻のスペクトルデータを解析した結果、天然放射性核種のPb-214、Bi-214及び平常時も見られるK-40のピークが顕著に見られたが、人工放射性核種のピークは見られなかった。（図3参照）

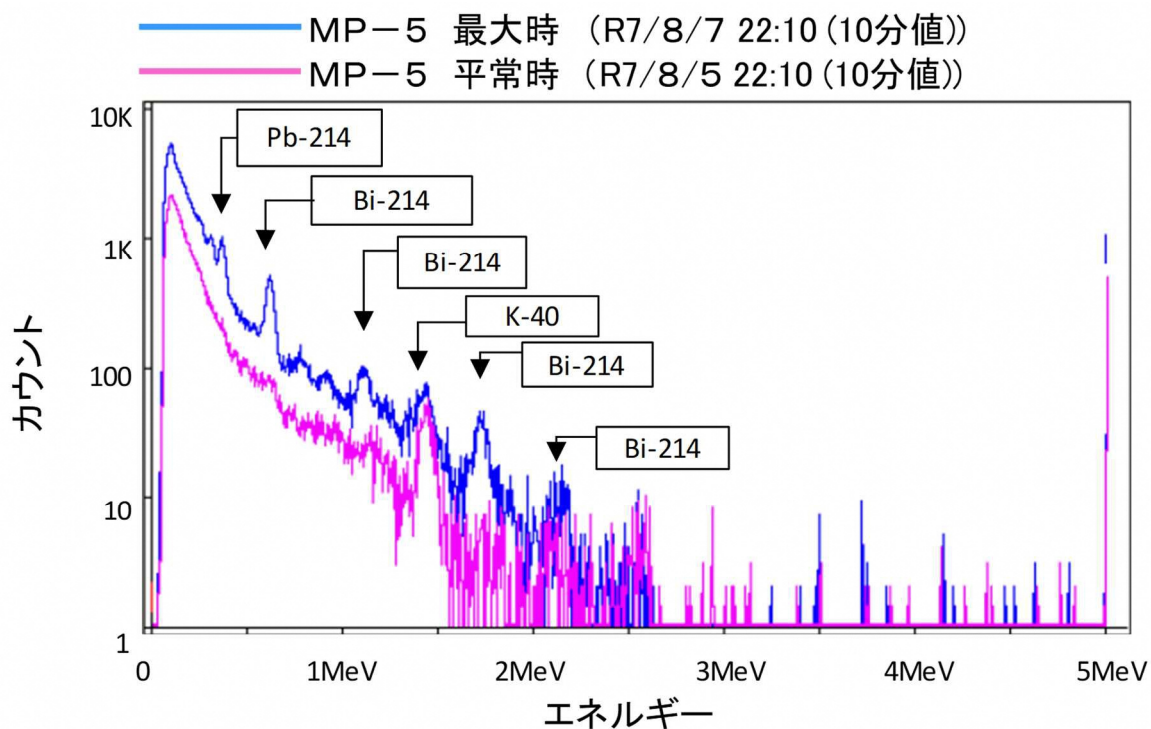


図3 スペクトルデータ（令和7年8月7日）

（注）スペクトルデータは、全9地点のうち、最高値が発生したMP-5を代表として示した。

イ．環境試料中の人工放射性核種の検出状況

MP-1、5、8に併設したダストモニタで捕集したろ紙（浮遊じん）を取り外して核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

（5）外部要因

ア．周辺環境の変化

当該期間において、モニタリングポストの周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ．非破壊検査等

当発電所の作業状況から、モニタリングポスト近傍で非破壊検査等の実施はなかった。

3 推定原因

調査結果より、MP-1、2、3において1時間値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超え、MP-1、2、3、4、5において10分値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所からの影響によるものではなく、降水とともに大気中の天然放射性核種が地表に降下したためと推定した。

以 上

参考資料2 令和7年度第2四半期の積算線量の測定結果について

令和7年度第2四半期に測定した積算線量について、柏崎市与三の測定値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

令和7年度第2四半期における柏崎市与三の積算線量の測定結果を表1に示す。また、同地点の積算線量の推移を図1に示す。

表1 積算線量の測定結果

(単位：mGy/91日)

測定地点	令和7年度第2四半期の測定結果 (積算開始：R7. 6.12 積算終了：R7. 9.11 積算期間：91日間)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
		< 直 近 > 直近5カ年の 第2四半期 (R2～R6年度)	< 事前 > 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
柏崎市与三	0.14	0.13	0.10 ～ 0.15

(注) 1 超過した測定値は網掛けとした。

2 事前調査機関の測定値は、熱蛍光線量計（TLD）による値である。

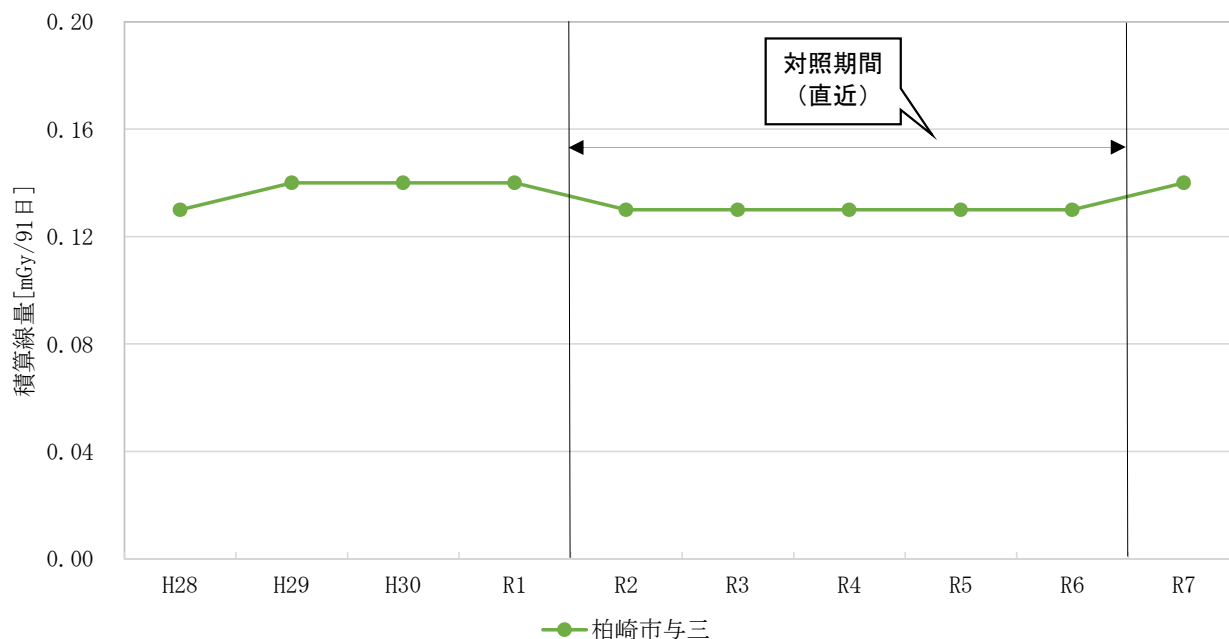


図1 積算線量の推移(第2四半期)

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

蛍光ガラス線量計における積算期間（※）において、1から7号機の原子炉は稼働していなかった。

令和7年度第2四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※蛍光ガラス線量計における積算期間：令和7年6月12日から9月11日

(2) 測定状況

文部科学省のマニュアル（※）に準拠し、蛍光ガラス線量計の設置、回収、測定及び校正等が適切に行われていることを確認している。

※「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法（平成14年）」

(3) 外部要因

ア．周辺環境の変化

測定地点の周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ．非破壊検査等

発電所構内（屋外）及び発電所近傍の構外において非破壊検査は実施していない。

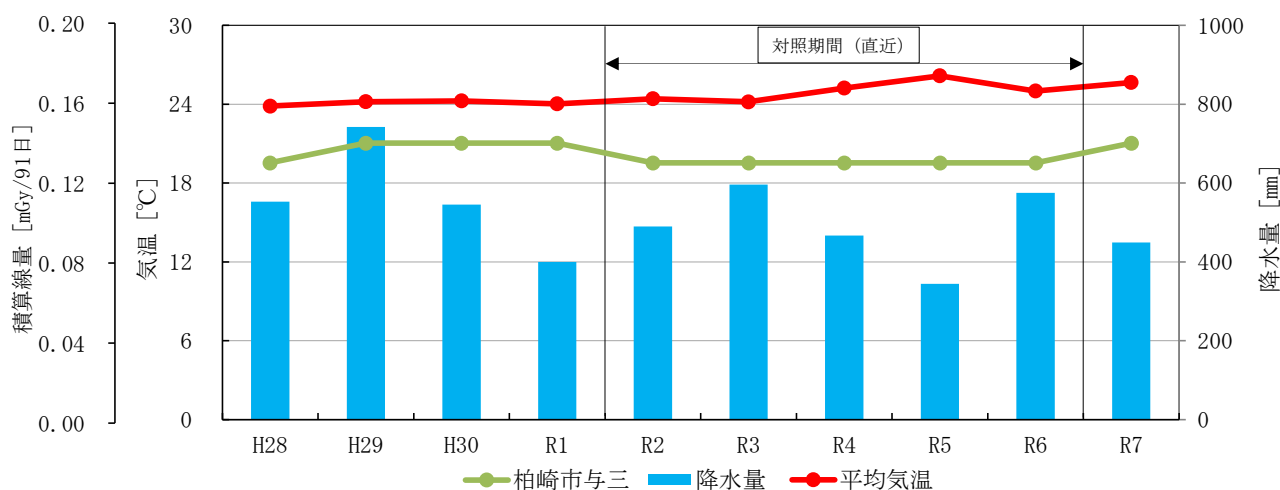
(4) 気象

ア．気温、降水等の影響

積算線量については、気温の上昇に伴う天然放射性核種の土壌から大気中への放出、降水により大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下並びに積雪により大地からの放射線が遮蔽されること等により変動すると考えられる。

第2四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移を図2に示す。また、降水日数と積算線量の比較を表2に示す。

これによると令和7年度第2四半期について、平均気温、降水量及び降水日数は平年並みであった。



（注）気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所

図2 第2四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移

表2 第2四半期における降水日数、積算線量の比較

年度		R7	対照期間（直近）				
			R2	R3	R4	R5	R6
降水日数(日)		32	43	39	39	28	38
積算線量 (mGy/91日)	柏崎市与三	0.14	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13

(注) 降水日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の雨雪量計が降水を検知した日数を集計したものであり、令和7年度より多い降水日数を網掛けとした。

イ. 雷の影響

雷（落雷又は雷雲）による制動X線やγ線が積算線量の測定値に影響することがある。

令和7年度第2四半期のモニタリングポストのNaI(Tl)シンチレーション検出器において、雷による制動X線及びγ線による空間放射線量率の上昇が見られないことから、雷による積算線量の増加はないと考えられる。

3 推定原因

調査結果より、令和7年度第2四半期における柏崎市与三の測定値が、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないことから、当発電所の影響によるものではなく、自然変動の可能性が考えられる。

以 上

参考資料3 令和7年度第2四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について

令和7年8月31日に集じんしたダストモニタにおける集じん終了直後の全ベータ放射能（以下、 β 濃度と記す。）が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

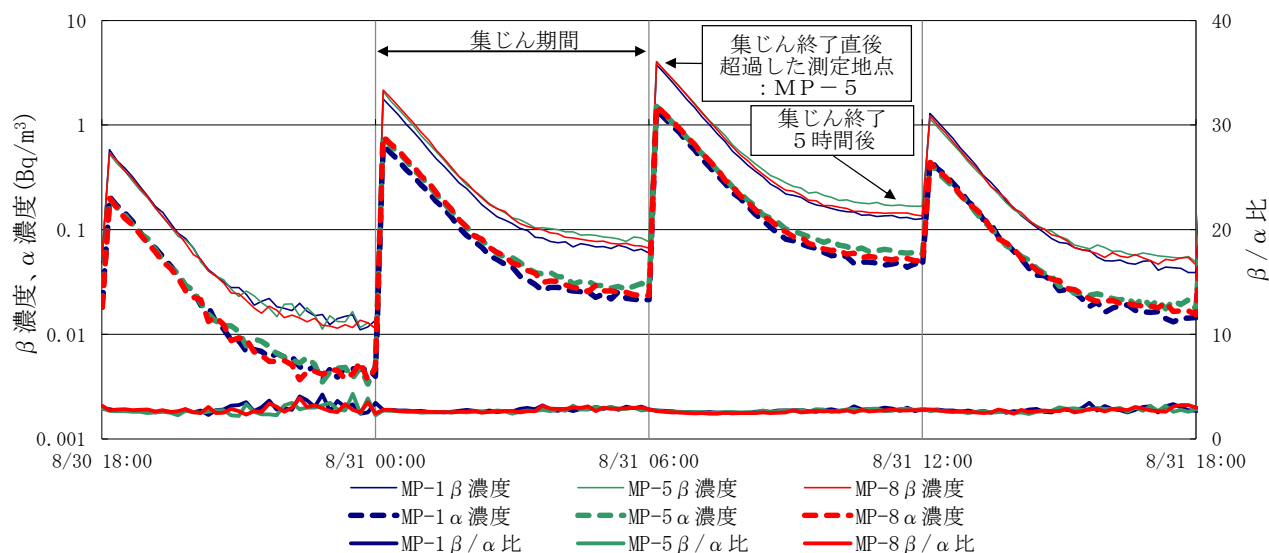
1 測定状況

集じん終了直後の β 濃度の測定結果を表1に示す。また、同時間帯のダストモニタ測定値、空間放射線量率及び排気筒モニタ指示値の推移を図1から図3に示す。

表1 集じん終了直後の測定結果

対象年月日 (集じん期間)	測定地点	集じん終了直後の β 濃度 (Bq/m ³)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)
			<直近> 直近5カ年の第2四半期 (R2～R6年度)
令和7年8月31日 (0時00分～6時00分)	MP-1	3.8	0.079 ～ 4.4
	MP-5	4.0	0.068 ～ 3.9
	MP-8	4.0	0.077 ～ 4.4

(注) 1 超過した測定値は網掛けとした。



(注) β/α 比とは、 β 濃度/ α 濃度を示す。

図1 ダストモニタ測定値の推移（令和7年8月30日～8月31日）

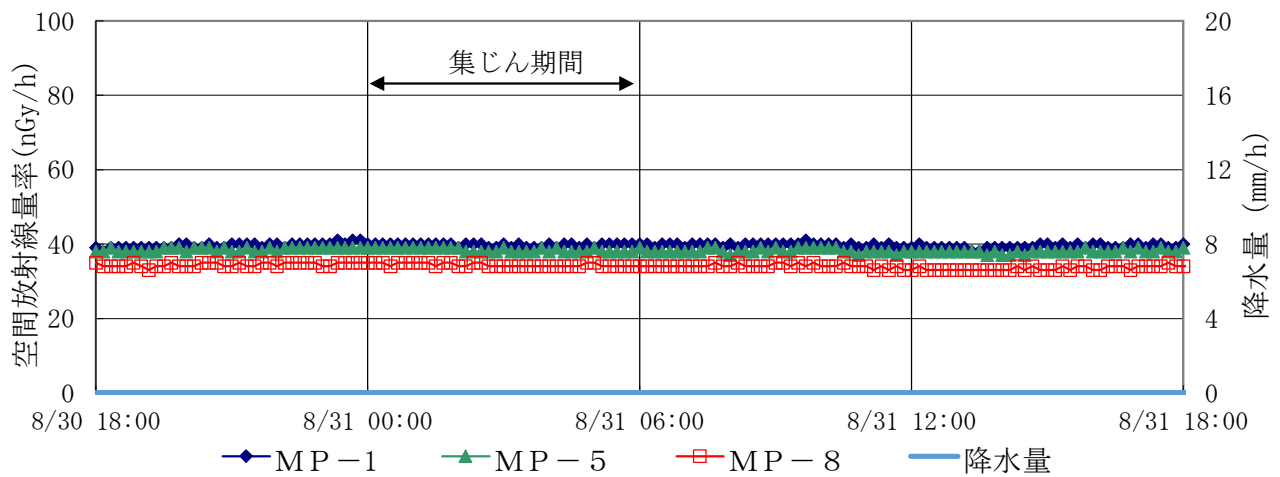


図2 空間放射線量率の推移（令和7年8月30日～8月31日）

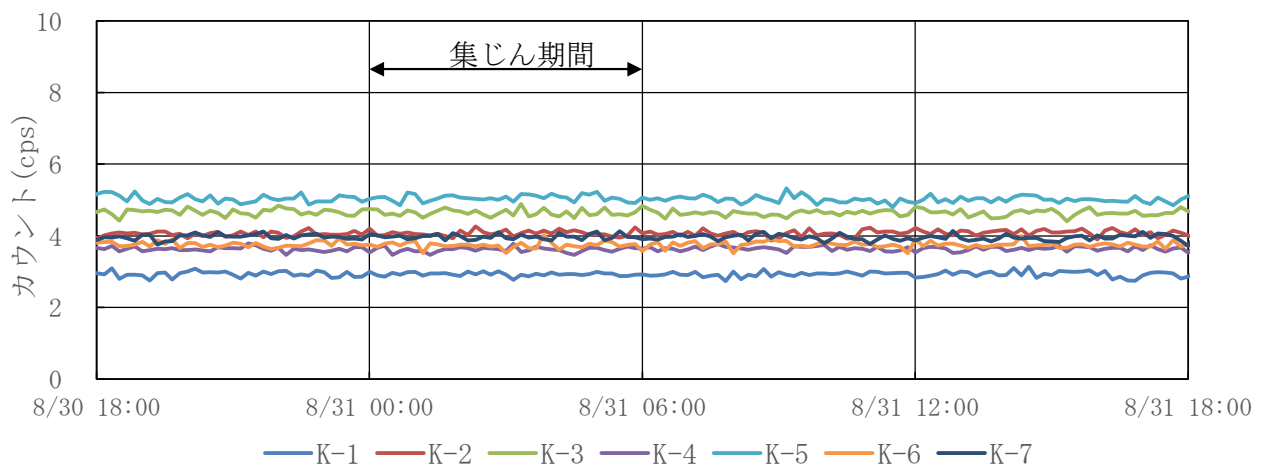


図3 排気筒モニタ指示値の推移（令和7年8月30日～8月31日）

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

当該集じん期間である令和7年8月31日において、1から7号機の原子炉は停止していた。

令和7年度第2四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

なお、当該集じん期間において、モニタリングポストにおける空間放射線量率及び排気筒モニタの指示値に有意な変動はなかった。（図2及び図3参照）

(2) 測定の状況

原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和4年制定）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

また、測定装置に異常は確認されていない。

(3) 測定値の時系列変化

全アルファ放射能（以下、 α 濃度と記す。）、 β 濃度ともに集じん終了直後から減衰し、原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和4年制定）解説E 図E-2に示す天然放射性核種の減衰パターンとほぼ一致した。このことから、当該時間帯の α 濃度、 β 濃度は天然放射性核種に由来するものと考えられる。（図1参照）

(4) 人工放射性核種の確認

MP-1、5、8に併設したダストモニタで捕集したろ紙（浮遊じん）を取り外して核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

(5) その他

表2に示すように、当該集じん期間における集じん終了直後の β/α 比は、対照期間（直近）の範囲内であり、有意な変動はなかった。

表2 集じん終了直後の β/α 比

対象年月日 (集じん期間)	測定地点	集じん終了直後の β/α 比	直近5カ年の 第2四半期の範囲 (R2～R6年度)
令和7年8月31日 (0時00分～6時00分)	MP-5	2.7	2.3 ～ 3.6

3 推定原因

調査結果より、令和7年度第2四半期における β 濃度が、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと及び同地点のダストモニタにおける浮遊じんの核種分析結果（機器分析）において人工放射性核種は検出されなかったこと等から、当発電所の影響によるものではなく、自然変動の可能性が考えられる。

以 上

参考資料4 令和7年度第4四半期の積算線量の測定結果について

令和7年度第4四半期に測定した積算線量について、MP-9の測定値が対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

令和7年度第4四半期におけるMP-9の積算線量の測定結果を表1に示す。また、同地点の積算線量の推移を図1に示す。

表1 積算線量の測定結果

(単位：mGy/91日)

測定地点	令和7年度第4四半期の測定結果 (積算開始：R7. 12. 11 積算終了：R8. 3. 12 積算期間：91日間)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
		< 直 近 > 直 近 5 カ 年 の 第 4 四 半 期 (R2～R6年度)	< 事前 > 事前調査期間 (S57. 4～S59. 12)
MP-9	0.16	0.10 ～ 0.13	0.10 ～ 0.14

(注) 1 超過した測定値は網掛けとした。

2 事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計 (TLD) による値である。

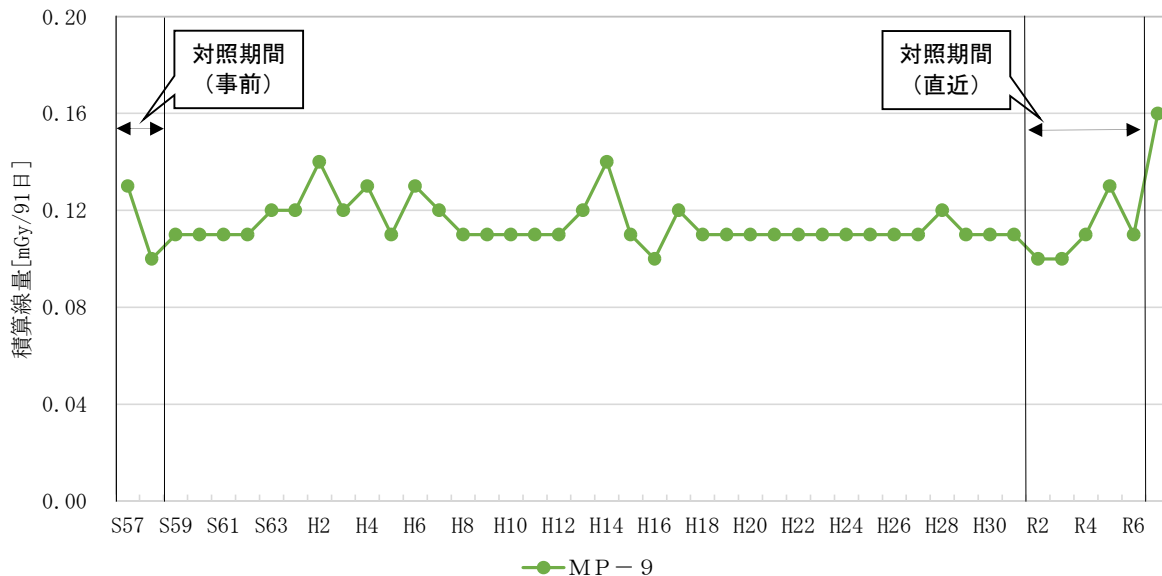


図1 積算線量の推移(第4四半期)

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

蛍光ガラス線量計における積算期間(※)のうち、1から5号機及び7号機の原子炉は停止していたが、令和8年1月21日から22日、2月9日から19日及び2月24日から3月12日において、6号機の原子炉は稼働していた。

令和7年度第3四半期から第4四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種(トリチウムを除く)は検出されなかった。

※蛍光ガラス線量計における積算期間：令和7年12月11日から令和8年3月12日

(2) 測定の状況

文部科学省のマニュアル(※)に準拠し、蛍光ガラス線量計の設置、回収、測定及び校正等が適切に行われていることを確認している。

※「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法(平成14年制定)」

(3) 外部要因

ア. 周辺環境の変化

測定地点の周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ. 非破壊検査等

発電所構内(屋外)における非破壊検査中にモニタリングポスト(MP-9)の測定値にRI線源の影響がないことを確認している。

(4) 気象

ア. 気温、降水等の影響

積算線量については、気温の上昇に伴う天然放射性核種の土壌から大気中への放出、降水により大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下並びに積雪により大地からの放射線が遮蔽されること等により変動すると考えられる。

第4四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移を図2に、平均積雪深及び積算線量の推移を図3に示す。また、降水日数、積雪日数及び積算線量の比較を表2に示す。

これによると令和7年度第4四半期について、平均気温は平年並みであったが、降水量及び降水日数は平年より少なめであった。

また、平均積雪深及び積雪日数は平年より多めであった。

以上を踏まえ、気温及び降水等の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性は低いと考えられる。

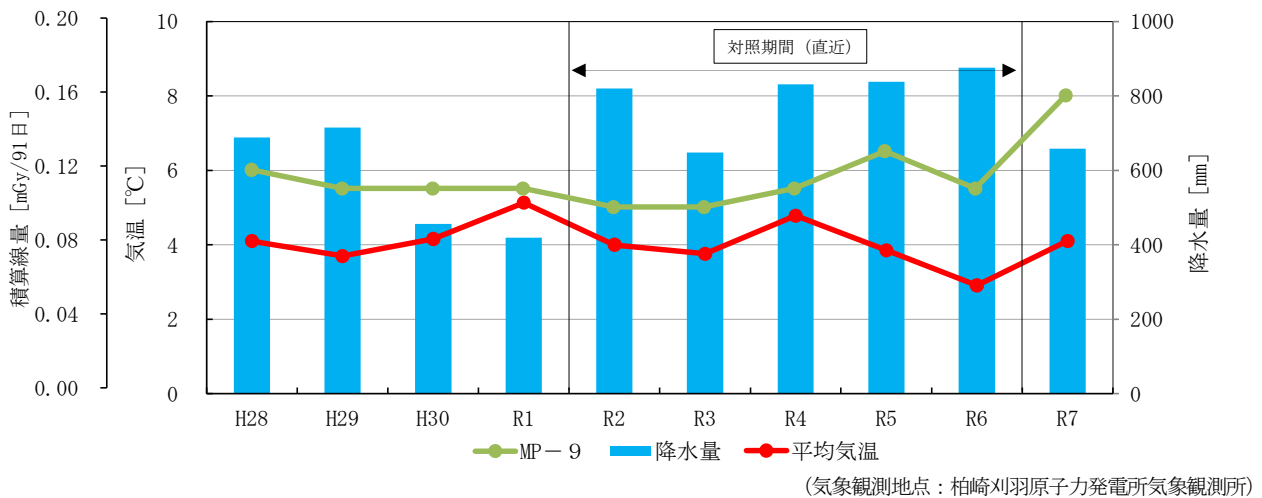
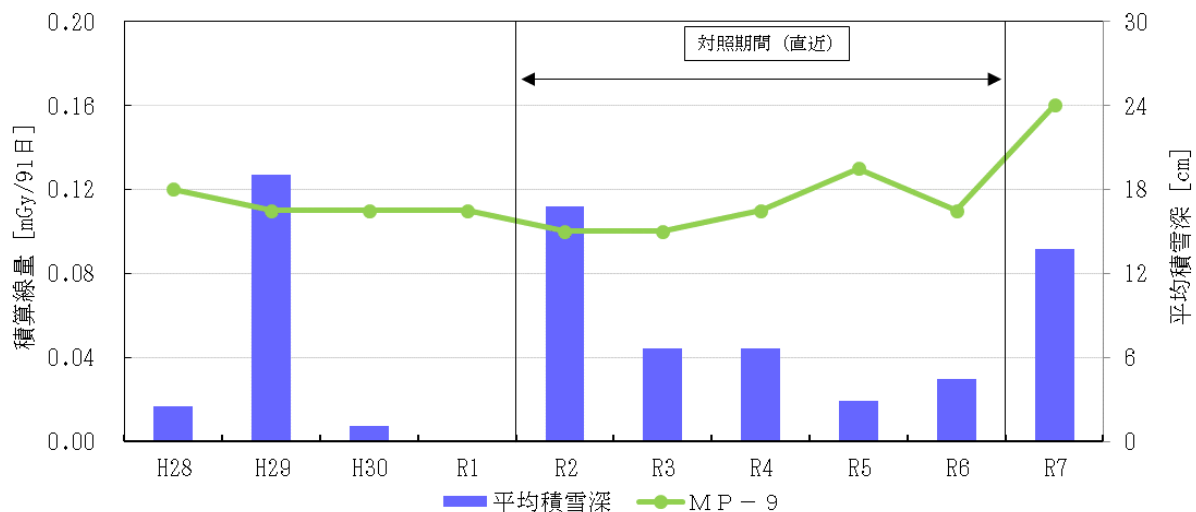


図2 第4四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移



(気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所)

(平均積雪深：第4四半期の積算線量の積算期間における日平均値)

図3 第4四半期における平均積雪深及び積算線量の推移

表2 第4四半期における降水日数、積雪日数、積算線量の比較

年度		R7	対照期間 (直近)				
			R2	R3	R4	R5	R6
降水日数(日)		67	64	75	67	72	77
積雪日数(日)		44	47	62	38	24	37
積算線量 (mGy/91 日)	MP-9	0.16	0.10	0.10	0.11	0.13	0.11

(注) 1 降水日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の雨雪量計が降水を検知した日数を集計したものであり、令和7年度より多い降水日数を網掛けとした。

2 積雪日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の積雪深計が積雪を検知した日数を集計したものであり、令和7年度より多い積雪日数を網掛けとした。

イ. 雷の影響

雷(落雷又は雷雲)による制動X線やγ線が積算線量の測定値に影響することがある。

蛍光ガラス線量計における積算期間において、2月2日及び2月18日に落雷又は雷雲によりモニタリングポスト(MP-9)の測定値に一時的な上昇が確認された。(図4、図7参照)

2月2日は、MP-9の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られたが、短時間でのわずかな上昇であったため、積算線量への影響は小さかったと考えられる。(図5、図6参照)

一方、2月18日は、MP-9の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られており、短時間ではあるが、高線量率計が大きく上昇していた。(図8、図9参照)

また、MP-9近傍には避雷鉄塔があり、避雷鉄塔近傍の建物に配備していた受動形個人線量計(蛍光ガラス線量計)では、2月17日配備分が2月25日配備分より0.089mGy高い値を示しており、MP-9及び当該建物から落雷地点(近傍の避雷鉄塔)までの距離を換算するとMP-9では0.014mGyの影響を受けた可能性がある。(図10参照)

これまでの測定結果においても、平成17年度及び平成25年度に落雷が原因と推測される積算線量の上昇を確認している。

以上を踏まえ、今回も雷の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性が考えられる。



図4 雷情報(令和8年2月2日14時20分～14時25分)【出典元：気象庁】

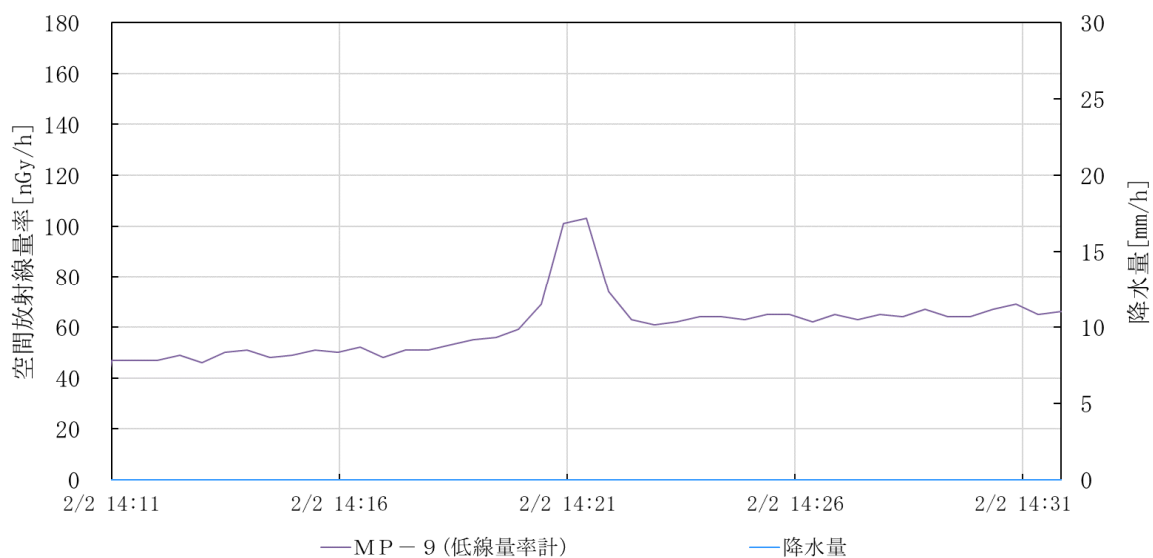


図5 令和8年2月2日の空間放射線量率(30秒値)の推移

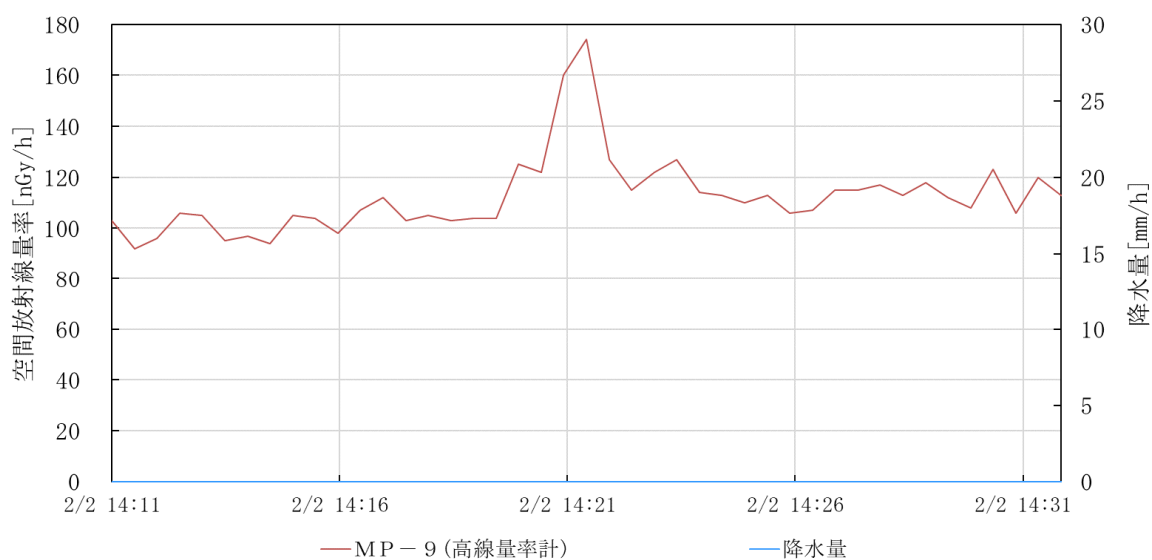


図6 令和8年2月2日の空間放射線量率(30秒値)の推移

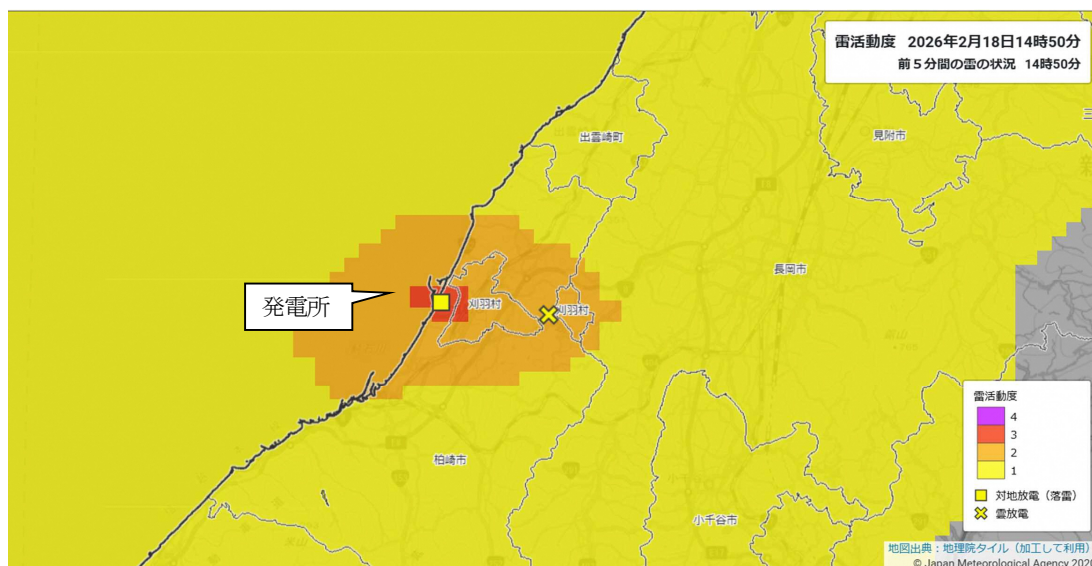


図7 雷情報 (令和8年2月18日14時45分～14時50分) 【出典元: 気象庁】

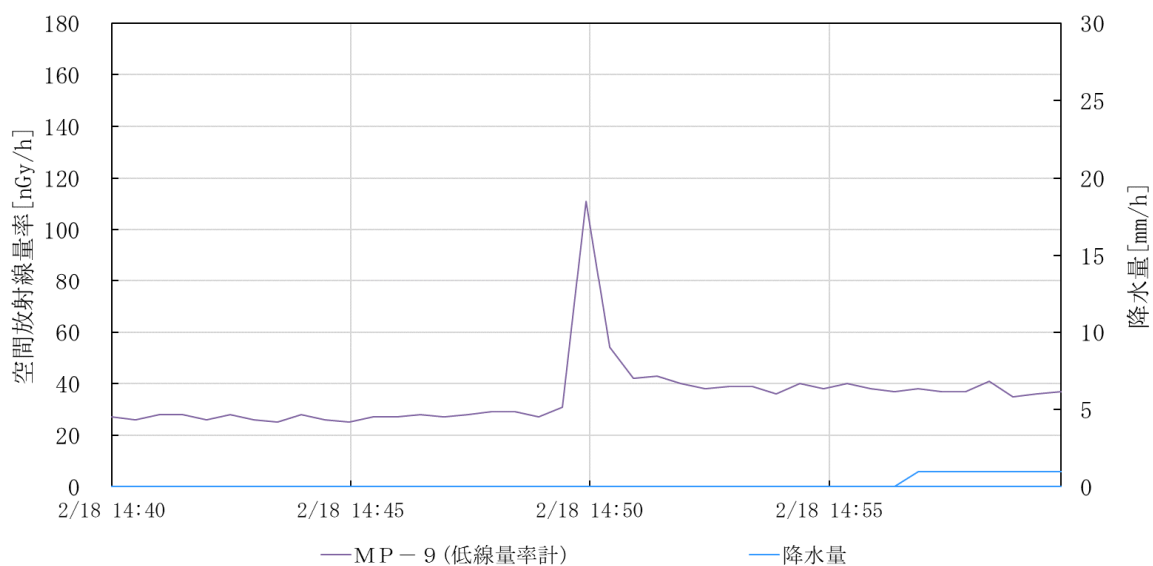


図8 令和8年2月18日の空間放射線量率 (30秒値) の推移

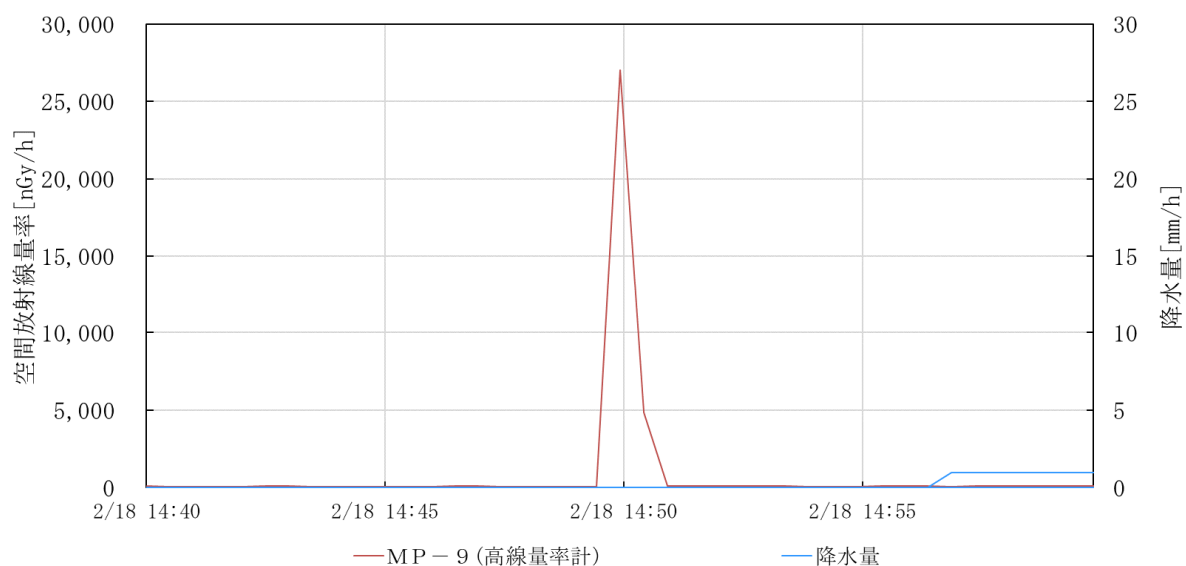


図9 令和8年2月18日の空間放射線量率 (30秒値) の推移

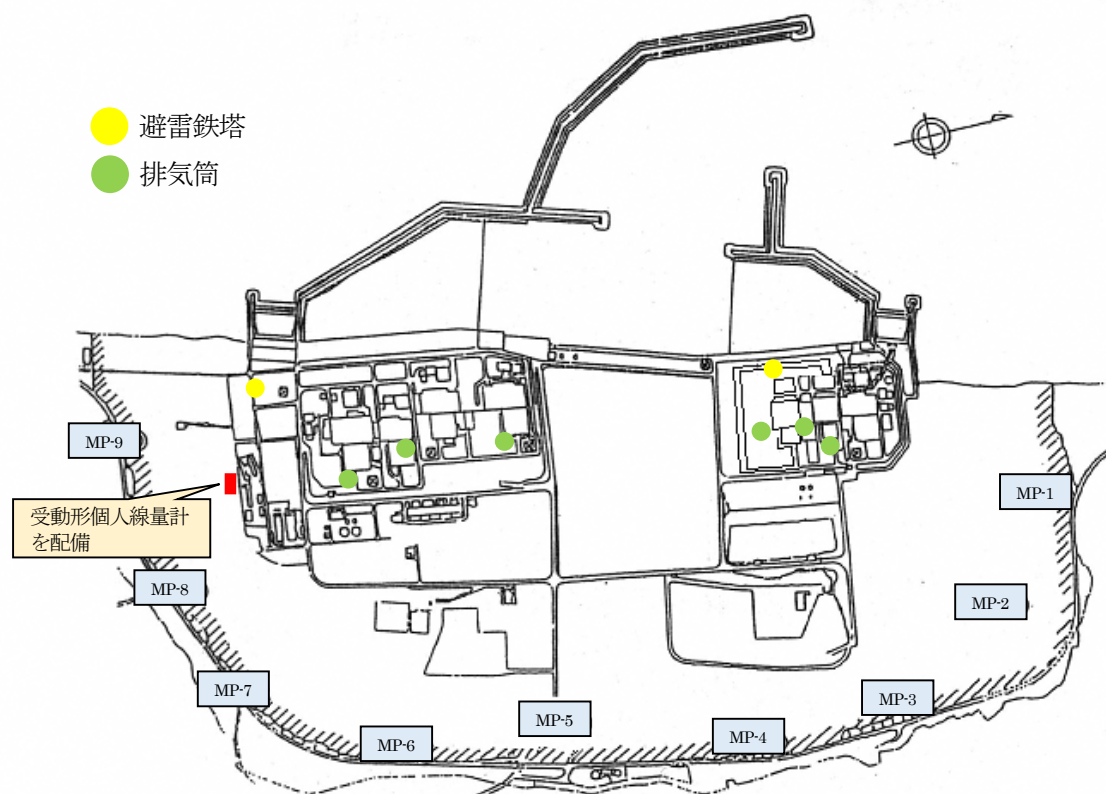


図10 構内配置図

3 推定原因

調査結果より、令和7年度第4四半期におけるMP-9の測定値が、対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所の影響によるものではなく、雷による影響の可能性が考えられる。

以 上

参考資料5 令和7年度第4四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について

令和8年2月26日、2月27日及び3月19日に集じんしたダストモニタにおける集じん終了直後の全ベータ放射能（以下、 β 濃度と記す。）が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた。

また、3月26日及び3月30日における集じん終了5時間後の β 濃度が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

1 測定状況

集じん終了直後の β 濃度の測定結果を表1に、集じん終了5時間後の β 濃度の測定結果を表2に示す。また、同時時間帯のダストモニタ測定値、空間放射線量率及び排気筒モニタ指示値の推移を図1から図15に示す。

表1 集じん終了直後の測定結果

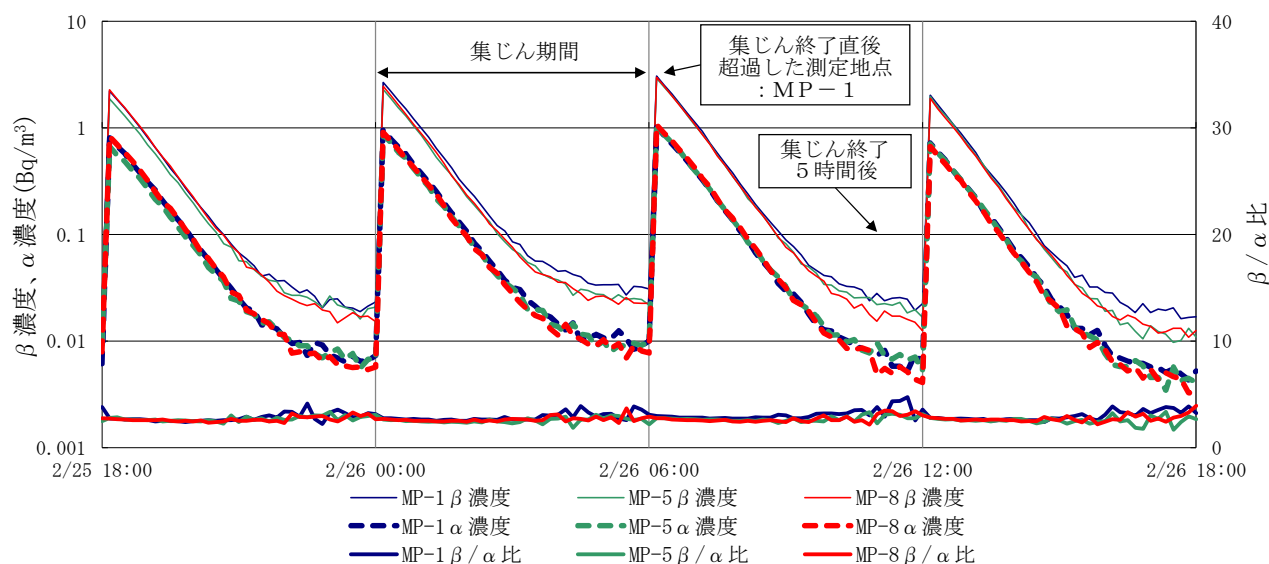
対象年月日 (集じん期間)	測定地点	集じん終了直後の β 濃度 (Bq/m ³)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			<直近> 直近5カ年の 第4四半期 (R2～R6年度)	<直近> 直近5カ年 (R2～R6年度)
令和8年2月26日 (0時00分～6時00分)	MP-1	3.1	0.023 ～ 2.7	0.023 ～ 4.4
	MP-5	2.9	0.063 ～ 3.1	0.041 ～ 4.0
	MP-8	3.0	0.076 ～ 3.0	0.030 ～ 4.4
令和8年2月27日 (18時00分～24時00分)	MP-1	2.9	0.023 ～ 2.7	0.023 ～ 4.4
	MP-5	2.9	0.063 ～ 3.1	0.041 ～ 4.0
	MP-8	3.1	0.076 ～ 3.0	0.030 ～ 4.4
令和8年3月19日 (0時00分～6時00分)	MP-1	2.8	0.023 ～ 2.7	0.023 ～ 4.4
	MP-5	2.7	0.063 ～ 3.1	0.041 ～ 4.0
	MP-8	2.5	0.076 ～ 3.0	0.030 ～ 4.4

(注) 超過した測定値は網掛けとした。

表 2 集じん終了 5 時間後の測定結果

対象年月日 (集じん期間)	測定地点	集じん終了 5 時間後の β 濃度 (Bq/m ³)	対照期間の測定結果 (測定値の範囲)	
			<直近> 直近 5 カ年の 第 4 四半期 (R2～R6 年度)	<直近> 直近 5 カ年 (R2～R6 年度)
令和 8 年 3 月 26 日 (0 時 00 分～6 時 00 分)	MP－1	0.084	* ～ 0.078	* ～ 0.24
	MP－5	0.081	* ～ 0.098	* ～ 0.24
	MP－8	0.079	* ～ 0.095	* ～ 0.23
令和 8 年 3 月 30 日 (18 時 00 分～24 時 00 分)	MP－1	0.087	* ～ 0.078	* ～ 0.24
	MP－5	0.10	* ～ 0.098	* ～ 0.24
	MP－8	0.087	* ～ 0.095	* ～ 0.23

- (注) 1 *は検出下限値未満を示す。
2 超過した測定値は網掛けとした。



(注) β/α 比とは、 β 濃度/ α 濃度を示す。

図1 ダストモニタ測定値の推移 (令和8年2月25日～2月26日)

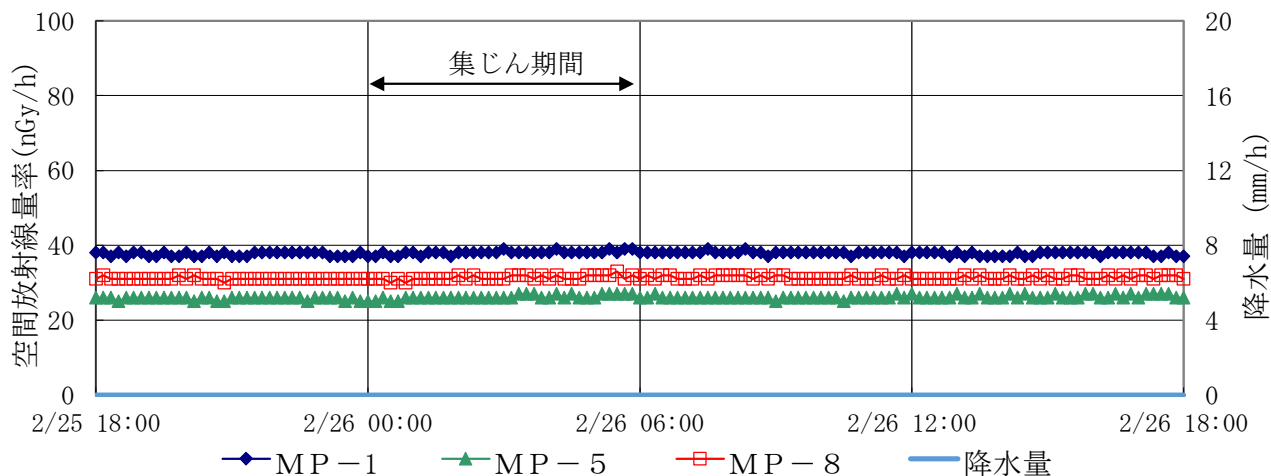


図2 空間放射線量率の推移 (令和8年2月25日～2月26日)

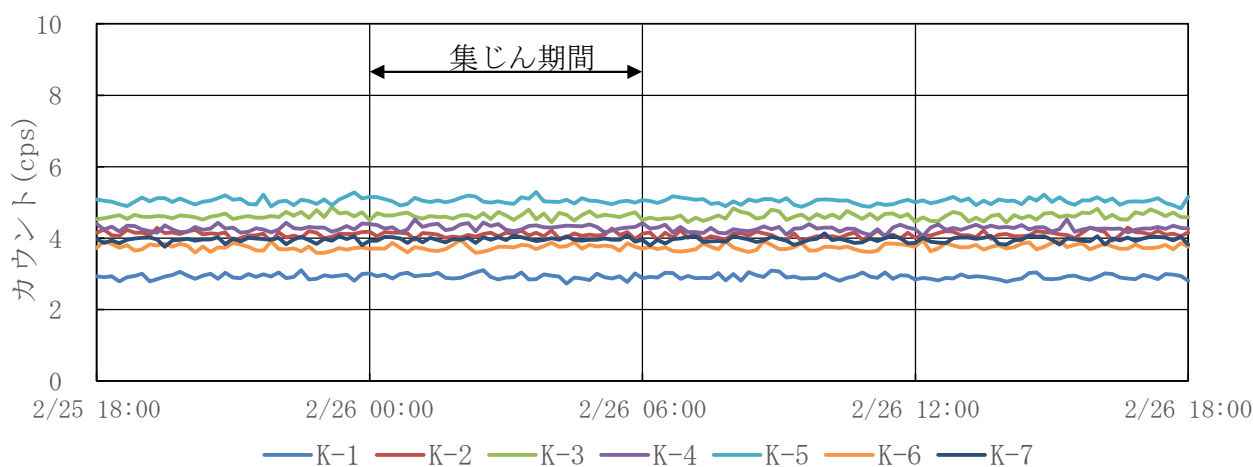
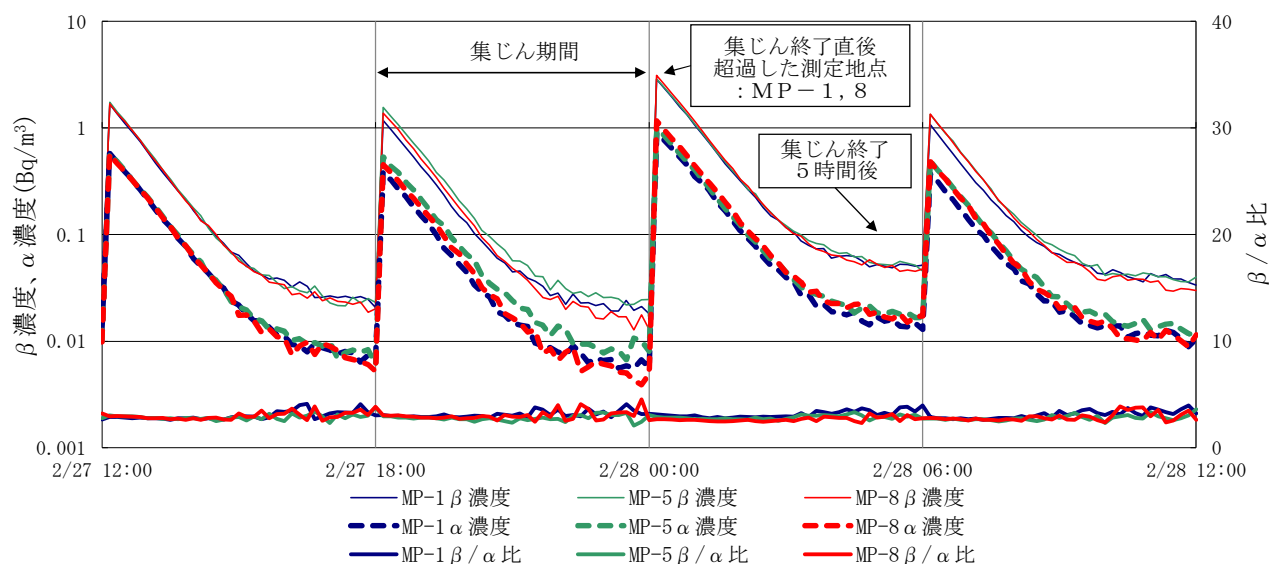


図3 排気筒モニタ指示値の推移 (令和8年2月25日～2月26日)



(注) β / α 比とは、β 濃度 / α 濃度を示す。

図4 ダストモニタ測定値の推移 (令和8年2月27日～2月28日)

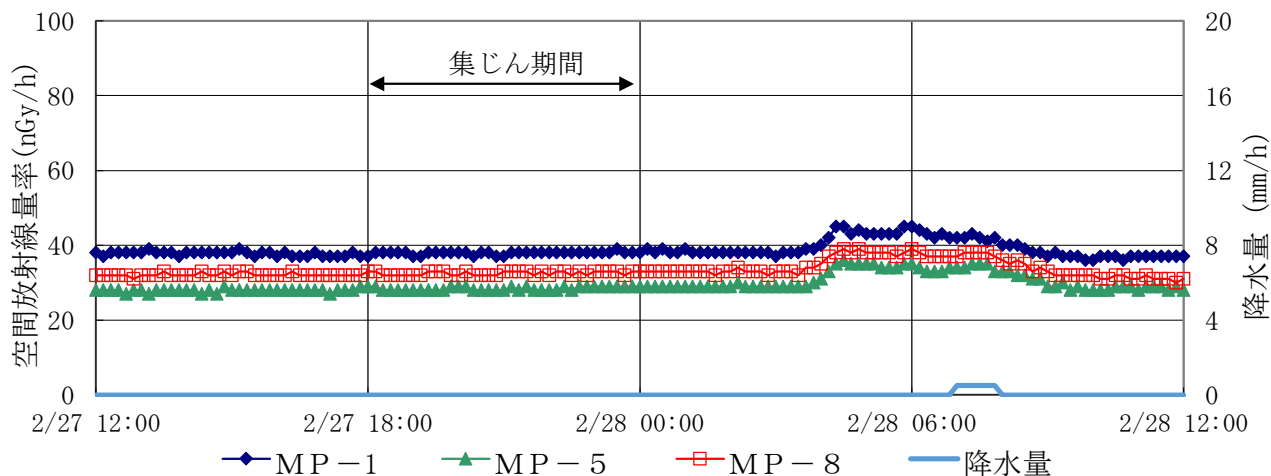


図5 空間放射線量率の推移 (令和8年2月27日～2月28日)

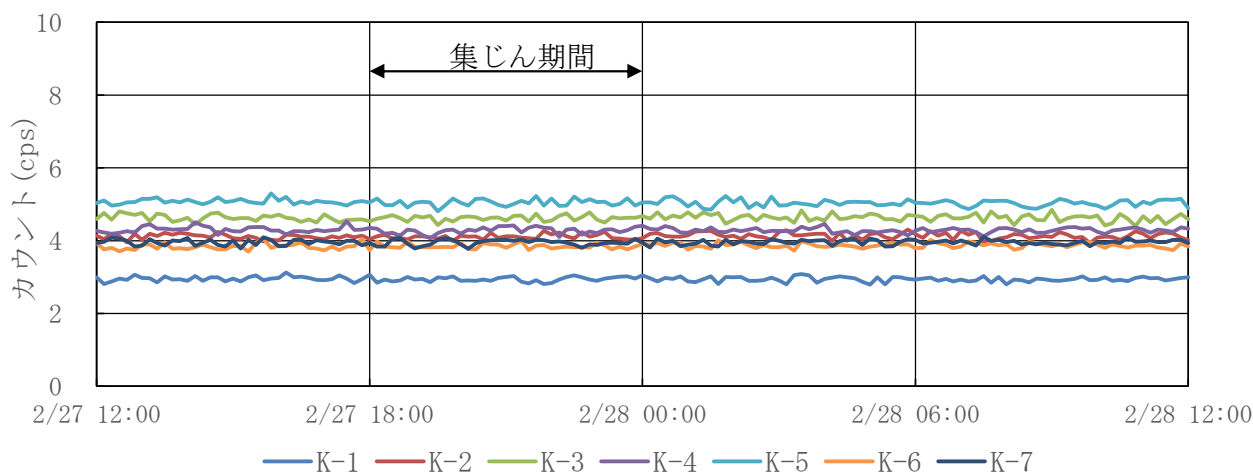
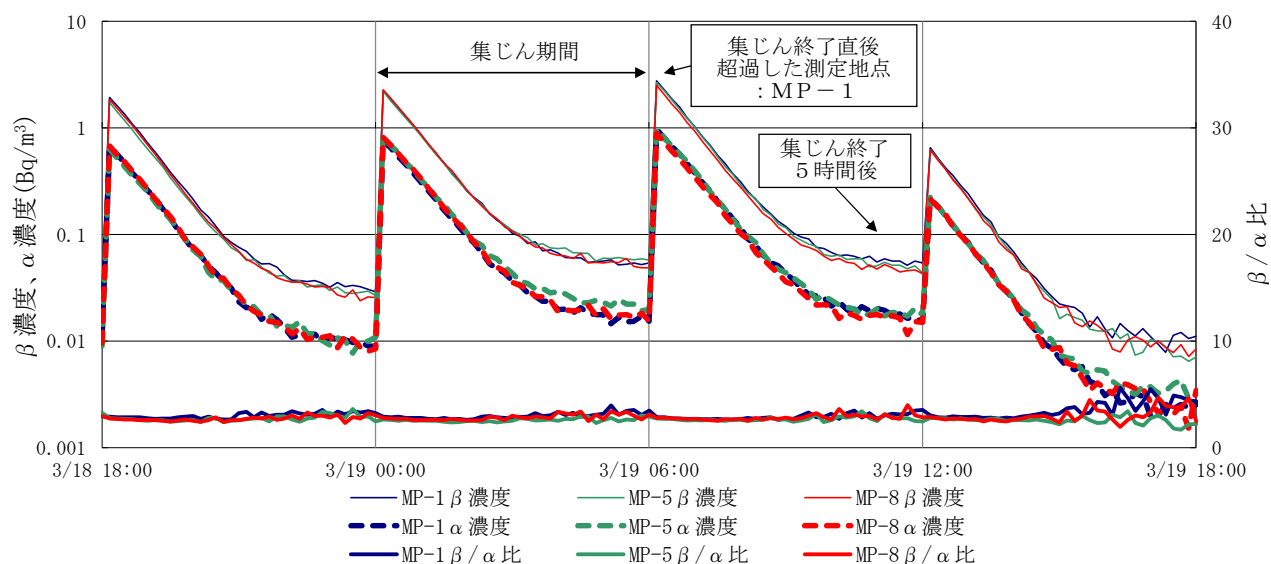


図6 排気筒モニタ指示値の推移 (令和8年2月27日～2月28日)



(注) β / α 比とは、β 濃度 / α 濃度を示す。

図7 ダストモニタ測定値の推移 (令和8年3月18日～3月19日)

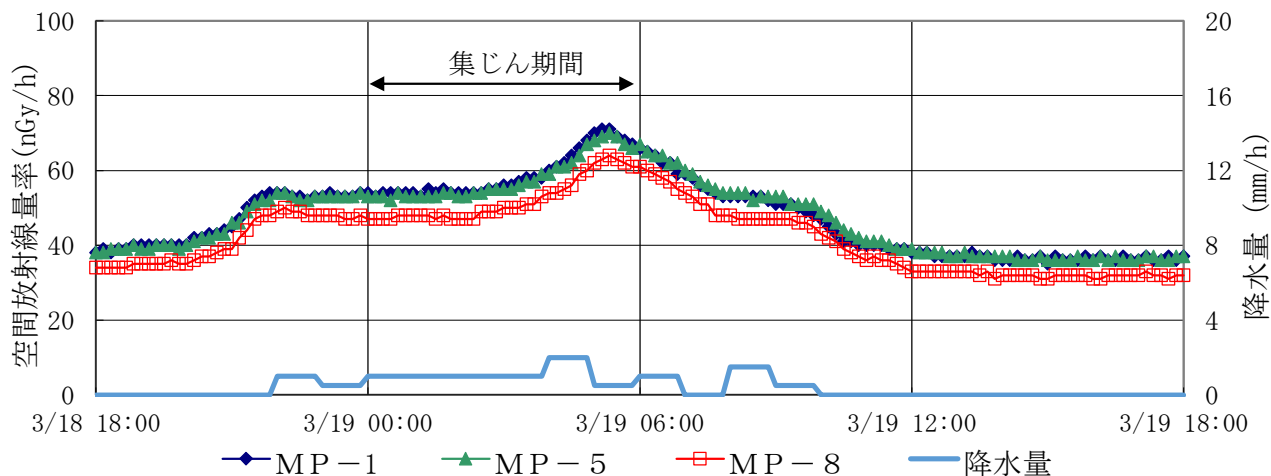


図8 空間放射線量率の推移 (令和8年3月18日～3月19日)

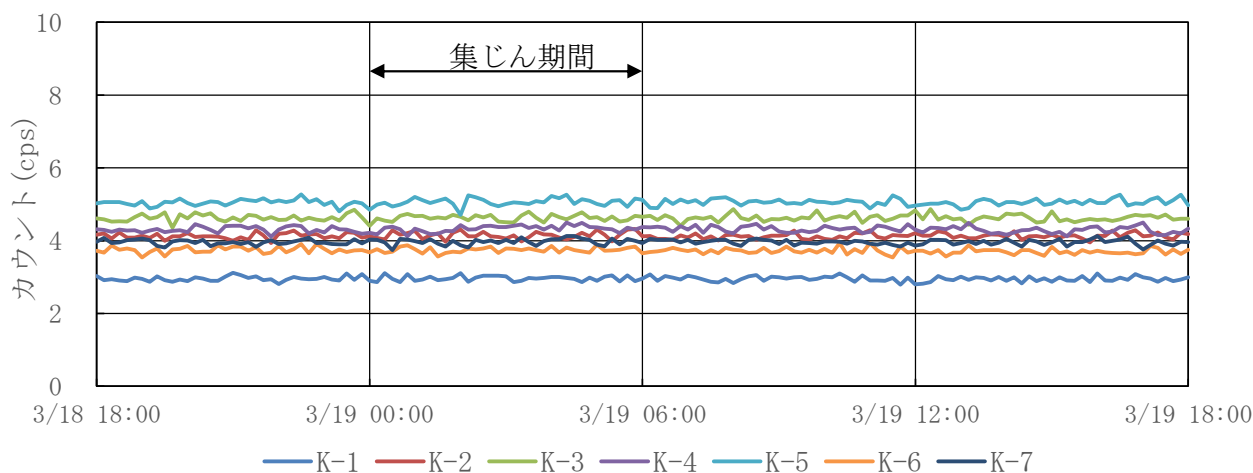
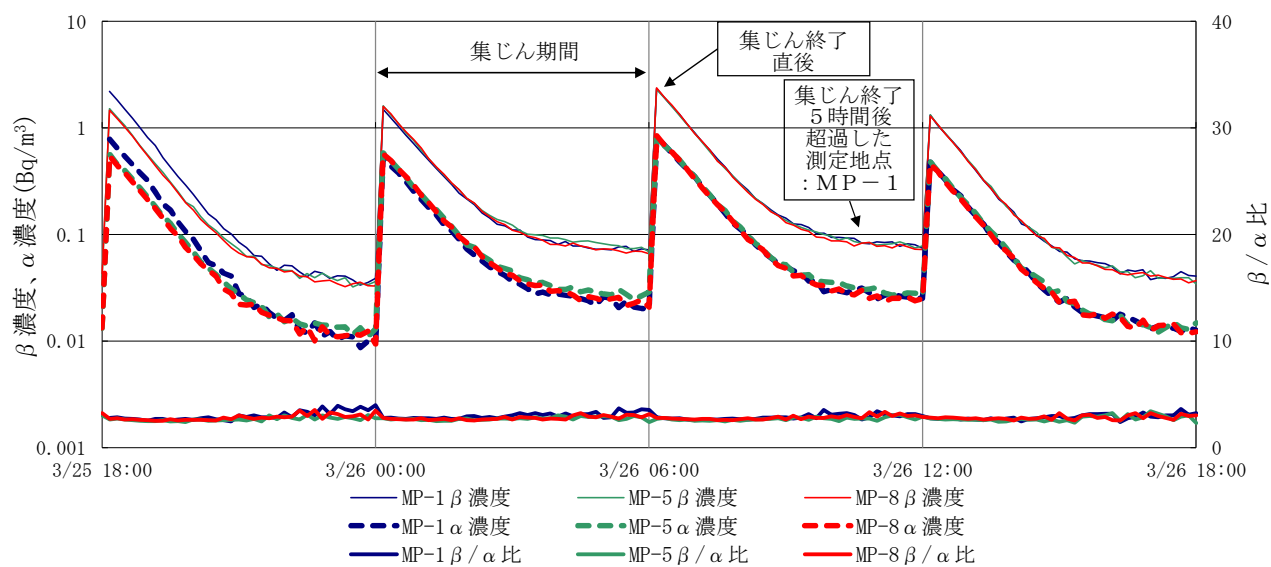


図9 排気筒モニタ指示値の推移 (令和8年3月18日～3月19日)



(注) 1 β / α 比とは、β 濃度 / α 濃度を示す。

2 点検のためMP-1に欠測あり。

図 10 ダストモニタ測定値の推移 (令和 8 年 3 月 25 日～3 月 26 日)

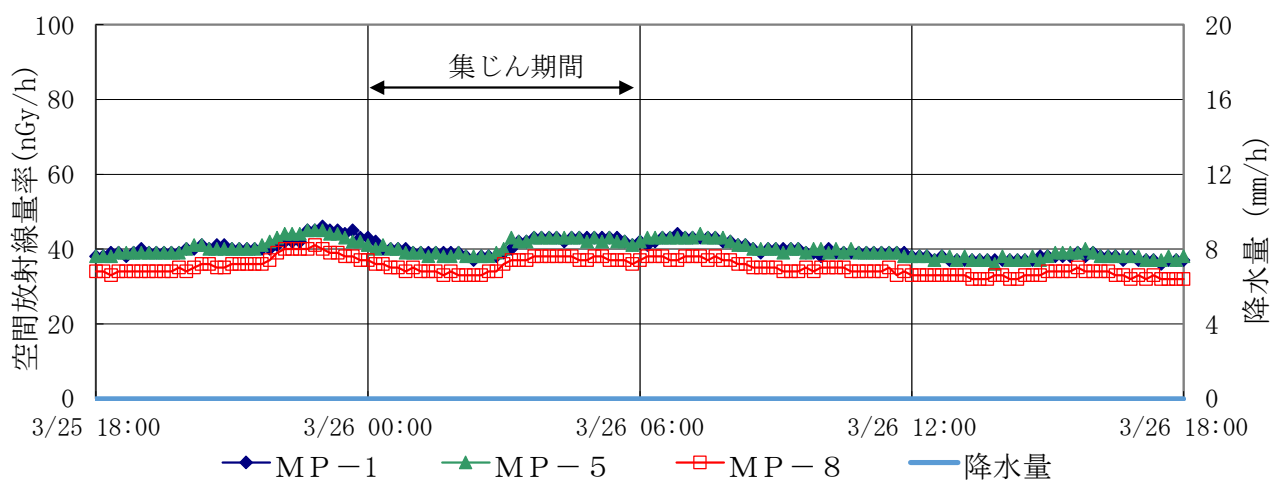


図 11 空間放射線量率の推移 (令和 8 年 3 月 25 日～3 月 26 日)

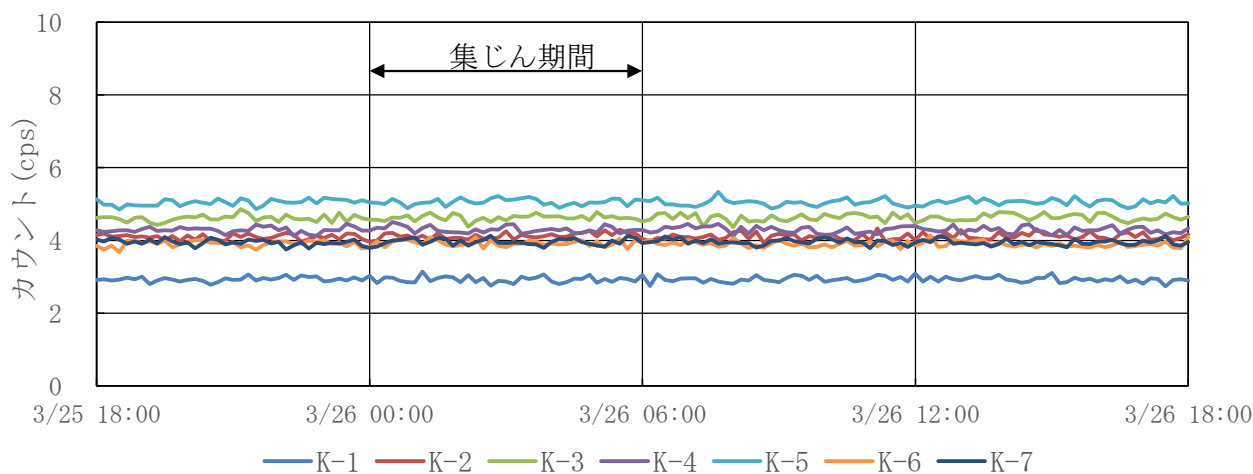
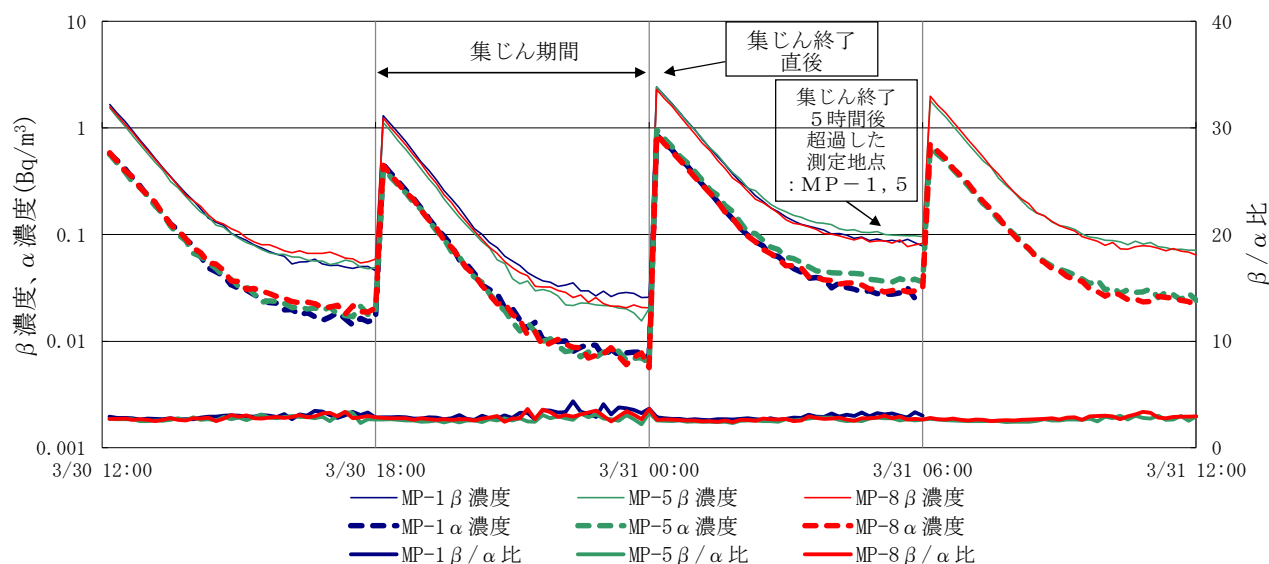


図 12 排気筒モニタ指示値の推移 (令和 8 年 3 月 25 日～3 月 26 日)



(注) 1 β/α 比とは、 β 濃度/ α 濃度を示す。

2 点検のためMP-1、5、8に欠測あり。

図 13 ダストモニタ測定値の推移 (令和 8 年 3 月 30 日～3 月 31 日)

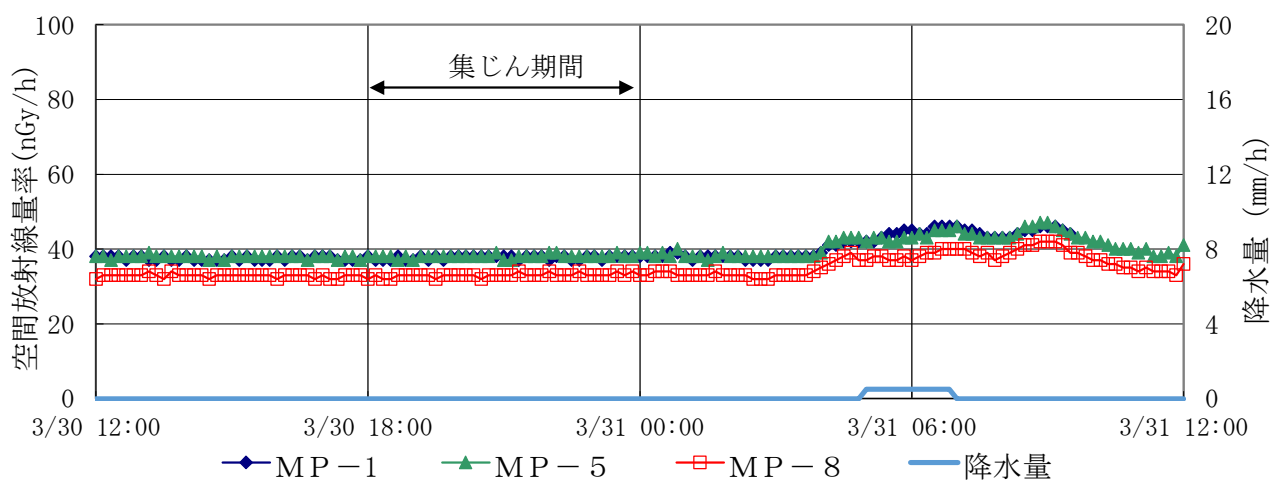


図 14 空間放射線量率の推移 (令和 8 年 3 月 30 日～3 月 31 日)

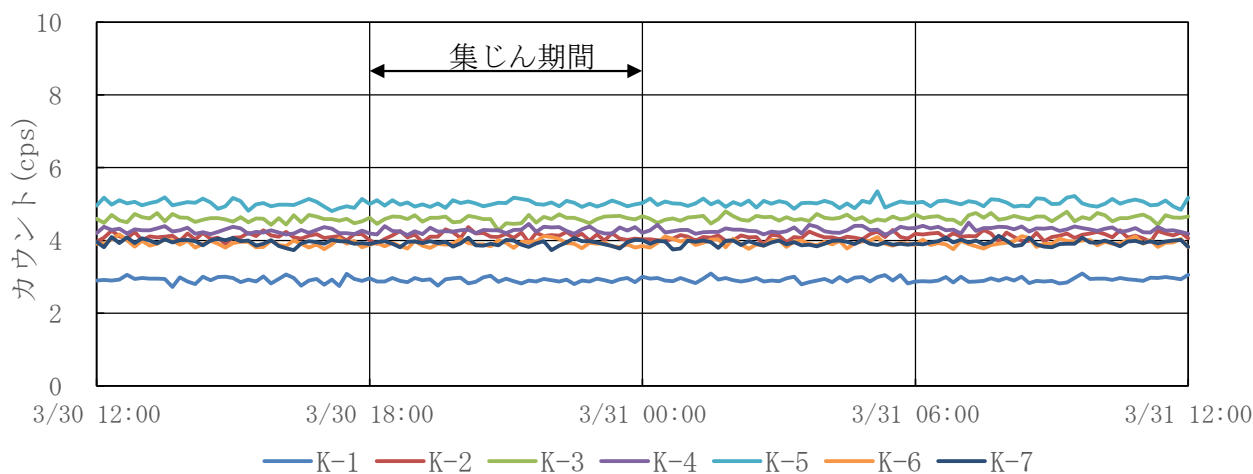


図 15 排気筒モニタ指示値の推移 (令和 8 年 3 月 30 日～3 月 31 日)

2 調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

当該集じん期間のうち、1から5号機及び7号機の原子炉は停止していたが、令和8年2月26日、2月27日、3月26日及び3月30日において、6号機の原子炉は稼働していた。一方、3月19日において、1から7号機の原子炉は停止していた。

令和7年度第4四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

さらに、当該集じん期間において、モニタリングポストにおける空間放射線量率及び排気筒モニタの指示値に降水による影響以外の有意な変動はなかった。（図2、図3、図5、図6、図8、図9、図11、図12、図14及び図15参照）

(2) 測定状況

原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和4年制定）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

また、測定装置に異常は確認されていない。

(3) 測定値の時系列変化

全アルファ放射能（以下、 α 濃度と記す。）、 β 濃度ともに集じん終了直後から減衰し、原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和4年制定）解説E 図E-2に示す天然放射性核種の減衰パターンとほぼ一致した。このことから、当該時間帯の α 濃度、 β 濃度は天然放射性核種に由来するものと考えられる。（図1、図4、図7、図10及び図13参照）

(4) 人工放射性核種の確認

MP-1、5、8に併設したダストモニタで捕集したろ紙（浮遊じん）を取り外して核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

(5) その他

表3に示すように、当該集じん期間における集じん終了直後の β/α 比は、同一四半期の対照期間（直近）の範囲内であり、有意な変動はなかった。

表3 集じん終了直後の β/α 比

対象年月日 (集じん期間)	測定地点	集じん終了直後の β/α 比	直近5カ年の 第4四半期の範囲 (R2～R6年度)
令和8年2月26日 (0時00分～6時00分)	MP-1	3.0	2.4 ～ 4.2
令和8年2月27日 (18時00分～24時00分)	MP-1	3.2	2.4 ～ 4.2
	MP-8	2.7	2.4 ～ 4.0
令和8年3月19日 (0時00分～6時00分)	MP-1	2.9	2.4 ～ 4.2
令和8年3月26日 (0時00分～6時00分)	MP-1	2.9	2.4 ～ 4.2
令和8年3月30日 (18時00分～24時00分)	MP-1	2.9	2.4 ～ 4.2
	MP-5	2.6	2.4 ～ 4.6

3 推定原因

調査結果より、令和7年度第4四半期における β 濃度が、同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと及び同地点のダストモニタにおける浮遊じんの核種分析結果（機器分析）において人工放射性核種は検出されなかったこと等から、当発電所の影響によるものではなく、自然変動の可能性が考えられる。

以 上

参考資料 6 環境試料中の人工放射性核種濃度の経年変化

発電所周辺の環境放射線監視調査を開始した昭和 56 年度以降、過去に行われた大気中核実験の影響によって各環境試料中から検出された人工放射性核種濃度の推移は、昭和 61 年度に発生したチェルノブイリ原子力発電所事故直後に一時的な上昇が見られたものの、その後緩やかな低下傾向が見られていたが、平成 23 年 3 月 11 日に発生した福島第一原子力発電所の事故によって一部の環境試料で上昇が見られた。

これまでの各環境試料の経年変化及び令和 7 年度における人工放射性核種の検出状況の概要は以下のとおりである。また、参考までに直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差の範囲を各グラフの下部に記載する。相対誤差は、計数誤差を測定値で割ったもの。測定値のばらつきの大きさを表す。

なお、見やすさを考慮し、グラフ中への誤差棒の表示を省略する。また、グラフ中のプロットがない期間については、同核種が検出されていないことを示す。

1. セシウム 137

(1) 浮遊じん

令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

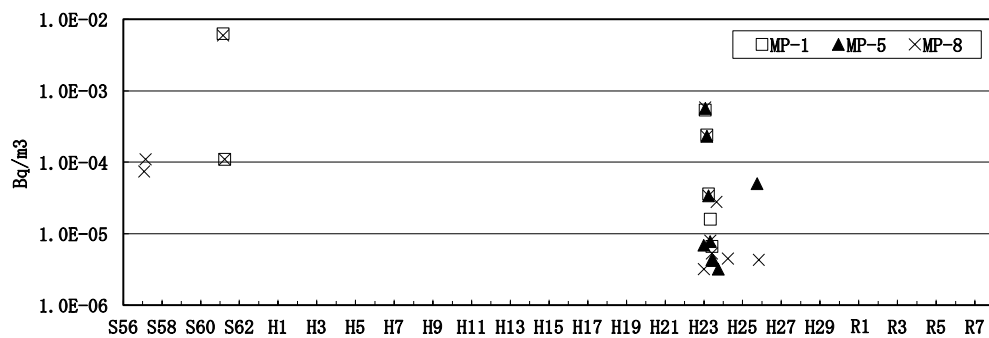


図 1 浮遊じん中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：－（R2～R7 年度が検出下限値未満のため）

(2) 飲料水

令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。



図 2 飲料水中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：－（R2～R7 年度が検出下限値未満のため）

(3) 土壌

令和 7 年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

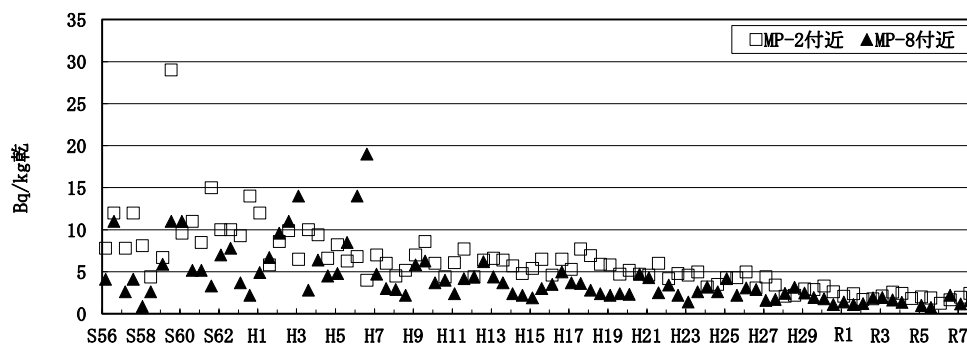


図 3 土壌中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差： $\pm 8\% \sim \pm 27\%$

(4) 精米

令和 7 年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

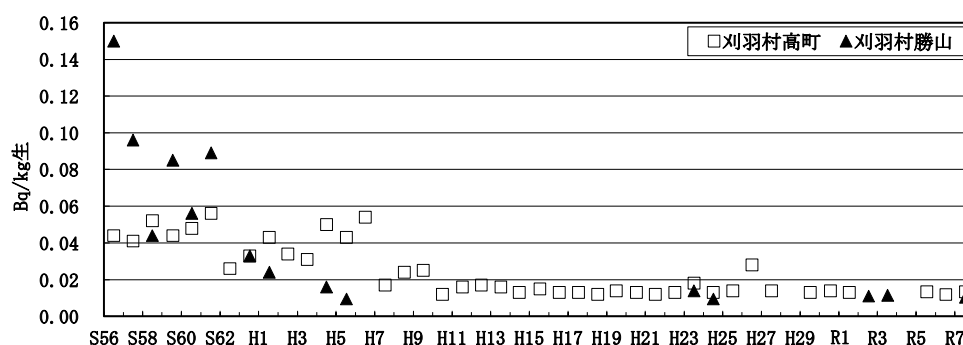


図 4 精米中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差： $\pm 23\% \sim \pm 31\%$

(5) キャベツ

令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

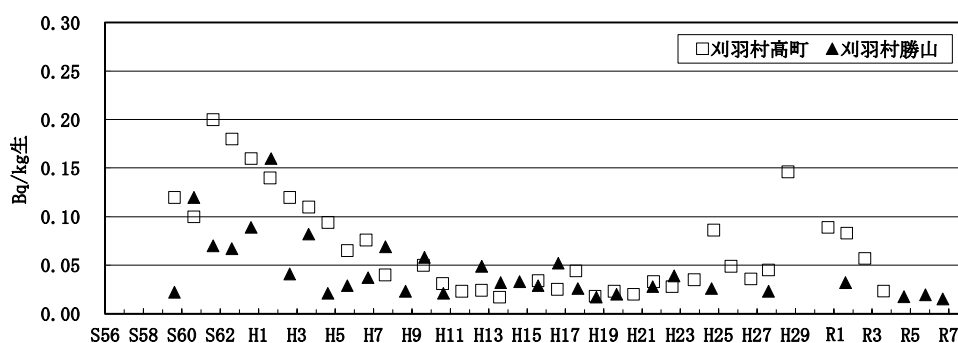


図 5 キャベツ中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差： $\pm 9\% \sim \pm 30\%$

(6) 大根

令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

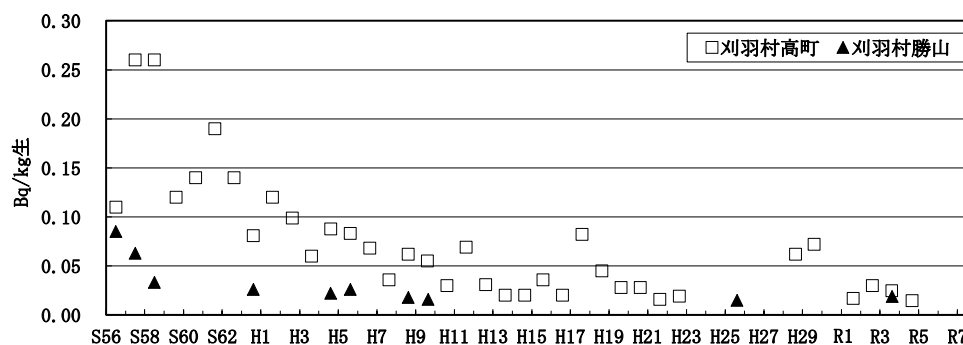


図 6 大根中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±16%～±32%

(7) 松葉

令和 7 年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

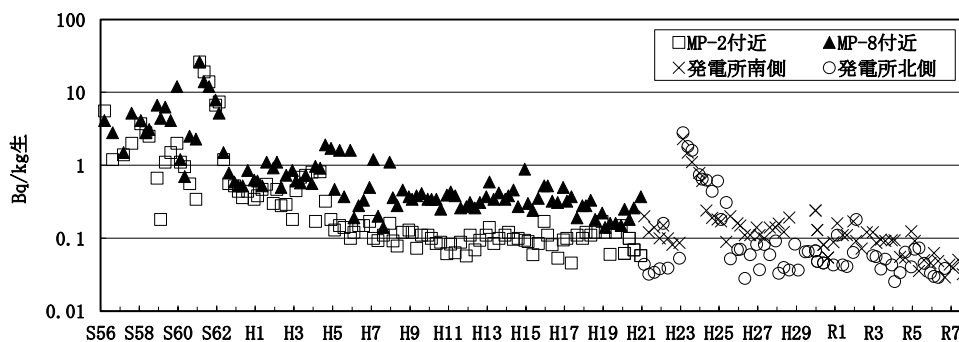


図 7 松葉中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：± 6 %～±33%

(8) 海水

令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

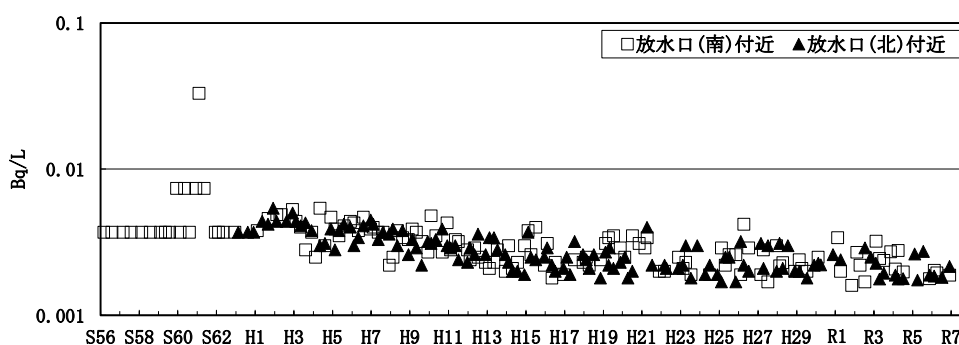


図 8 海水中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±18%～±33%

(9) 海底土

令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

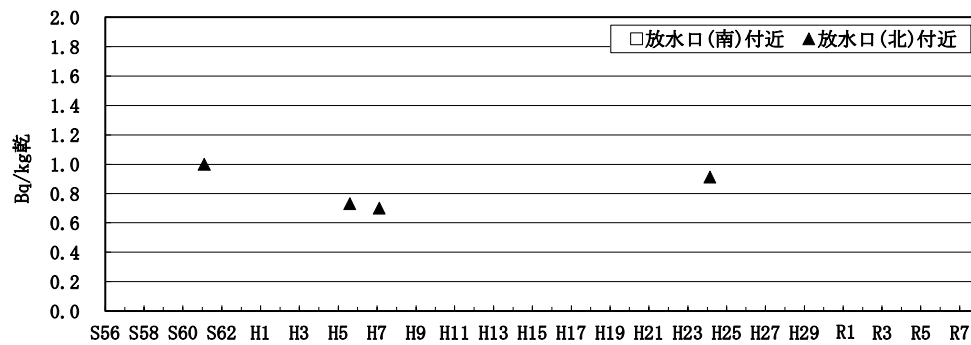


図 9 海底土中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：－（R2～R7 年度が検出下限値未満のため）

(10) 海産物

令和 7 年度に検出されたセシウム 137 は、マダイとヒラメについては各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。サザエとワカメについては令和 7 年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

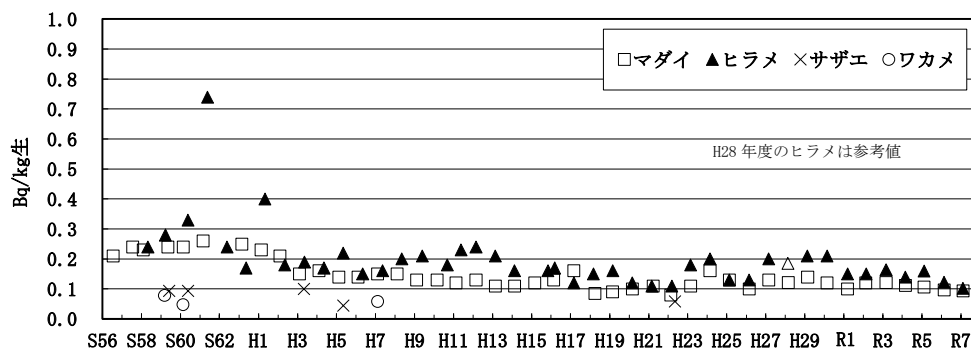


図10 海産物中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：± 7 %～±12%

(11) ホンダワラ類

令和 7 年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

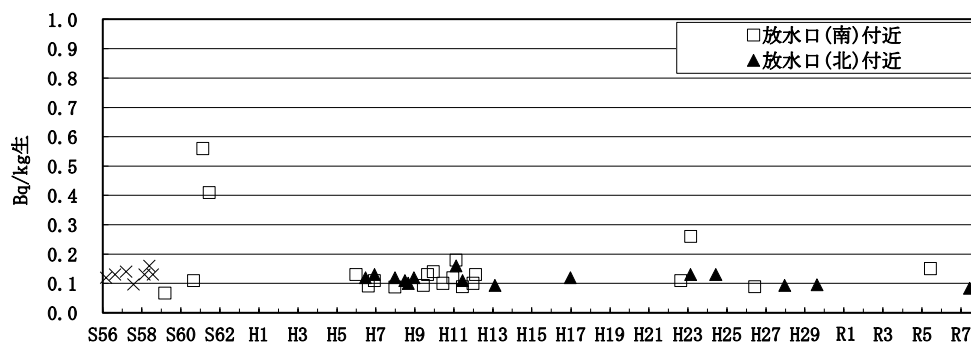


図11 ホンダワラ類中のCs-137濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±19%～±29%

2. ストロンチウム 90

(1) 飲料水

令和 7 年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間の測定値の範囲内であった。

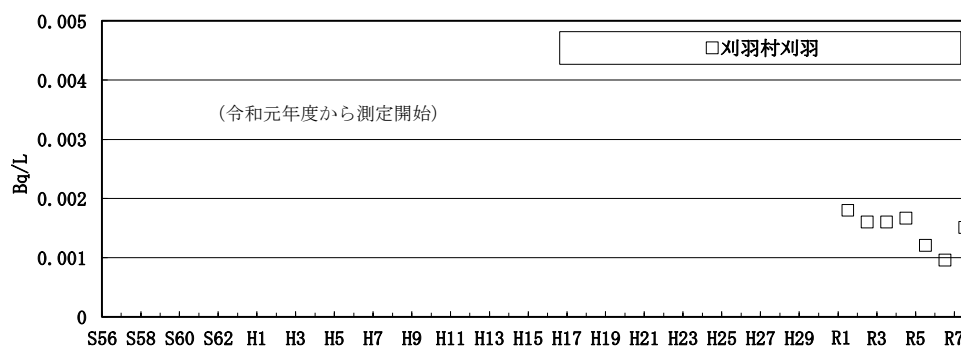


図12 飲料水中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：± 9 %～±12%

(2) 土壌

令和 7 年度にストロンチウム 90 は検出されなかった。

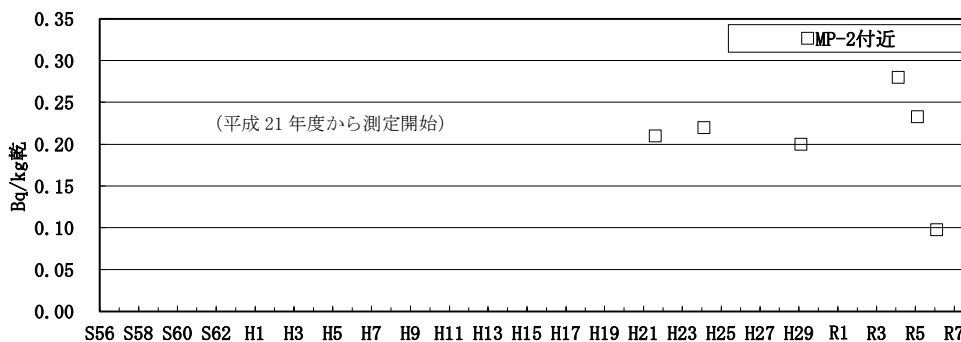


図13 土壌中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±25%～±29%

(3) 精米

令和 7 年度にストロンチウム 90 は検出されなかった。

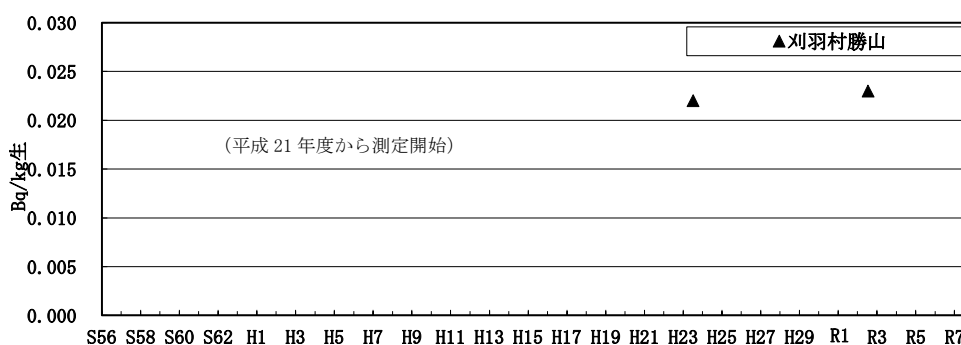


図14 精米中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±31%

(4) キャベツ

令和 7 年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

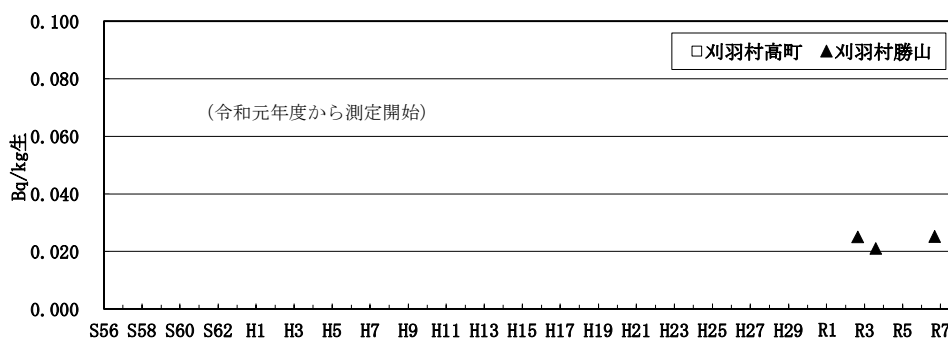


図15 キャベツ中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±12%～±33%

(5) 大根

令和 7 年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

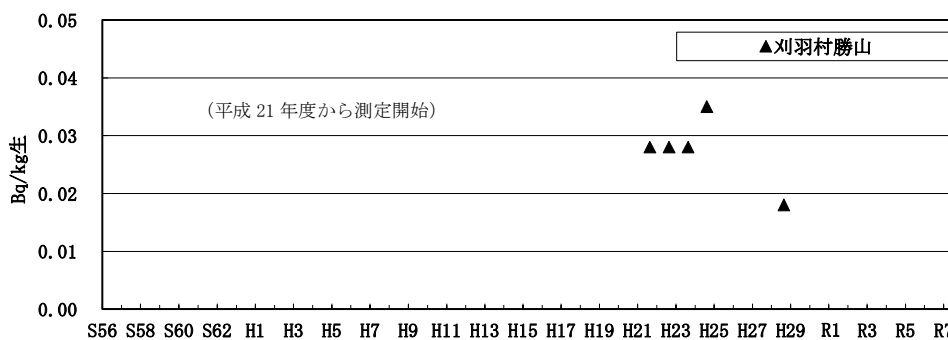


図16 大根中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±23%

(6) 海水

令和 7 年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間の測定値の範囲内であった。



図17 海水中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±18%～±23%

(7) 海産物

令和 7 年度にストロンチウム 90 は検出されなかった。

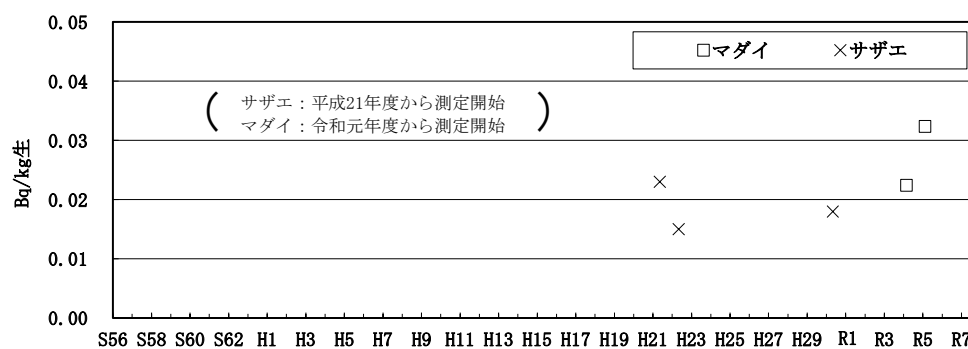


図18 海産物中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±23%～±29%

(8) ホンダワラ類

令和 7 年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間の測定値の範囲内であった。



図19 ホンダワラ類中のSr-90濃度の推移

直近 5 カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±16%～±28%

3. トリチウム

(1) 飲料水

令和7年度に検出されたトリチウムは、対照期間(直近)の測定値と同程度であった。

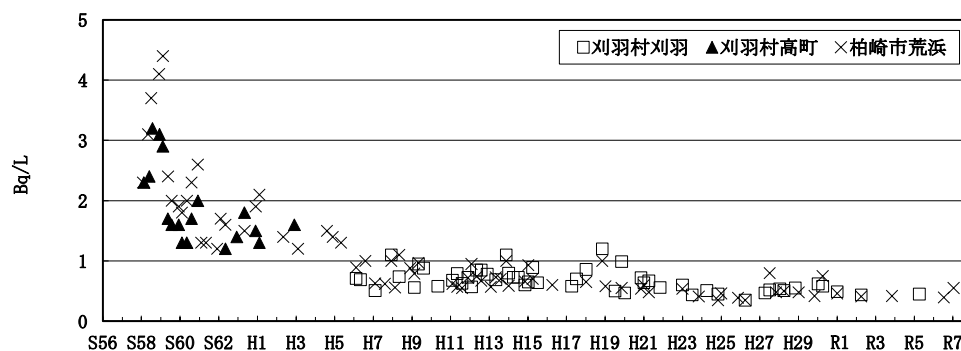


図20 飲料水中のH-3濃度の推移

直近5カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±25%～±33%

(2) 海水

令和7年度に検出されたトリチウムは、対照期間の測定値の範囲内であった。

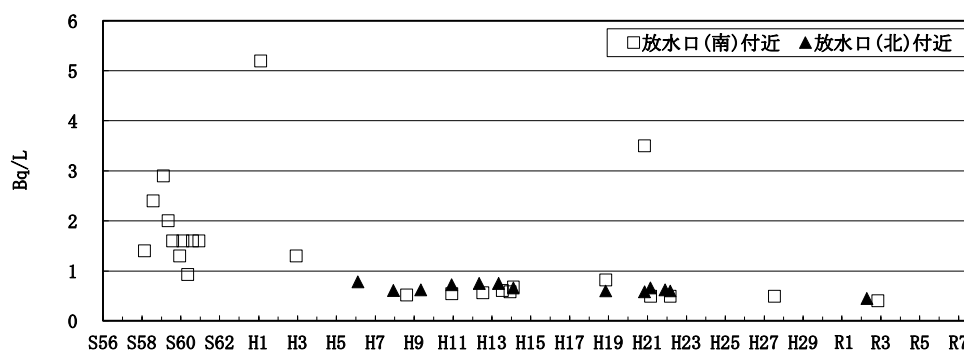


図21 海水中のH-3濃度の推移

直近5カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±27%～±33%